

平成24年度

大学院生による授業評価結果報告書
(後期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
6	広領域コア科目	30042100	子どもの規範意識の現状と課題	伴 恒信, 曾根 直人
7	広領域コア科目	30043100	コミュニケーションと言語・教育	原 卓志, 伊東 治己, 畑江 美佳
8	広領域コア科目	30046000	教師のための声とからだとことば	頃安 利秀, 余郷 裕次, 綿引 勝美
9	広領域コア科目	30047000	学校危機管理研究	阪根 健二
10	広領域コア科目	30048000	現代の諸課題と学校教育Ⅱ	小西 正雄
11	広領域コア科目	30049000	予防教育科学	佐々木 恵, 内田 香奈子
12	人間形成	30112000	近代教育文化史演習	梶井 一暁
13	人間形成	30114000	教育哲学演習	木内 陽一
14	人間形成	30115000	教育認知心理学演習	皆川 直凡
15	臨床心理士養成	30427000	臨床心理学演習	今田 雄三, 葛西 真記子, 吉井 健治, 中津 郁子, 小倉 正義, 久米 禎子, 新見 員子
16	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	佐藤 亨
17	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	葛西 真記子
18	臨床心理士養成	30445000	臨床心理面接研究Ⅰ	中津 郁子, 久米 禎子
19	臨床心理士養成	30447000	学校精神保健学演習	今田 雄三
20	臨床心理士養成	30451000	臨床心理学統計法	田中 秀紀
21	幼年発達支援	30514000	幼年期福祉演習	木村 直子
22	幼年発達支援	30523000	幼年期教育学演習	湯地 宏樹
23	幼年発達支援	30525000	幼年発達と幼児教育内容論演習	塩路 晶子
24	現代教育課題総合	30634000	現代教育人間論	谷村 千絵, 近森 憲助, 太田 直也, 田村 和之
25	現代教育課題総合	30644100	情報教育特論Ⅰ (教育情報人間論)	谷村 千絵
26	現代教育課題総合	30645100	情報教育特論Ⅱ (教材・授業開発論)	藤村 裕一
27	現代教育課題総合	30648100	環境教育特論Ⅰ (教材開発)	田村 和之, 近森 憲助
28	現代教育課題総合	30650100	環境教育特論Ⅲ (実践)	田村 和之, 近森 憲助
29	特別支援教育	31152000	社会資源開発運用・連携論	井上 とも子
30	特別支援教育	31162000	特別支援教育課程特論演習	八幡 ゆかり

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
31	特別支援教育	31163000	特別支援教育指導特論演習	大谷 博俊
32	特別支援教育	31165000	特別支援教育臨床支援技法演習	高原 光恵
33	特別支援教育	31167000	特別支援教育学習支援演習	島田 恭仁
34	特別支援教育	31169000	発達障害児支援医学演習	津田 芳見
35	特別支援教育	31170000	発達障害児神経学演習	田中 淳一
36	言語系	32139000	日本事情・日本文化	小野 由美子
37	言語系	32142000	日本語Ⅲ	田中 大輝
38	言語系	32145000	日本古典語演習	原 卓志
39	言語系	32147000	現代日本語演習	茂木 俊伸
40	言語系	32151000	日本文学演習Ⅱ	小島 明子
41	言語系	32157000	日本語教育学演習	小野 由美子
42	言語系	32160000	日本語文法演習	田中 大輝
43	言語系	32162000	日本語語彙論	田中 大輝
44	言語系	32173000	国語科教育学研究	村井 万里子
45	言語系	32174000	国語科教育学演習	村井 万里子
46	言語系	32176000	国語科授業演習	幾田 伸司
47	言語系	32180000	国語科教材開発演習	余郷 裕次
48	言語系	32184000	日本語教育法演習	小野 由美子
49	言語系	32217000	英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）	杉浦 裕子
50	言語系	32219000	英米文学応用演習Ⅰ	前田 一平
51	言語系	32221000	学習英文法演習Ⅰ	眞野 美穂
52	言語系	32279000	英語科教育演習Ⅰ	伊東 治己
53	言語系	32280000	英語科教育演習Ⅱ	山森 直人
54	言語系	32281000	英語科教育演習Ⅲ	畑江 美佳
55	社会系	33139000	地理学実習	木原克司, 立岡 裕士

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
56	社会系	33158100	歴史学研究Ⅰ	西尾 和美
57	社会系	33158200	歴史学演習Ⅰ	大石 雅章
58	社会系	33158400	歴史学演習Ⅱ	町田 哲
59	社会系	33158600	歴史学演習Ⅲ	原田 昌博
60	社会系	33158900	地理学研究Ⅱ	立岡 裕士
61	社会系	33159400	法学・政治学演習	麻生 多聞
62	社会系	33173000	社会科授業研究	伊藤 直之
63	社会系	33180000	社会科教材開発演習Ⅲ（公民領域）	井上 奈穂
64	自然系	34127000	幾何学研究	松岡 隆
65	自然系	34128000	幾何学演習	松岡 隆
66	自然系	34129000	解析学研究	成川 公昭
67	自然系	34130000	解析学演習	成川 公昭
68	自然系	34173000	数学科教育学演習	服部 勝憲
69	自然系	34174000	数学科授業研究	佐伯 昭彦
70	自然系	34176000	数学科教材開発演習	秋田 美代
71	自然系	34214000	原子物理学特論	粟田 高明, 寺島 幸生
72	自然系	34218000	物理化学特論	武田 清
73	自然系	34224100	生物科学特論Ⅰ	米澤義彦, 佐藤 勝幸
74	自然系	34232000	地学実験法特論	小澤 大成, 村田 守, 香西 武
75	自然系	34271000	理科教育学研究	佐藤 勝幸, 早藤 幸隆, 香西 武, 寺島 幸生
76	自然系	34273000	理科教材開発研究Ⅰ（物質とエネルギー）	本田 亮, 胸組 虎胤, 寺島 幸生
77	芸術系	35114000	歌唱表現演習	頃安 利秀
78	芸術系	35122000	ソルフェージュ研究	山田 啓明
79	芸術系	35127000	室内楽（器楽）	森 正, 山根 秀憲
80	芸術系	35132000	作曲法基礎演習	松岡 貴史

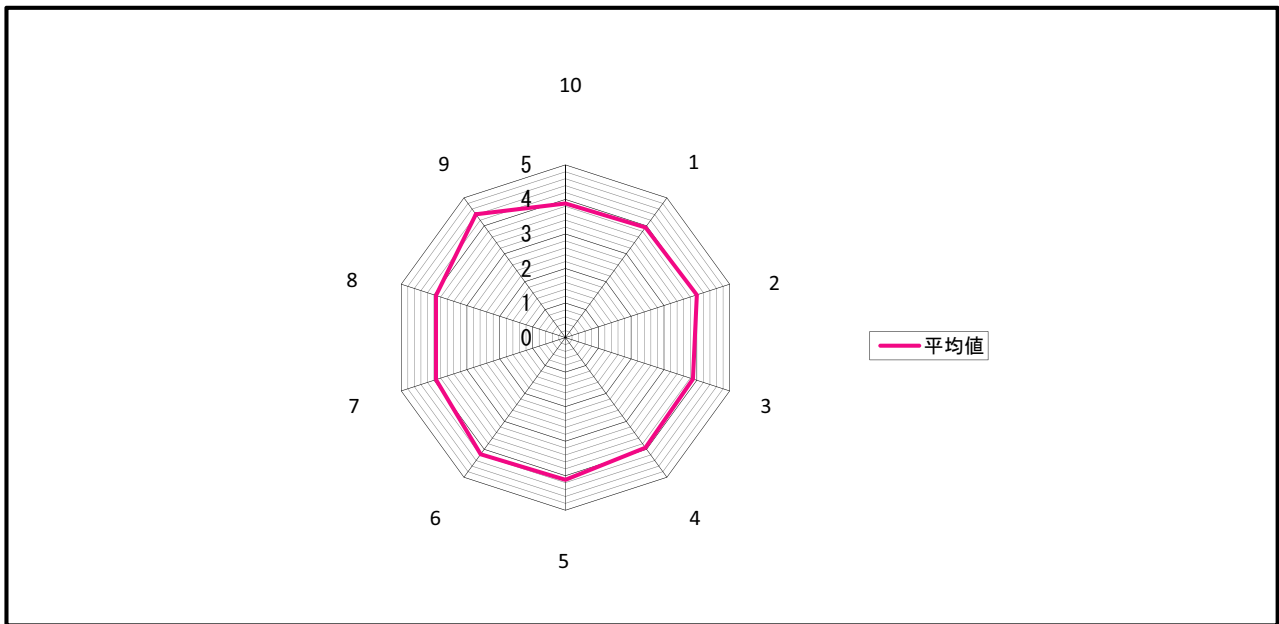
頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
81	芸術系	35212000	油画制作演習	鈴木 久人
82	芸術系	35215000	彫刻制作研究	野崎 窮
83	芸術系	35218000	デザイン制作研究	内藤 隆
84	芸術系	35220000	映像デザイン演習	内藤 隆
85	芸術系	35221000	工芸制作研究	栗原 慶
86	芸術系	35228000	芸術学演習	小川 勝
87	芸術系	35272000	美術科教育学研究	山田 芳明
88	生活・健康系	36118000	学校体育経営演習	藤田 雅文
89	生活・健康系	36126000	スポーツ・トレーニング演習	南 隆尚
90	生活・健康系	36130000	学校保健学演習	吉本 佐雅子
91	生活・健康系	36132000	健康科学演習	廣瀬 政雄
92	生活・健康系	36212100	情報技術演習	菊地 章
93	生活・健康系	36225000	画像情報処理研究	伊藤 陽介
94	生活・健康系	36226000	プログラミング演習	林 秀彦
95	生活・健康系	36228000	デジタル制御研究	菊地 章
96	生活・健康系	36229000	情報応用演習	曾根 直人
97	生活・健康系	36230000	コンピュータ科学演習	宮本 賢治
98	生活・健康系	36272000	技術科教育演習	尾崎 士郎, 宮下 晃一
99	生活・健康系	36316000	衣生活学演習	福井 典代
100	生活・健康系	36318000	食生活学演習	前田 英雄, 西川 和孝
101	生活・健康系	36372000	家庭科教育学演習	速水 多佳子
102	生活・健康系	36376000	家庭科授業・教材開発研究	前田 英雄, 福井 典代, 渡邊 廣二
103	国際教育	37135000	国際教育協力特論Ⅱ	小澤 大成, 近森 憲助
104	国際教育	37182000	国際理解教育特論Ⅱ	近森 憲助, 小澤 大成
105	国際教育	37185000	国際教育総合セミナーⅡ	近森 憲助, 石村 雅雄, 小澤 大成, 石坂 広樹

結果報告書

授業科目名 子どもの規範意識の現状と課題
 評価実施日 平成25年1月30日
 担当教員名 伴 恒信, 曾根 直人

回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	8	2	2		3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	8	3	1		4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	4	2		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	6	4		1	3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	8	2	1		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	5	3	1		4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	4	4	2		3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	6	3	2		3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	6	2			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	5	2	2	1	3.9



教員のコメント

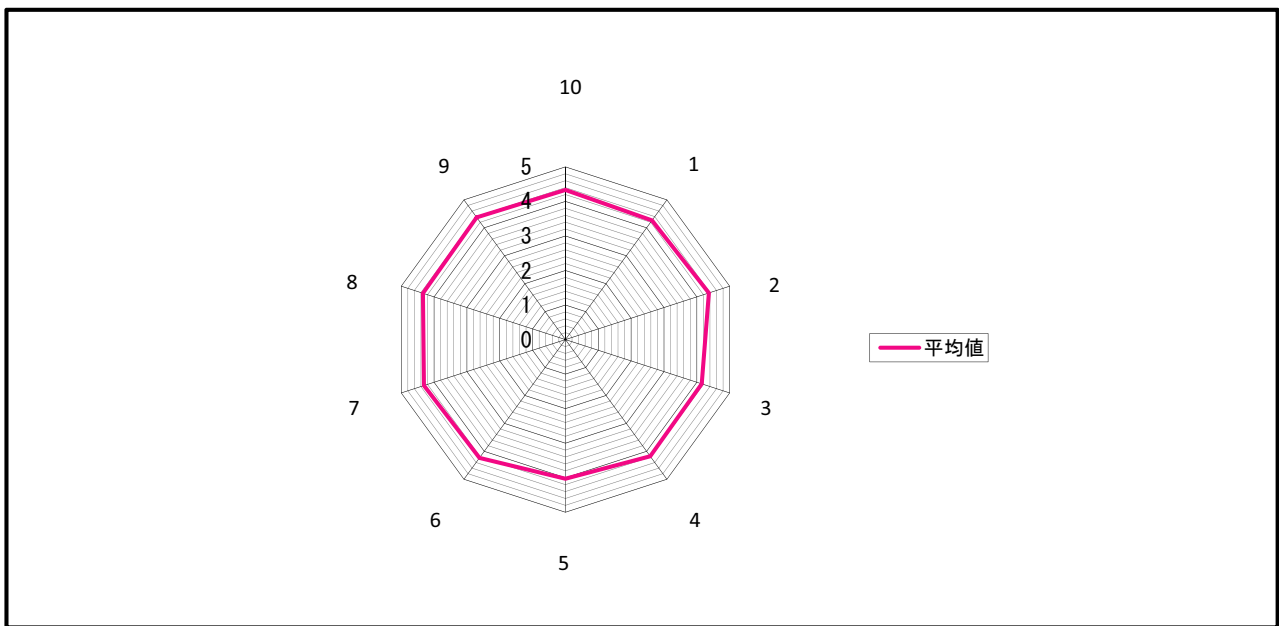
講義全体の評価としては、5段階評価で5を選んだ者が7名、4が5名と、良い評価を与えていた者が17名中12名であった。ただ平成24年度の受講者にはこれまでになく中国の留学生が6名と多く、日本語でのコミュニケーションが困難であったため予定していたKJ法の実践討議を実施しなかった。それを期待していた受講者には、「KJ法を実践的に行うときいてこの講義をとったのだが、実際はほとんどやらず残念でした。」など失望を与えたようである。講義形式が増えた分、「いろいろ外国の教育動向を聞いて、子どもの規範意識について問題点や解決方法などを分かるようになった」と良く考える者が多かった一方、上述のような最初から実践を期待している者もいて、受講者の特質や人数と併せて広領域コア科目を運営することの難しさを感じた。(伴)

情報モラル、特に最近利用者が増えるに従い問題も発生しているSNSの利用時におけるガイドラインを作成する活動を実施した。ただし、授業の担当が前半だったこともあり、評価のコメントでは特に情報モラル部分に関するコメントがなかった。ICT環境は日々変化しており、新しい問題も発生しているため、必ずしも計画通りの内容にならない場合もあるが、タイムリーな話題を扱うことで興味をもって受講していると考えられる。(曾根)

結果報告書

授業科目名 コミュニケーションと言語・教育
 評価実施日 平成25年2月20日
 担当教員名 原 卓志, 伊東 治己, 畑江 美佳
回答者数 68 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	31	27	8	1	1	4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	25	7		1	4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	32	17	15	2	1	4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	27	30	8	2	1	4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	30	20	12	2	4	4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	37	14	14	2	1	4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	36	19	12		1	4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	38	19	8	2	1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	35	25	5	1	1	4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	34	23	7	1	1	4.3



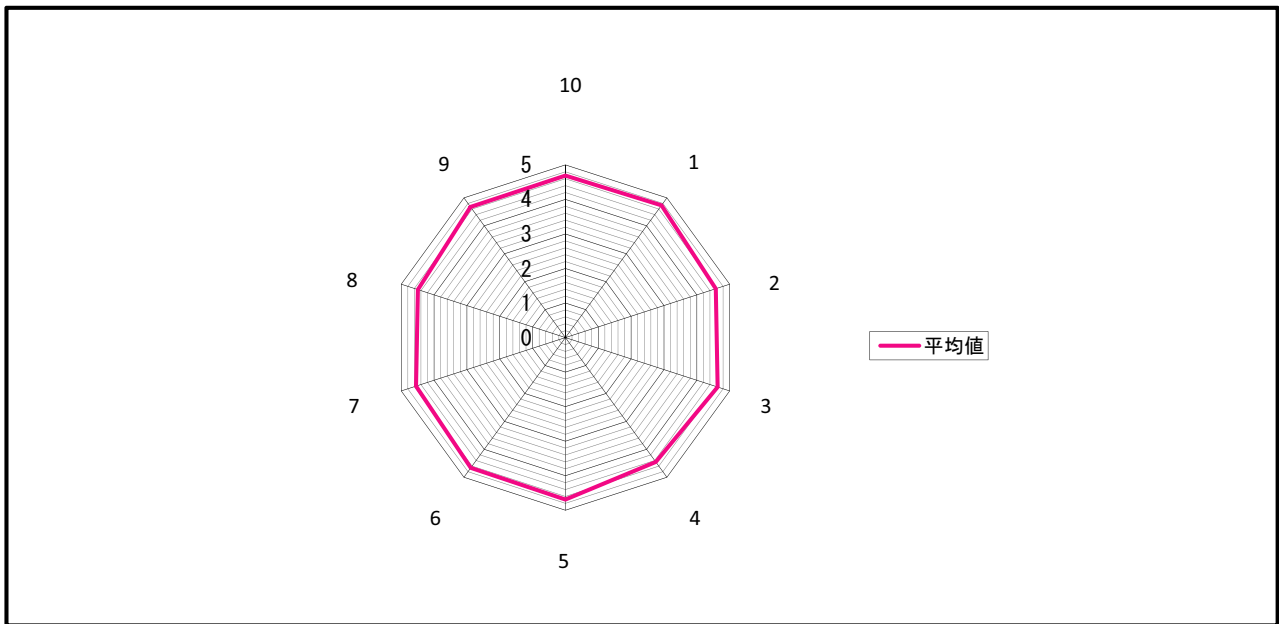
教員のコメント

コミュニケーション能力の基礎能力としての言語について考察することを通して、コミュニケーション能力育成のための手がかりを与えるとともに、異文化間コミュニケーションに焦点を当てながら異文化理解と自文化理解について、さらに言語と国家、言語と教育など、多岐にわたる話題を提供し、コミュニケーションと言語、コミュニケーションと教育に関わる問題について考えるヒントを受講生に与えることを目指した。受講生も熱心に参加し、特に留学生との意見交換は新鮮であった。受講生の評価(総合評価が4.3)から判断する限り、授業の目標は概ね達成できたものと判断できる。具体的には、「三人の先生方が違った側面からコミュニケーションを語ってくれた点」、「学生との対話を作りながら授業を進めてくださった点」、「事例を示しながら分かりやすく説明してくださった点」、「考える活動、話し合う活動を多くとりいれてくださった点」などが受講生に評価されていたようである。また、「コミュニケーションにおいて言葉の選び方、用い方が重要であると再認識できた」、「国際社会では言語についてしっかり考える必要があり、考え直さなければならないと理解できた」など、好意的なコメントが寄せられた反面、授業の回数が多すぎた、授業の進度が早すぎた、ノートを取る時間を確保してほしいなど、授業の進め方について辛口のコメトも寄せられた。受講生から寄せられたこれらの意見を斟酌しながら、教師の実践力を高めることにどう発展させていくかを今後の課題として授業改善に取り組みたい。(原・畑江・伊東)

結果報告書

授業科目名 教師のための声とからだことば
 評価実施日 平成25年2月19日
 担当教員名 頃安 利秀, 余郷 裕次, 綿引 勝美 回答者数 71 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	54	15	2			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	49	17	3	1	1	4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	53	12	4	2		4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	40	24	6	1		4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	53	14	4			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	49	20	2			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	45	20	6			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	43	20	8			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	52	15	4			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	52	16	3			4.7



教員のコメント

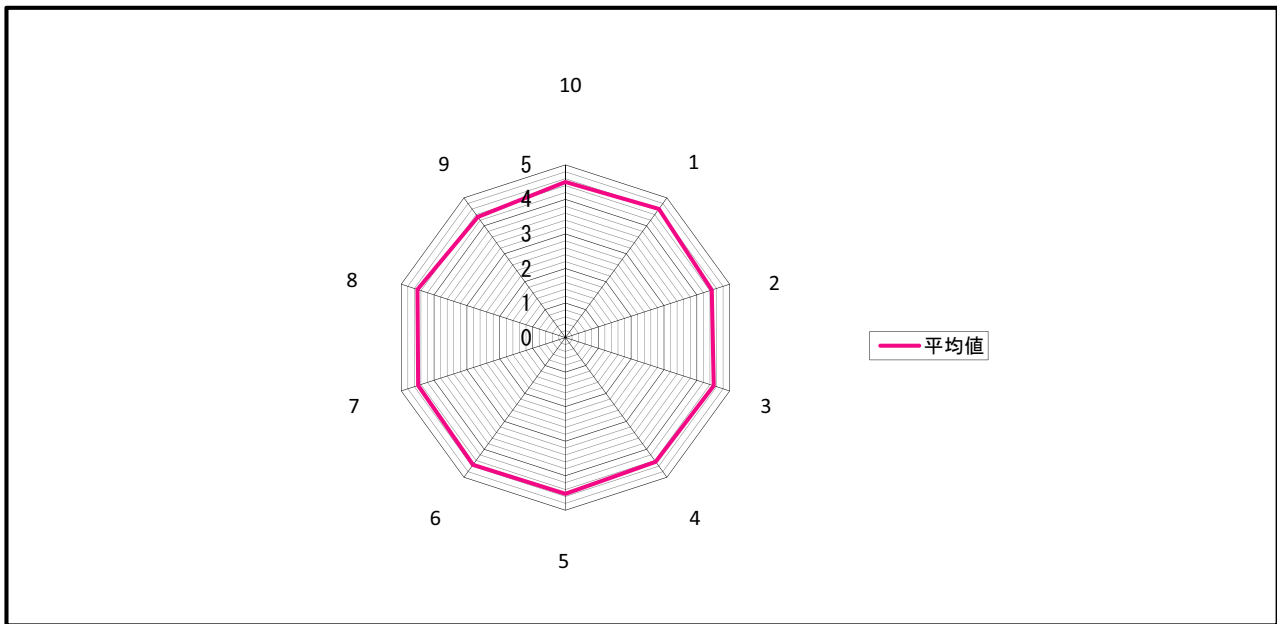
広領域コア科目として行われている「教師のためのこえとからだことば」は、国語・音楽・体育の教員が分担して担当している。各教員とも授業内容として実技的な要素を含ませているので、(7)(8)については授業ごとに異なっていたため、4.5という多少低い評価として現れたものと考えている。(4)の成績評価についても、各教員ごとの評価の方法の違いについての説明が十分にできなかった結果、4.5という、これも若干低い評価になったものだと考えられる。しかしながら、総合評価として4.7という高い評価が得られており、専門を異にする大学院生全体に対応した広領域コア科目としては、十分な成果が得られたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 学校危機管理研究
 評価実施日 平成25年2月6日
 担当教員名 阪根 健二

回答者数 101 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	70	23	7	1		4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	65	23	8	4	1	4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	63	30	5	3		4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	60	30	8	2	1	4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	61	33	6	1		4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	69	23	5	4		4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	61	30	8	2		4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	61	31	8	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	45	46	8	1	1	4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	66	25	6	3	1	4.5



教員のコメント

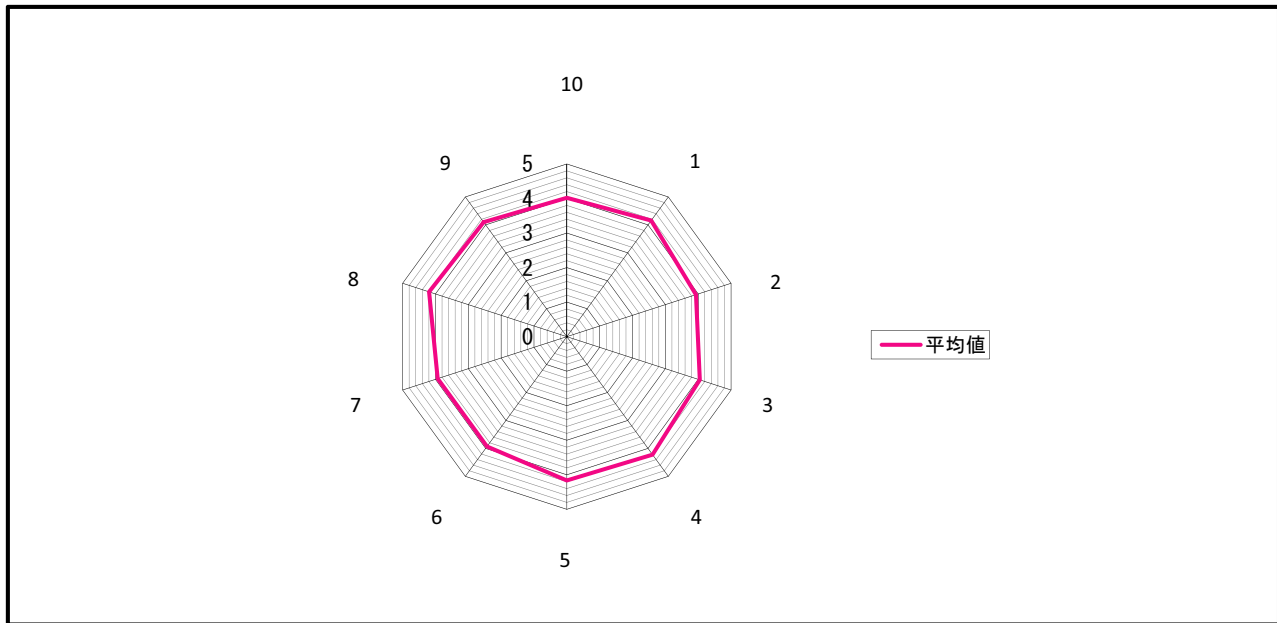
総合的に高い評価を得たものと思われる。特に、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」「(6)受講生に分かりやすく説明した」は、4.6であり、表現や説明の観点で評価を得たものと思われる。一方で、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」が、4.3であり、学生の意欲や主体性において、課題が残った。また、自由記述では「学校の危機管理について、新たな知見を得た」という前向きな回答がほとんどだったが、「教員の主観性が強い授業ではなかったか」という苦言もあり、大いに参考になる。今後、一層授業改善に取り組んでいきたい。

結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育Ⅱ
 評価実施日 平成25年2月12日
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 103 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	56	26	8	7	6	4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	47	25	17	5	9	3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	51	26	14	4	8	4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	57	28	9	2	7	4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	55	28	9	4	7	4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	44	32	12	6	9	3.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	50	24	11	8	10	3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	56	28	8	5	6	4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	51	29	12	4	7	4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	55	19	14	6	9	4.0



教員のコメント

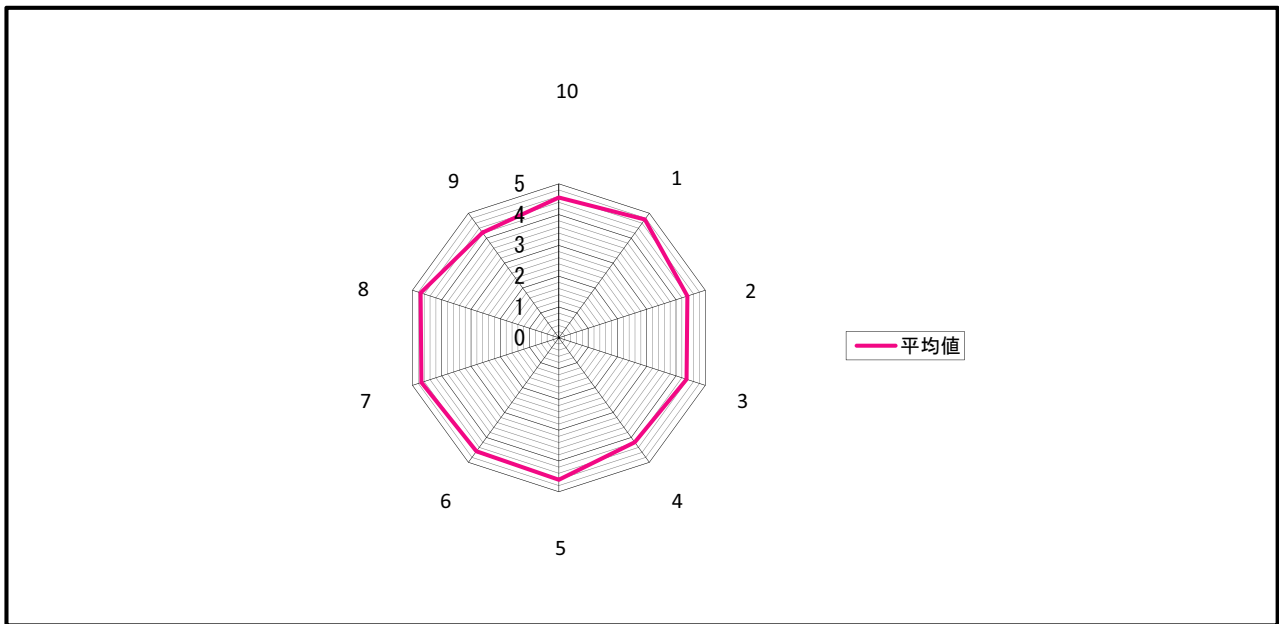
今回はこれまでよりも評価は一般によくはない。十分に予想されたことである。後期火曜日2時間目には3つの選択必修科目が設定されているが、そのうち他の2つが履修制限を行ったため、講義開始後に心ならずも本講義を受講せざるをえなくなった学生が相当数流入する事態となった。その割合は受講生のおよそ半数である。そのため、講義の趣旨に対する十分な理解を得られないまま「見切り発車状態」で講義を進めた。想定外の大人数であるため、当然のことながら講義自体の進行や評価についても不正常的な状況を余儀なくされた。そのようななかで平均4.0の評価を得たのはありがたい一言に尽きる。

結果報告書

授業科目名 予防教育科学
 評価実施日 平成25年2月5日
 担当教員名 佐々木 恵, 内田 香奈子

回答者数 36 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	30	4	1	1		4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	9	1	1	2	4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	20	12	2	1	1	4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	15	14	6	1		4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	22	14				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	24	9	2	1		4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	27	7	2			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	26	10				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	15	5	1		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	24	10	1		1	4.6



教員のコメント

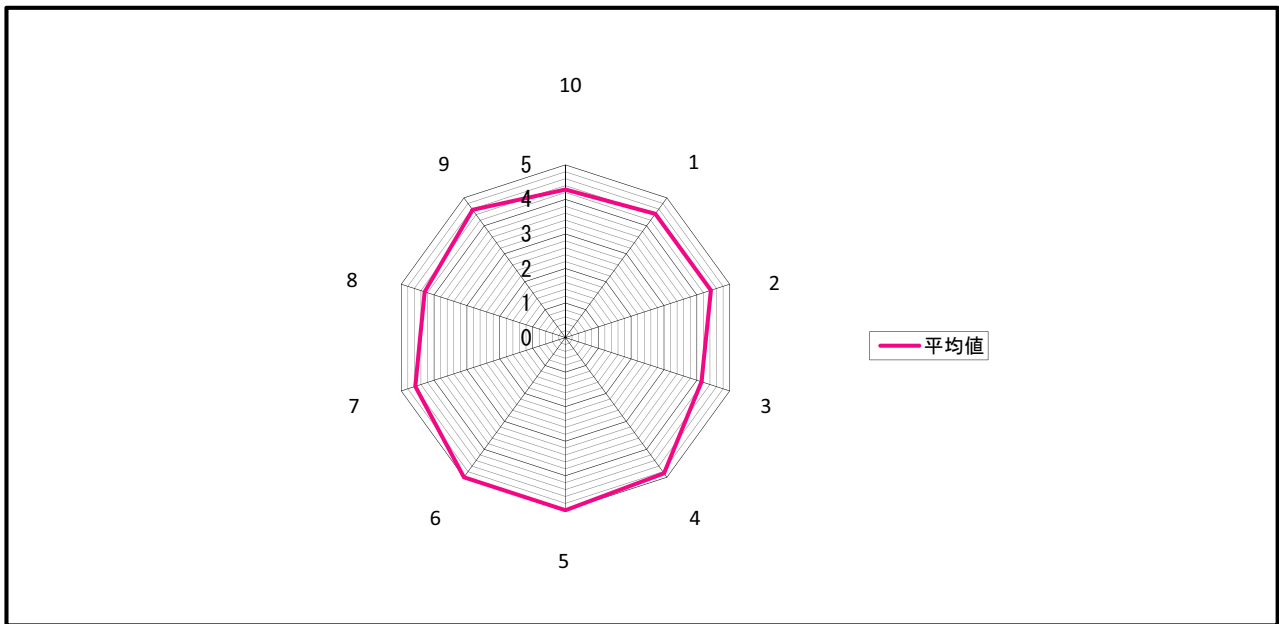
本授業は、文部科学省「学校において子どもの適応と健康を守る予防教育開発・実践的応用研究事業」の一貫として開講された授業科目であり、大学院では今回で2度目の開講となる。
 総合評価として4.6の評価となり、昨年度の4.0の評価結果と比較すると、様々な点において改善を試みた点が評価されたものと考えられる。例えば、昨年度は理論面の解説がやや難解との意見があった。そこで、内容についてより理解が得られるよう、配付資料、ならびに説明等に配慮を行った点などが評価されたものと考えられる。また、本授業では履修制限を行い、小中学校での授業実習を取り入れているが、大変好評であった。
 ただし、例えば(4)成績評価の方法の説明については若干数値が低く、説明が不十分であった感も否めない。また、履修制限を行う際の抽選方法についても事前に抽選を行ってほしいとの意見が若干数みられた。次年度はこれらの点について、改善につとめたい。

結果報告書

授業科目名 近代教育文化史演習
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 梶井 一暁

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	2			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1	2			4.3



教員のコメント

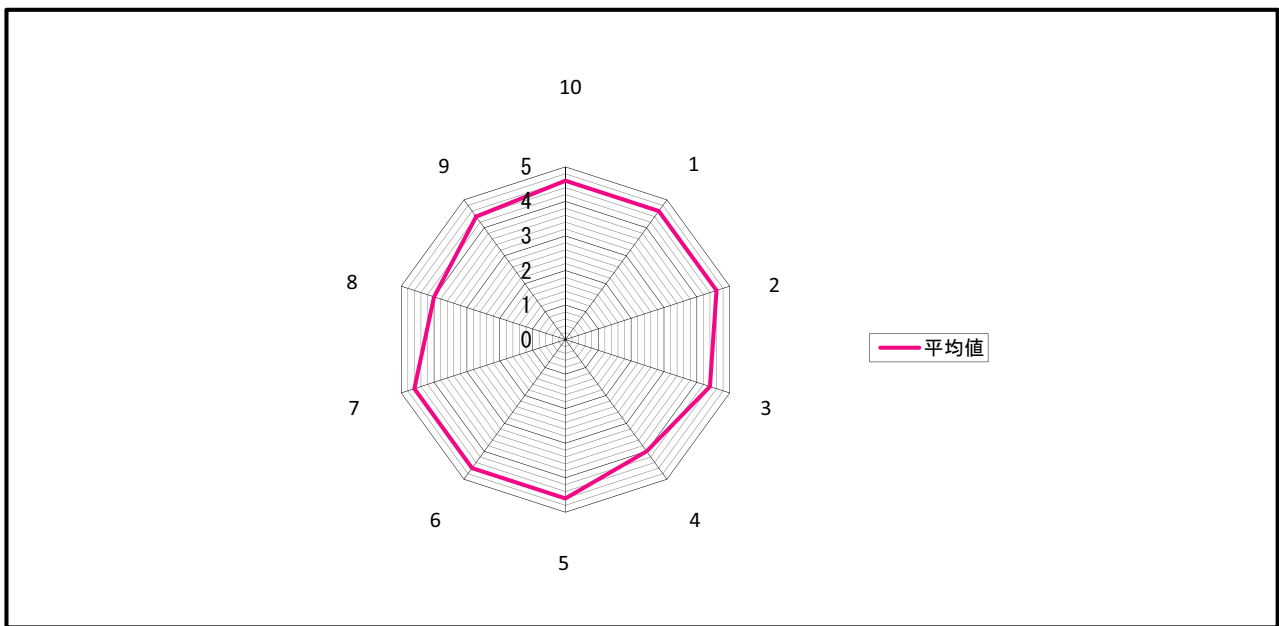
受講者においておおむね満足を得られる授業であったと理解される。
 授業の速さ(5)や分かりやすい説明(6)は、演習型の小規模授業の形態に恵まれ、対話や意見交換、思考の促しなどを積極展開できたことの成果だと思われる。次年度にもつなげたい。
 レジюмеと口頭の議論を中心に進め、板書(8)はあくまでもメモ的・関心喚起的に利用したが、授業者と受講者のあいだで板書使用の意図に若干のずれがあったかもしれない。構造的な板書はもとより意図しておらず、そのままノートにうつしてもたぶん明確な意味をなさない。授業で案内しているが、受講者が選択的・主体的に板書を受容する必要がある。大学院の演習授業とはいえ、受講者をもっと親切でやさしい板書を望んでいるということかとも思う。
 教師の実践力の育成(3)は、歴史研究の成果を基盤に成立している授業であるという専門性を考慮しながら、教育実践学とは何か、今後考えていくべき課題だと考えている。
 引き続き、授業改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名 教育哲学演習
 評価実施日 平成25年2月14日
 担当教員名 木内 陽一

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1			1	4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	3	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



教員のコメント

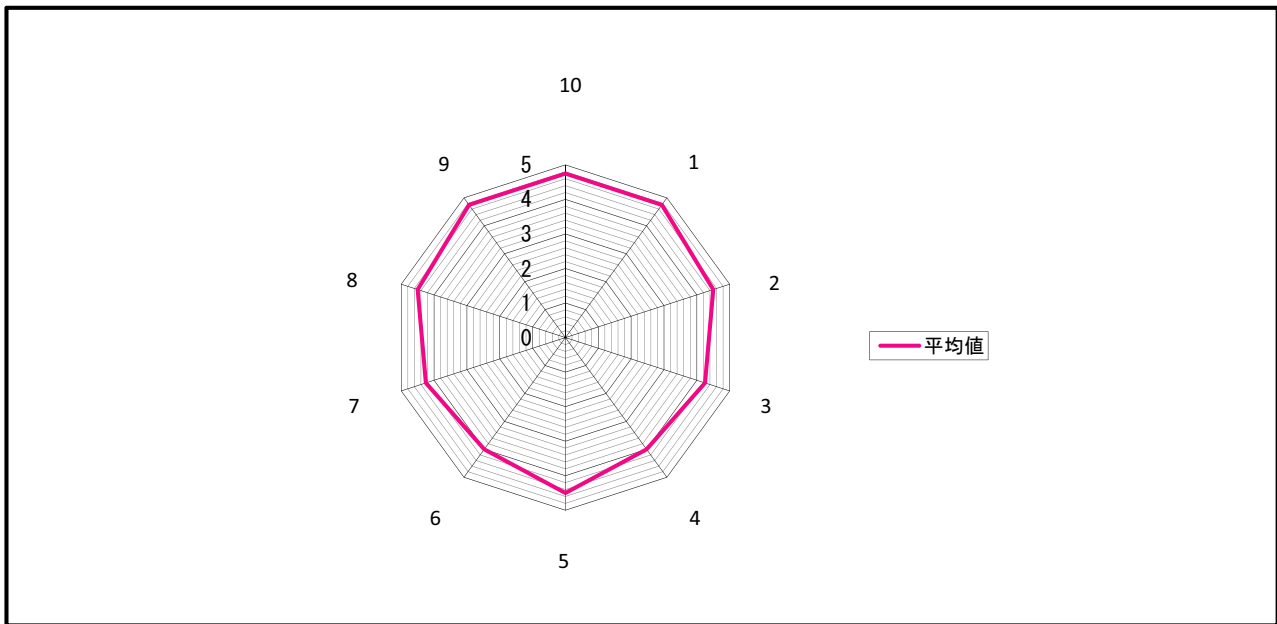
平成24年度は、前期に読み始めた西田幾多郎『善の研究』を読み終えることが出来なかったため、後期の演習でも引き続いて同書と取り組んで、読み終えることが出来た。総合評価が4.6であることは、受講生が哲学書一冊を通読するという、おそらく人生最初の経験して、強い達成感を持ったことを表していると思う。本書は税込みで1,155円であるが、これだけ投資した甲斐があった、と表現した受講生があった。質問項目(3)実践力との関連についての評価4.4は高すぎるであろう。なぜなら、本書で学んだことを生かせるか否かは、今後の教師としての生き方次第なのだから。(4)成績評価の仕方であるが、哲学・思想系演習の成績「評価」は難しいと思う。受講生に作成してもらう発表レジュメに対してコメントし、次の発表レジュメがよりよいものになるように導くことが、担当教員の任務であると思うが、それを「適切」に「説明」する「方法」については、更に熟考したい。本演習では、視聴覚機器は使用せず、ごく稀に、重要用語を「受講生に」板書してもらい、筆順の誤りを正した。平均値4.0と言う相対的に低い評価は、このような事情に起因するだろう。少数精鋭の和気あいの演習であったが、一番楽しんだのは木内であったらう。

結果報告書

授業科目名 教育認知心理学演習
 評価実施日 平成25年2月12日
 担当教員名 皆川 直凡

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		2			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		2			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



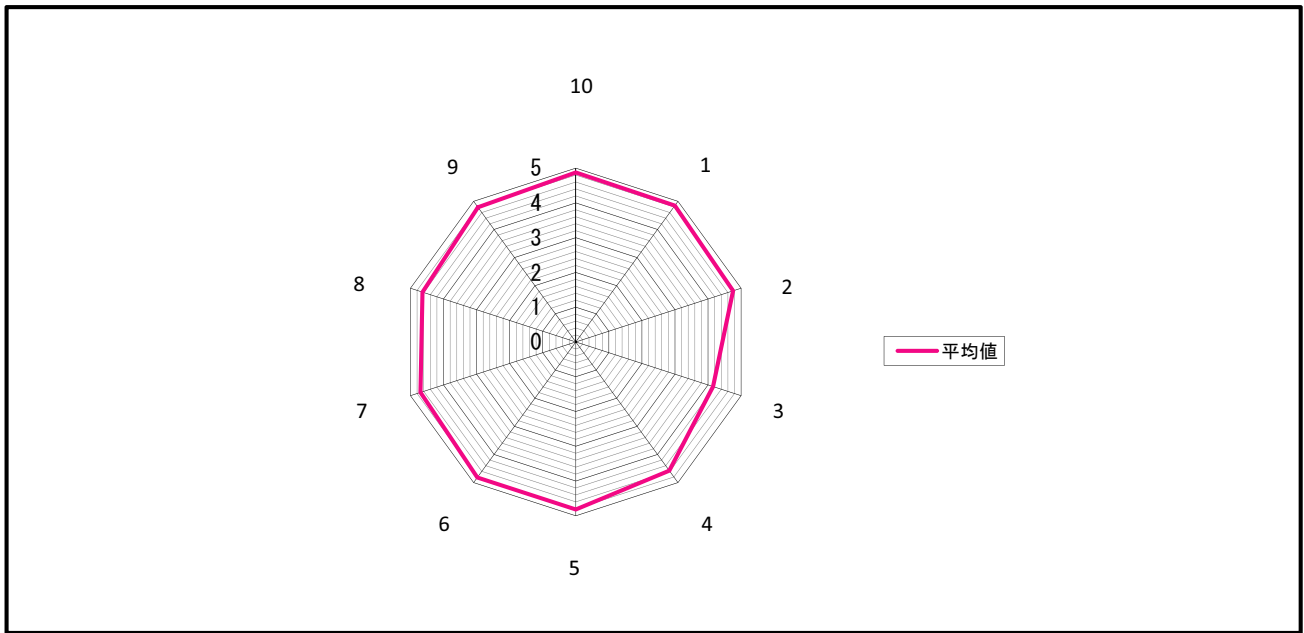
教員のコメント

本授業に対する総合評価は平均値が4.8、評価5を選択した回答者が75%、評価4を選択した回答者が25%であり、良好であったと言える。個別項目で評価がやや低かったのは、項目(4)と(6)であり、それでも平均値は4.0と比較的高水準であったが、両項目とも評価5の選択者と評価3の選択者が50%ずつと、評価が分かれた。因みに、総合評価を4とした受講者1名は、5つの項目において、評価を3としていた。本科目は高い水準に目標をおく専門科目であり、すべての受講者の要望に応えることは難しいが、専門科目としての質を落とさないことを最優先に、できるかぎり多くの受講者のニーズにも応えられるよう努力したいと考える。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学演習
 評価実施日 平成25年2月28日
 担当教員名 今田 雄三, 葛西 真紀子, 吉井 健治, 中津 郁子, 小倉 正義, 久米 禎子, 新見 員子 回答者数 33 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	29	3	1			4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	28	2	3			4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	19	5	5	3	1	4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	23	8	1		1	4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	28	4	1			4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	28	4	1			4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	27	4	1		1	4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	26	4	2		1	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	3	2			4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	29	2	1		1	4.9



教員のコメント

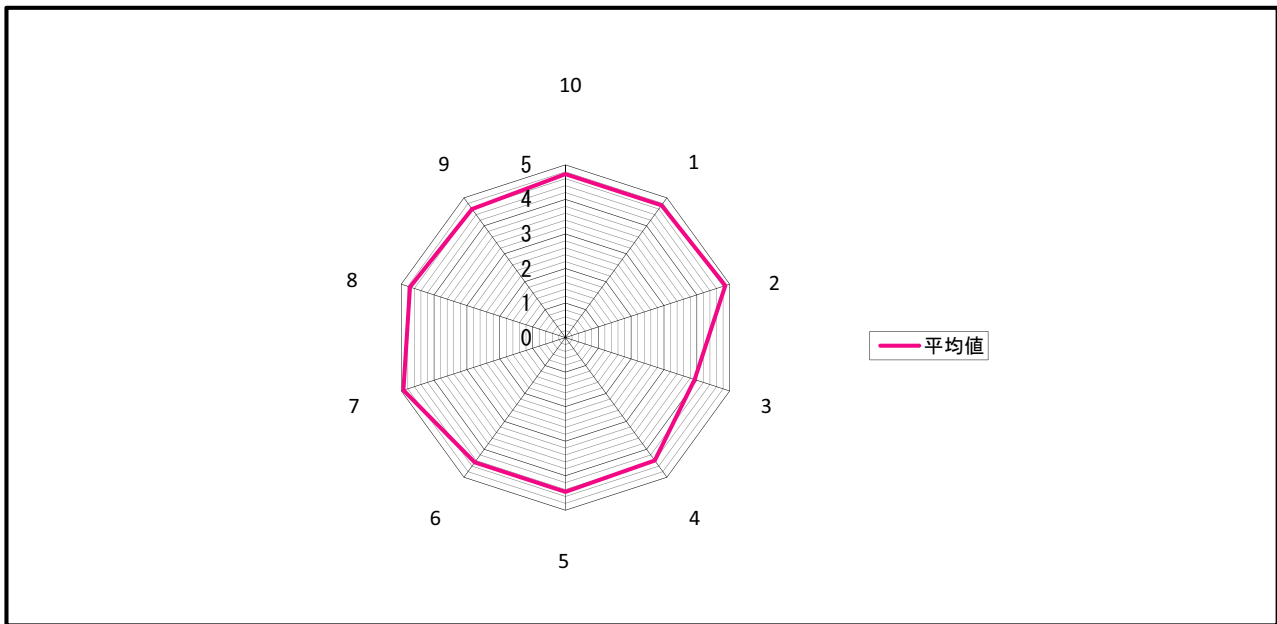
質問10項中9項目での評価が4.6点以上、特に(10)の「この授業を総合的に評価するとよかったと思う。」の評価では4.9点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考えます。昨年度は唯一評価の平均点が4点に達していなかった、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」についても、評価の平均点が4.2点に達していた。これは臨床心理士の実践の場として学校臨床は重要な位置を占めており、本授業で体験的に学んだ内容も学校現場での相談活動、教員との連携における実践力と関連することを明確に伝えるようにしたことの効果だと思われる。自由記述では小グループの深まり、受講生の主体的な活動の場になった、実践的な内容であった点などが評価されていた。また、昨年度改善点として意見の出ていたコース分けに際しての不満は、今年度は訴えられておらず、振り分けについて十分な説明と配慮をもって行ったことの効果が出たものと思われる。

結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習Ⅱ
 評価実施日 平成25年2月13日
 担当教員名 佐藤 亨

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	4				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	2				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	5	1		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	7	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	8				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	3	1	1		4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	14	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	4				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	6				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	4				4.7



教員のコメント

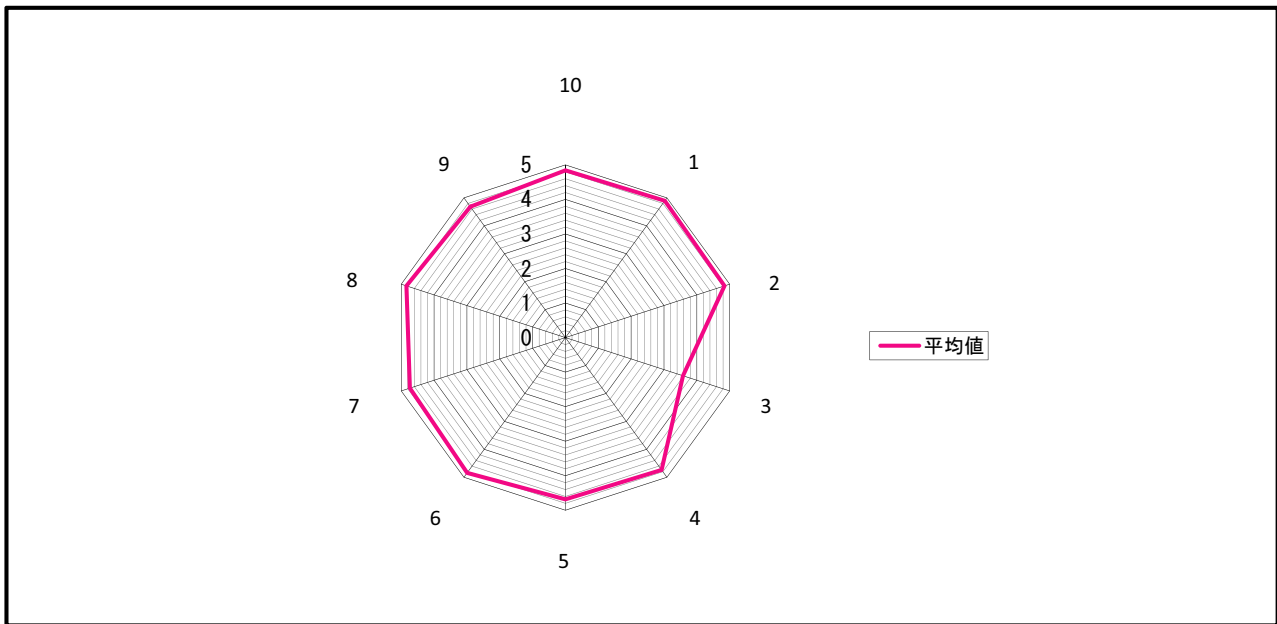
総合評価を含め、ほぼ全ての項目で平均4.5以上の評価を得ており、本授業は概ね受講生にとって満足のものであったと考えられる。唯一「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」のみが、平均3.9と4.0以下となっているが、これは本授業が教員の実践力向上ではなく、臨床心理士としての力量形成を目標としているため、やむを得ない点であると考えられる。

結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習Ⅱ
 評価実施日 平成25年2月13日
 担当教員名 葛西 真記子

回答者数 19 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	17	2				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	3				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2	6	3	1	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	2		1		4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	14	4	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	17	1	1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	15	3	1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	17	1	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	4	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	16	3				4.8



教員のコメント

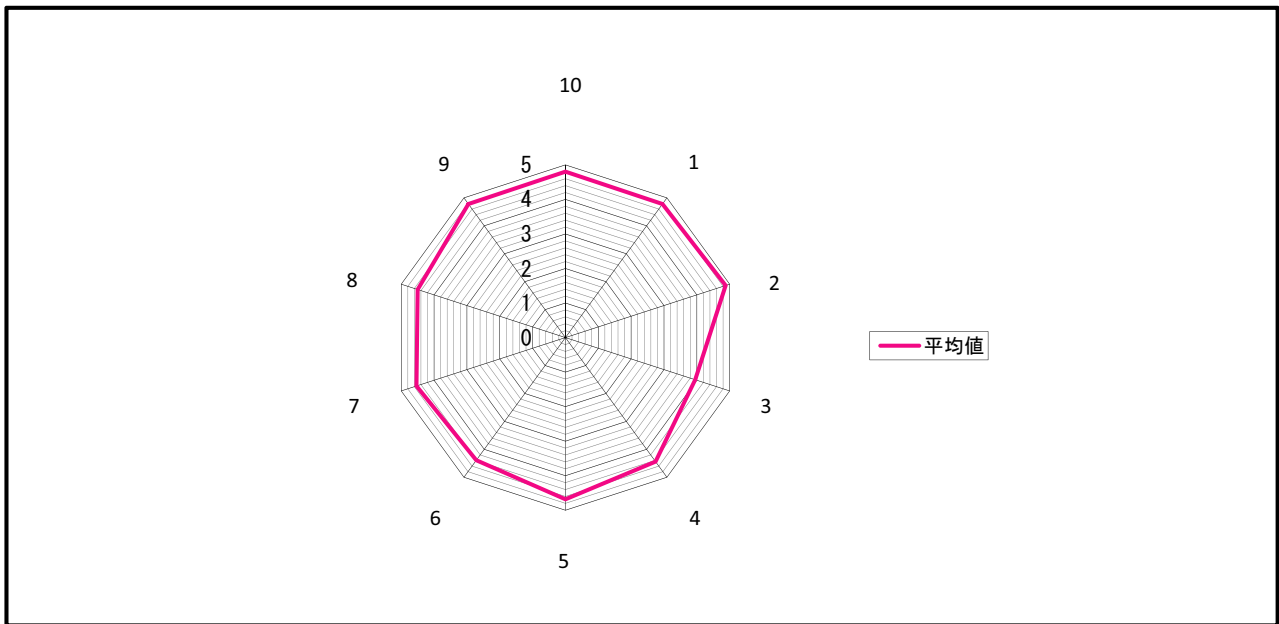
本演習は、臨床心理学の査定の中でも高度な投影法に関する演習である。基本的な査定方法を修士1年の前期で学び、次に投影法を学ぶ。受講生は臨床心理学の理論・実践方法がある程度学んだ上での受講であるので、本演習の内容はできるだけ、臨床の現場に役立つように臨床実践に則した内容となっている。教科書、ワークブックにのっとり、パワーポイントの資料も使用しながら行っていること、受講生が受け身ではなく、積極的に参加できるように講義内容を構成していることなどは、院生にも伝わっているようで、(6)(7)(8)(9)の平均得点は、4.7から4.8であり、かなりの高得点であった。自由記述の欄においても、「詳しくわかりやすく説明がありよかった」「実践的な説明や実習があり有益であった」というコメントがあった。それに対して、(3)教師の実践力の育成につながる内容だったという項目に関しては、3.6と他の項目より低い評価であった。毎年本演習に対する評価で(3)は他の項目より低い評価であり、本演習の担当者である教員も受講生である院生も本授業から教師の実践力の育成を求めているので、それを正確に反映した結果であると思われる。その証拠に(10)総合評価は、4.8であり、(3)の結果が影響しているとは思えない。今後、受講生の中から教師としての実践に役立てたいという反応があれば、それに答えていけるような内容に修正することも考慮に入れる。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究 I
 評価実施日 平成25年2月12日
 担当教員名 中津 郁子, 久米 禎子

回答者数 41 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	34	5	2			4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	36	5				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	17	11	8	4	1	4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	26	9	4	2		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	31	8	1	1		4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	11	2	2	1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	26	11	4			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	24	12	4		1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	33	7	1			4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	35	4	2			4.8



教員のコメント

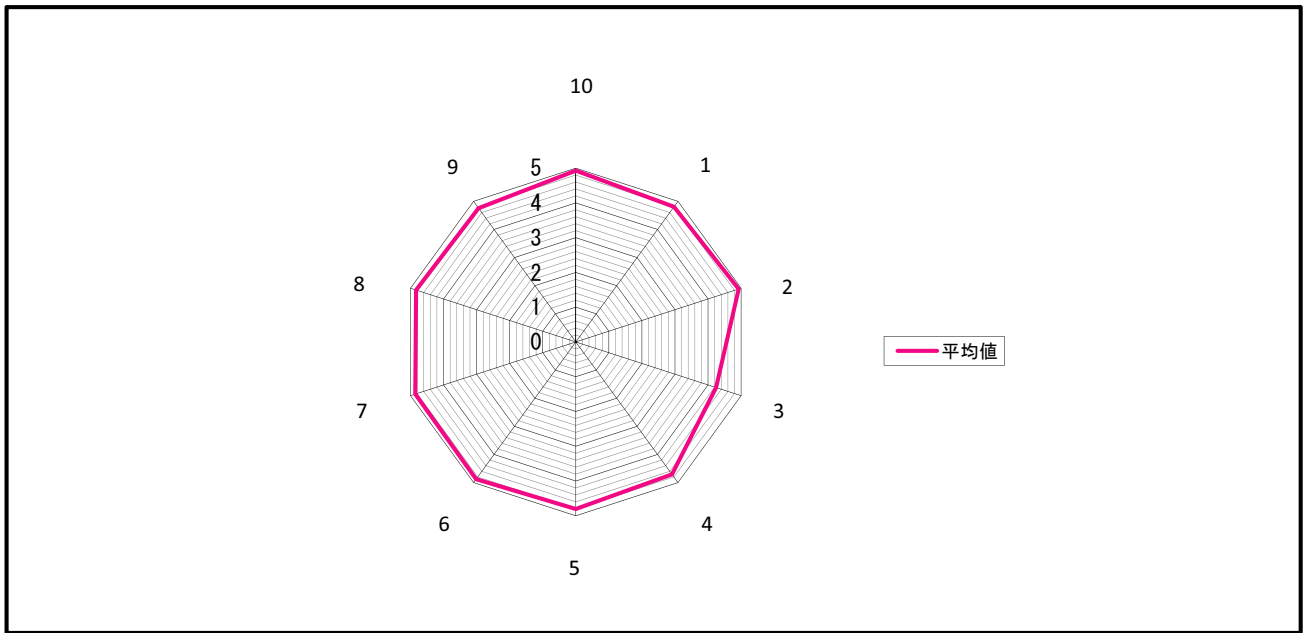
この授業は前年に引き続き、教員2人で前半後半に分かれて授業を行なった。前半は講義形式の多い授業だが、演習を入れたり、振り返り用紙を使って学生の反応を確かめつつ行なった。後半のグループごとの調べ学習形式の授業では、グループの進み具合を確認しつつ行ない最後に全体的な振り返りを行なった。総合評価が4.8であるので、昨年同様、概ね学生にとって満足のいく授業であったと考えられる。自由記述の中では、良かったこととして、特にグループ学習について、「各グループが議論を交わしながら発表に向けて準備する中で学ぶことがたくさんあった」、「少し大変だったが、調べたことや話し合ったこと、まとめたことはよく理解できた気がする」などが書かれていた。また、「とても意欲的に、勉強に取り組みやすい内容であった」、「学生の自主性を信頼してくださっていたこと」などが良かったこととして挙げられていた。前年に比べて、グループでの調べ学習の満足度が高いように感じた。その他の感想では、「気力、体力のいる授業でしたが、得るものの多い授業でした」、「グループワークで話し合う中で戸惑うことも多かったが、将来的にはこういった経験も必要と思った」、「勉強できてとても楽しかった」などが見られていた。项目的には、(3)の教師の実践力の育成に関する質問が4.0と最も低いですが、前年と比べるとやや上がっている。この授業は臨床家としての面接研究の授業であるが、教師にとっても、親理解や子ども理解につながる内容であることが理解されていると考える。今後も、学生の習熟度や学びの意欲を考慮しながら行っていきたい。

結果報告書

授業科目名 学校精神保健学演習
 評価実施日 平成25年2月15日
 担当教員名 今田 雄三

回答者数 41 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	34	6	1			4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	38	3				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	23	7	9	2		4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	32	6	3			4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	35	4	2			4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	36	5				4.9
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	35	6				4.9
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	34	7				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	34	5	1	1		4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	38	3				4.9



教員のコメント

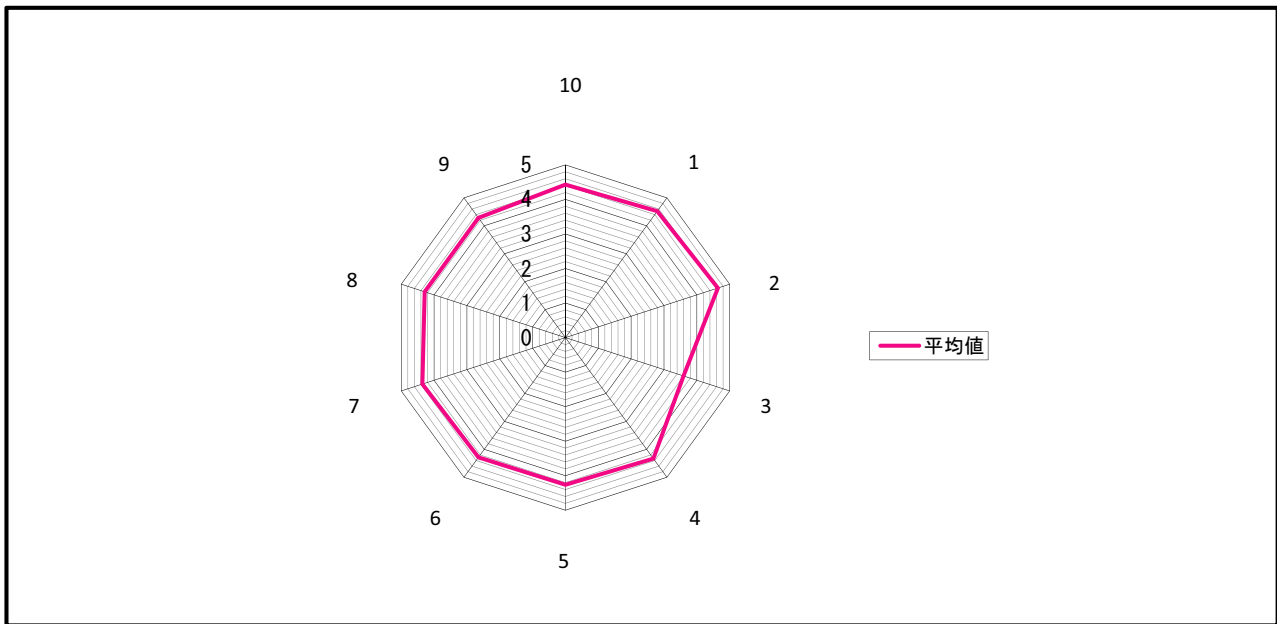
質問10項目のすべてにおいて評価の平均値が4.0点以上、そのうち9項目では評価の平均値が4.7点以上であった。特に(10)の「この授業を総合的に評価するとよかったと思う。」の評価では4.9点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものとする。昨年度は唯一評価の平均点が4.0点であった、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しても、評価の平均点が4.2点と微増していた。これは臨床心理士の実践の場として重要な位置を占めている学校現場でのアセスメント、相談活動、教員との連携についての知識・実践力の養成という観点を強調し、本授業に教師の実践力育成とつながる内容を盛り込んだことの効果によるものと思われる。なお、授業の改善点として自由記述に「グループでのディスカッションが多く、一人で考える時間が少なかったこと」という意見があった。この点については、逆に「ディスカッションの時間がしっかり話し合えたのがよかった」という意見も寄せられており、個人演習とグループ演習の時間配分を授業ごとにメリハリをつける等の工夫を次年度では考えてみたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学統計法
 評価実施日 平成24年12月21日
 担当教員名 田中 秀紀

回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	28	8	6			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31	7	4			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	11	11	2	5	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	20	16	6			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	22	12	6	1	1	4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	24	8	8	2		4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	22	14	5	1		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	21	15	4	1	1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	15	6	1		4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	24	13	4	1		4.4



教員のコメント

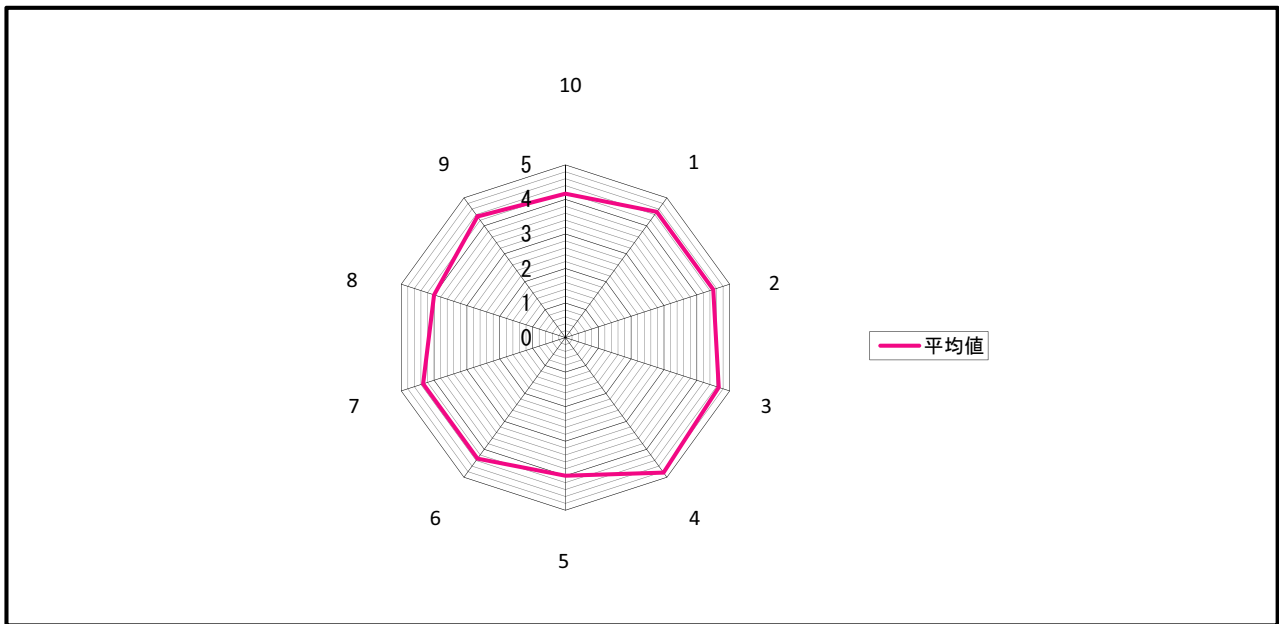
慣れない統計法の授業を集中形式で行う授業であったが、全体的に学生は3日間集中して取り組んでいたように思われる。ただし、SPSSの操作法など教育用端末室では集中が途切れがちで、教員としても教授の方法を今後工夫していきたい。また統計ソフトの活用に移る前に、やはり統計法の基礎的な考え方を理解することが重要であるので、学生が双方の理解を深めるよう今後も教授方法を改善していきたい。

結果報告書

授業科目名 幼年期福祉演習
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 木村 直子

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1	1	1		4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		2			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2			1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		2			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1	2			4.2



教員のコメント

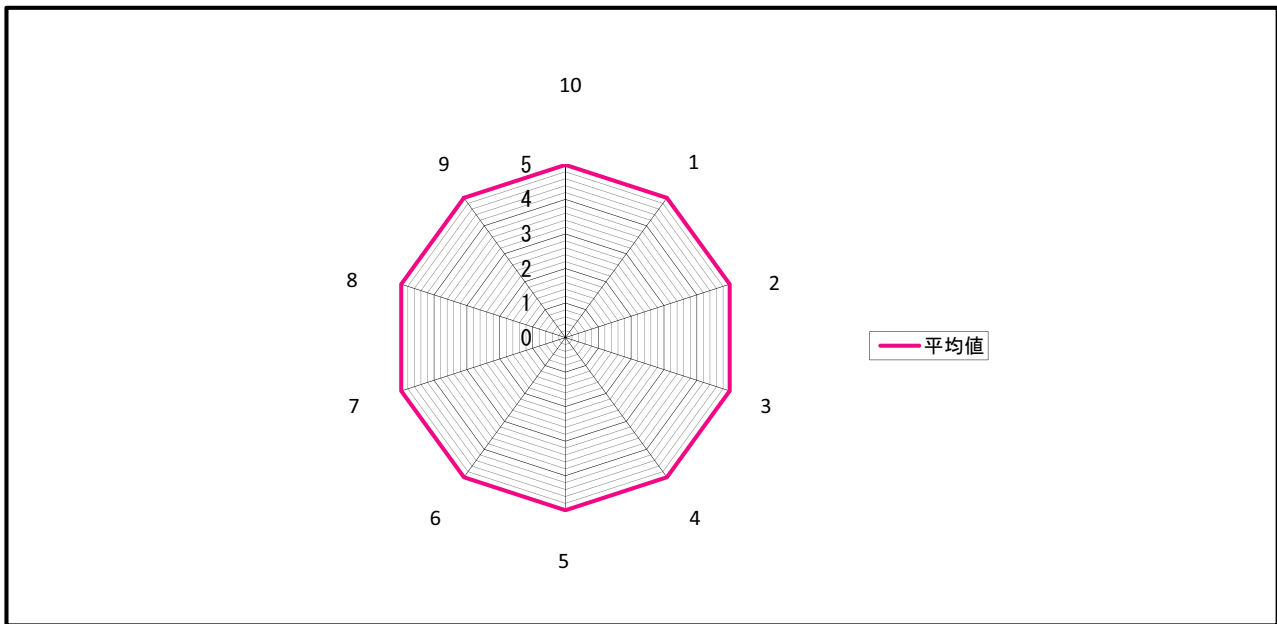
今年度は受講生も少なく、授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができる状況にあった。例年感じていた受講生の予習・復習・授業外学習の少なさという課題に関して、今年度は、院生の主体的積極的な取り組みにつながる可能性を広げていくための授業改善を試みた。演習は大きく2つの側面から構成した。1つは、具体的なケースについての処方箋や援助の方針を考える事例研究、もう1つは、援助や援助者の価値に関わる古典を読み深めるレビュー研究である。その結果、受講生の反応は、大きく二分される結果となった。すなわち、内容を深められた院生と、書物を読み深めることができずに、授業の意義を見い出せなかった院生である。古典における理論的枠組みを現実のケースの中で活用していくことの意義を、院生に伝えたいと考えているが、今後は課題の提供の仕方にも工夫が必要であると感じた。

結果報告書

授業科目名 幼年期教育学演習
 評価実施日 平成25年2月4日
 担当教員名 湯地 宏樹

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

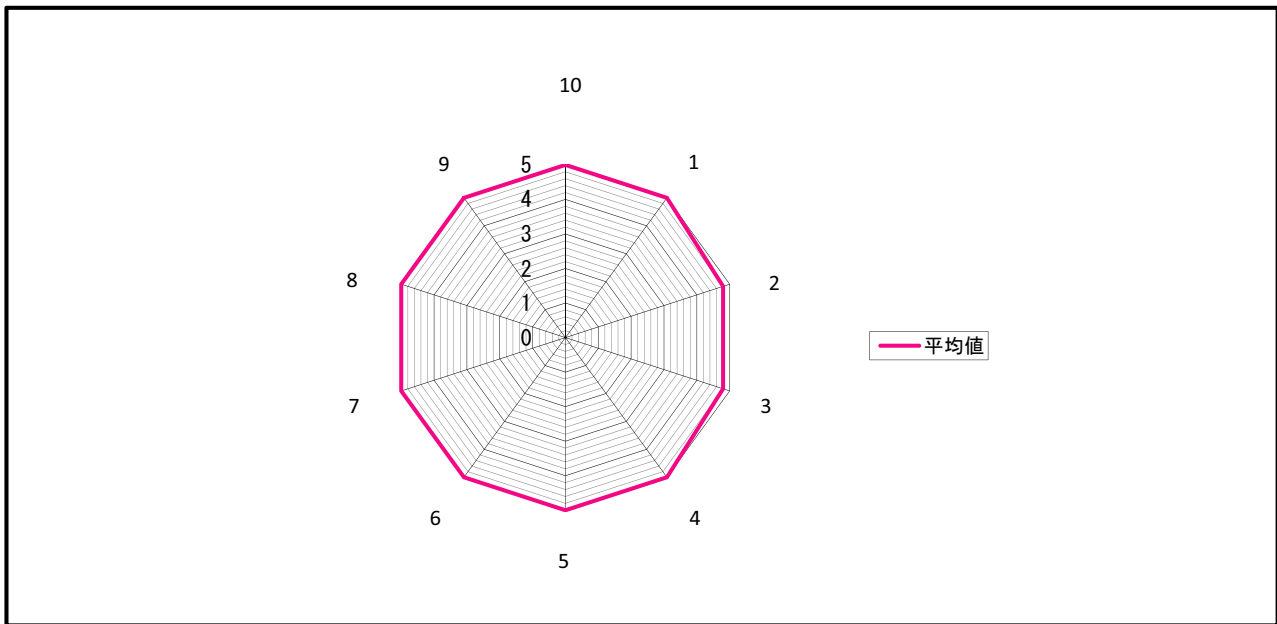
受講者は3人のほかに、単位取得済の受講生1人を合わせて計4名であった。幼年期の教育における様々な問題状況についていくつかの論文の購読をとおり、文献研究、事例研究、質問紙調査、実験研究など幅広く、質的・量的研究の両面の研究方法及び研究発表の方法などを学修した。討論が中心であったが、どの受講生も積極的に発言していたように思う。はじめて行う授業だったが、授業評価は高い評価を得た。関心分野はそれぞれ違うが、どの学生にも有意義な演習ができるようにさらに工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論演習
 評価実施日 平成25年2月8日
 担当教員名 塩路 晶子

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



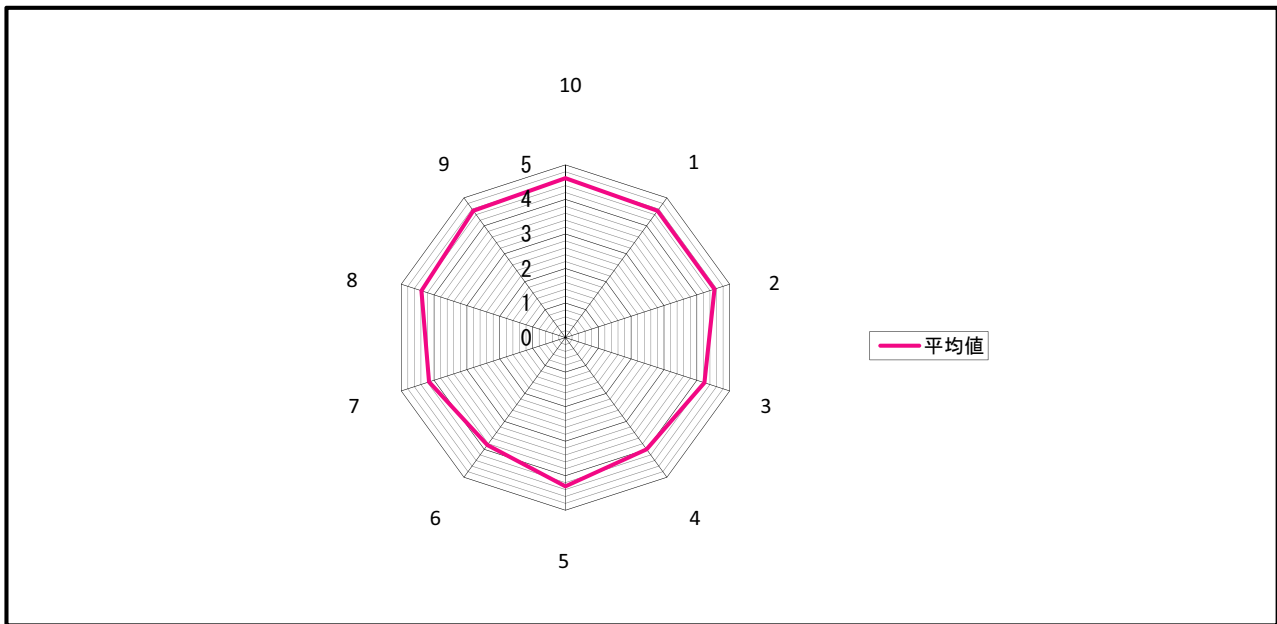
教員のコメント

本授業は、幼児教育内容についての研究論文を講読することや、文献研究の演習を通して、子どもをとらえる視点を相対化することを目的とした。受講生からは概ね評価をいただくことができ、授業の目的は概ね達成されたと考えている。今後も受講生たちの問題意識を深めることが出来るように、授業の内容や方法を工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 現代教育人間論
 評価実施日 平成25年2月14日
 担当教員名 谷村 千絵, 近森 憲助, 太田 直也, 田村 和之 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	4	1			4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2	2			4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	6	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	5	4			4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	7	1			4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	4	4	1		3.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	6	1	1		4.2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	6	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	5				4.6



教員のコメント

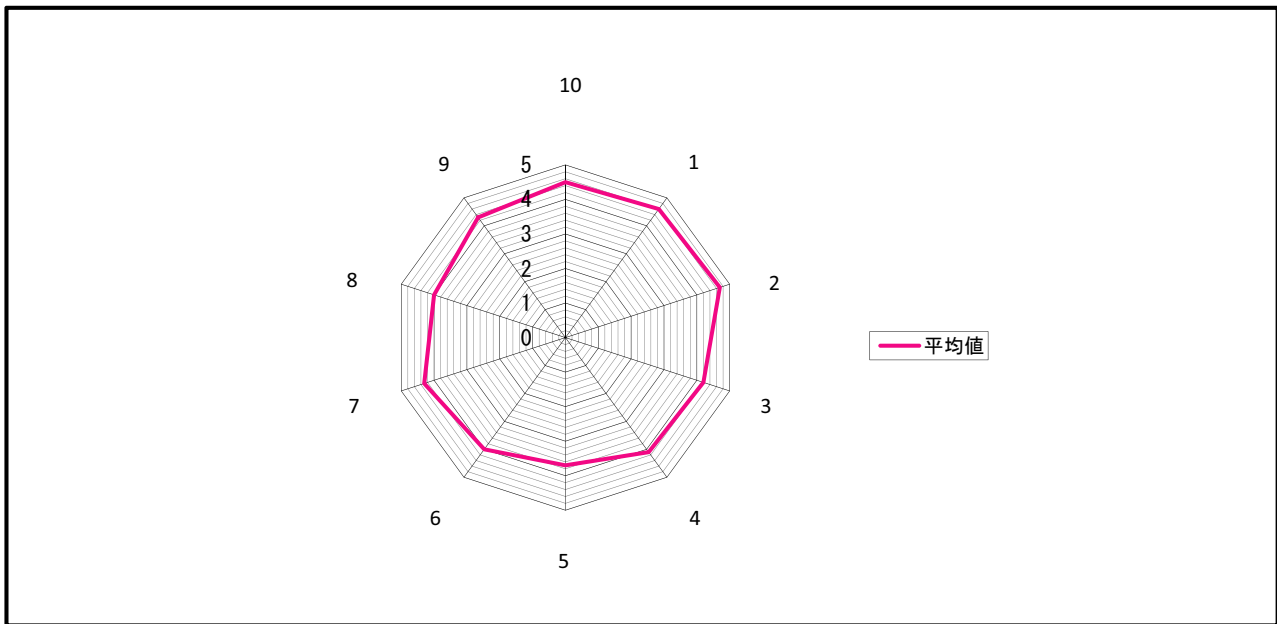
かなり抽象度の高い難しい内容の多い授業であるにもかかわらず、概ねよい評価を得ていることが、予想外といえは予想外の結果である。自由記述欄の「良かった点」には「考える授業、問い直す授業でした」「頭が熱っぽくなったこと」「先生方が何かを教えてくれるというよりも、生徒と一緒に考えていく授業スタイルがよかったです」とのコメントがあった。その他の感想欄に「“分からない”ことも“分かる”ことと同様に尊いものだ」と、このような類の授業をしている者としてはこれ以上の回答はないと思うほど、嬉しいコメントが書かれていた。ともに知を探究する仲間としての、ゆるやかではあるが情熱的な時間があったことが、とても嬉しく感じられる。

結果報告書

授業科目名 情報教育特論 I (教育情報人間論)
 評価実施日 平成25年2月21日
 担当教員名 谷村 千絵

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	5	2			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3	2	2		3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	3		1	4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	3			1	4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	3	2	1		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3	1			4.5



教員のコメント

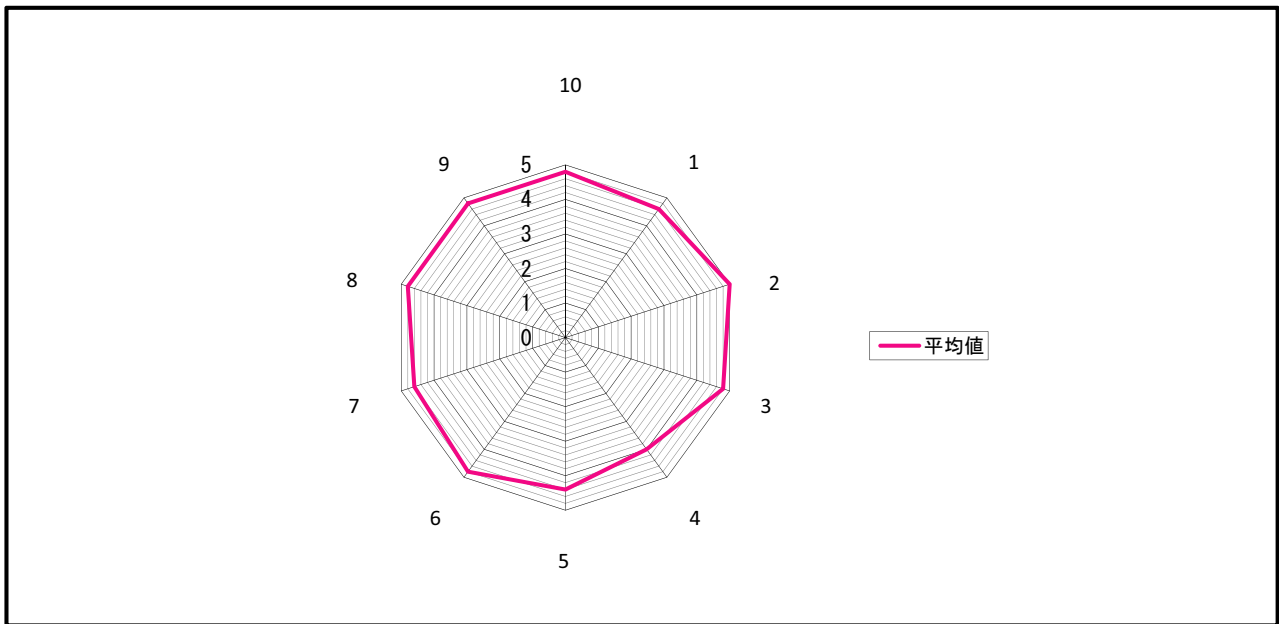
文献講読の授業であるが、昨年度は本を読まずに参加する学生の存在が問題になったため、学生が必然的に本を読むように、授業時間内での読書タイムを全員が読み切るまでとし、章の内容についてコメントを記述するワークシートの提出も義務付けることにした。そのため15回の授業時間で一冊の本が読み終わらなかったため、合計18回の授業を行うことになった。増加分は自由参加としたがほぼ全員が参加した。自由記述欄には、「一冊の本をしっかり読めたことがよかった」「18回でも僕はいけました」という心強いコメントが複数あったが、時間配分を改善すべきという指摘が2名、時間をかけるのはよいが効率が悪いとの指摘が1名あり、(5)や(7)に1, 2がマークされている。来年度はこの点を検討して改善したい。また、読書タイムについて、「授業中の指導がもう少し必要で、本を読むだけなら家でも可能」という意見もあったが、これまでの授業者の経験では、家で読むことを課題にすると3分の1程度の学生は読んでこなかったため、授業時間で全体の学習に発展が見られない。学生のコメントを読む限り、丁寧に読むことで文献講読の意義や面白さは伝わっていると思われる。こうした授業を実のあるものにするための試行錯誤を、さらに続けていきたい。

結果報告書

授業科目名 情報教育特論Ⅱ(教材・授業開発論)
 評価実施日 平成25年2月19日
 担当教員名 藤村 裕一

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	2			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

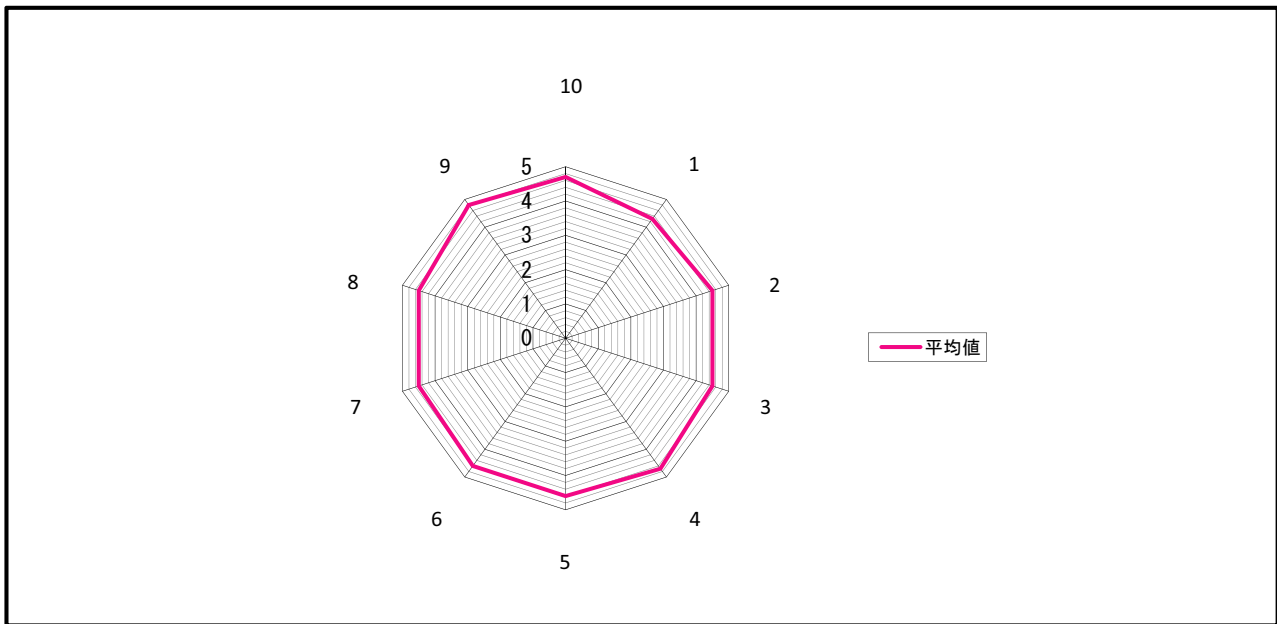
最新の研究成果を積極的に提供すると共に、学生による調査研究・発表活動を取り入れ、「専門知識を深めるのに役立つ」が5.0であるなど、全体平均が4.8とおおむね好評であった。
 成績評価の方法の説明と授業進捗の評価が若干低かった点については、成績評価の方法を授業オリエンテーションで説明しているものの、最終回に再度説明し直すとともに、専門の学生を対象とした授業であったものの専門外の学生も混じっていたため、それらの学生に配慮し丁寧な補説を行ってわからない状態を解消してから次へ進むように改善したい。

結果報告書

授業科目名 環境教育特論 I (教材開発)
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 田村 和之, 近森 憲助

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	5	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	4				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	3	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	3	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	3				4.7



教員のコメント

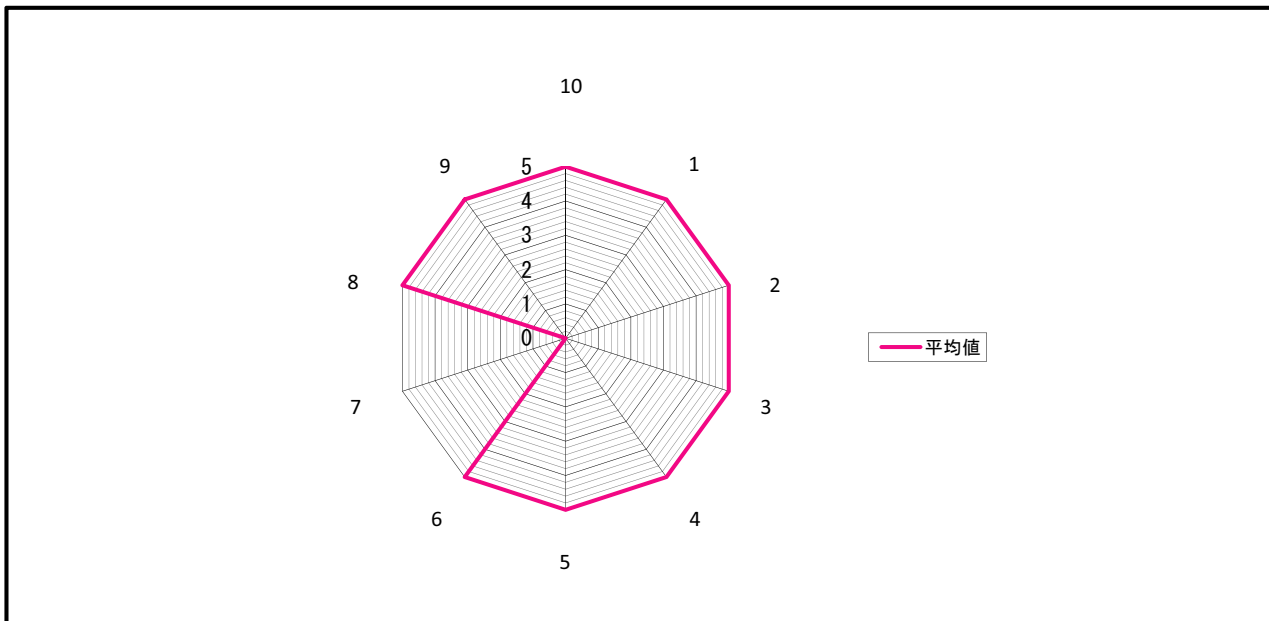
本年度は学生によって発表を行い、その後全員で意見交換という形式で授業を行ってきた。地元(鳴門市)の特産品をどのように教材として使うかというテーマで行ってきたことで、一つの特産品/文化/伝統でも見方を変えれば様々な授業に応用できる事を学生達は実感し、その可能性を良く理解してくれた。ただ、今回は実際に使われた教材についての調査&発表を行わなかったため、来年度は学期はじめにそのワンステップを加えて授業全体に方向性をもっとしっかりと持たせて行いたい。

結果報告書

授業科目名 環境教育特論Ⅲ(実践)
 評価実施日 平成25年2月19日
 担当教員名 田村 和之, 近森 憲助

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

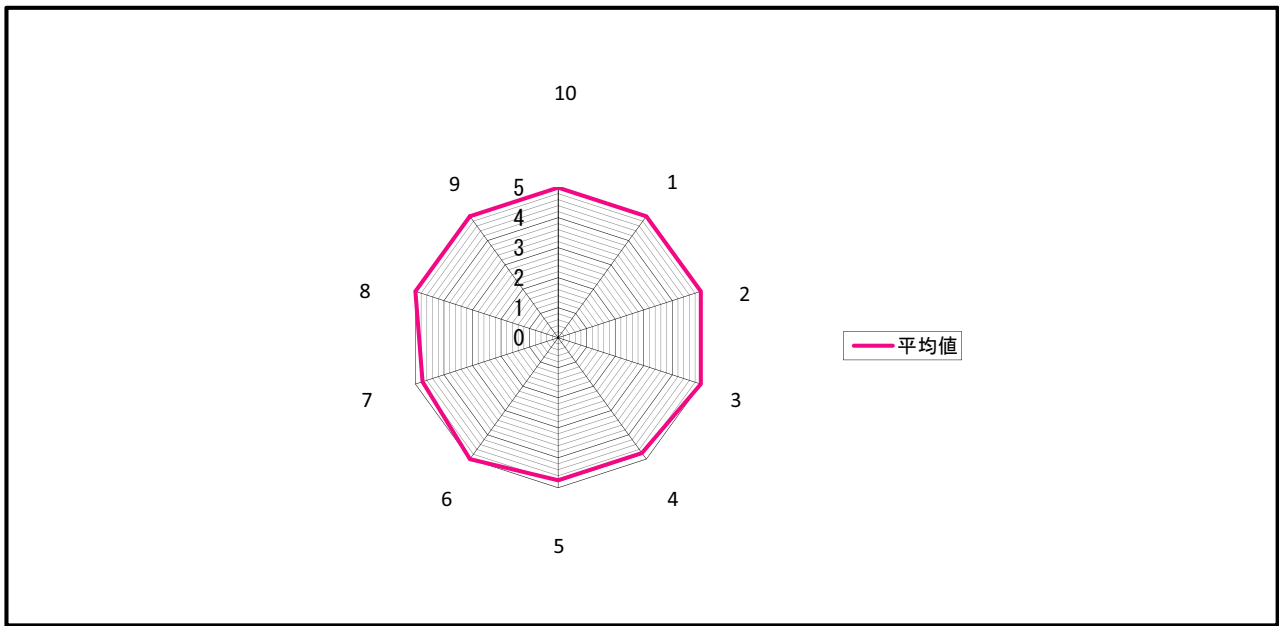
受講生が二人での授業実践(模擬授業、検討会、改善された模擬授業)の繰り返しを中心に行ったので、とても内容の深い授業となった結果がアンケートに現れていると思われる。検討会では細かい所まで十分に学生と教員とで意見交換を行う事もでき、両学生による改善された模擬授業に十分生かされていた。次回もこのような授業実践の講座を行って行きたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 社会資源開発運用・連携論
 評価実施日 平成25年2月5日
 担当教員名 井上 とも子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

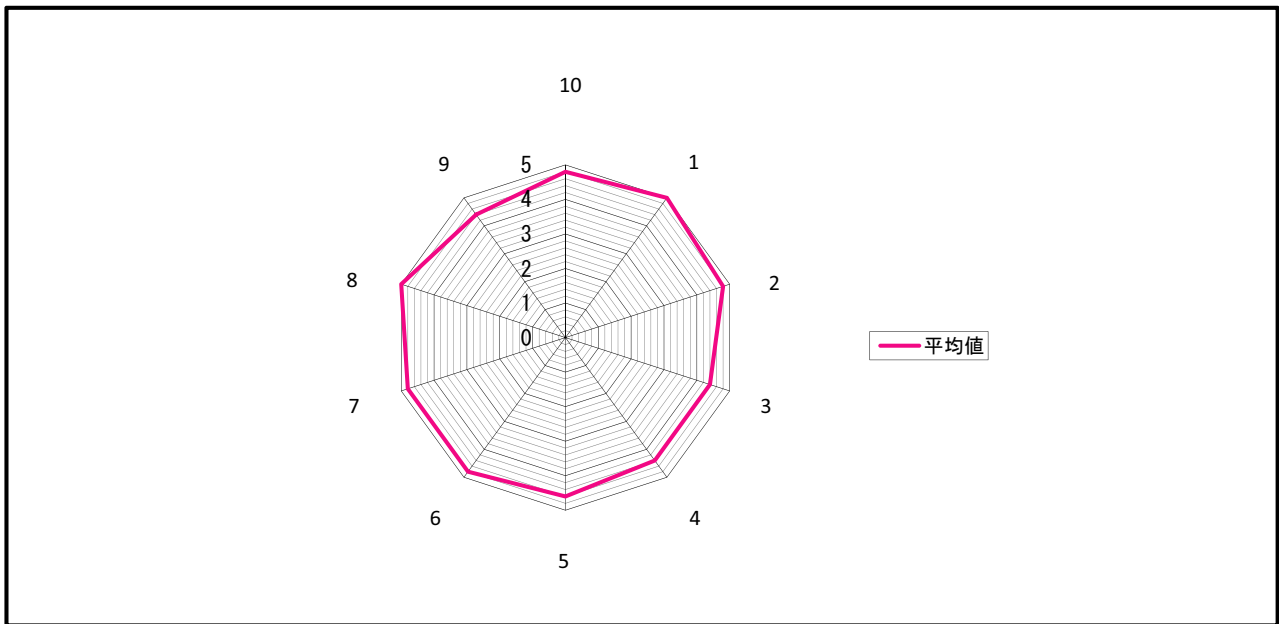
大学院の授業として、テーマに沿って調べてきた者を発表し、それについて協議や事例検討会等の演習と、特別支援教育の推進に係る関係諸機関との連携と校内支援体制整備に関する講義を、1時間においてほぼ半分半分の時間割り振りで授業を行った。自由記述の中に「同メンバーで会議のシミュレーションをするので、現場とは異なり、実感が湧きにくかった」とあるが、学校現場の校内支援委員会や事例検討会は、同じメンバーで構成されていることが多く、実感が湧かなかった原因は他にあるのかもしれない。日頃から意見交換をしている仲間うちの協議だと、多面的な意見が聞きにくかったり、コーディネーターとして、出てにくい意見を引き出したりする場面が少なかったりすることから、実感の湧きにくさがあったのではないかと推測する。今後、司会や記録の役割を分担するだけでなく、参加者として、ややロールプレイング的に「消極的な場面」を作るなどして、学校現場における会議の実感を得られるように工夫したいと考える。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育課程特論演習
 評価実施日 平成25年2月5日
 担当教員名 八幡 ゆかり

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4			1		4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4		1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4			1		4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

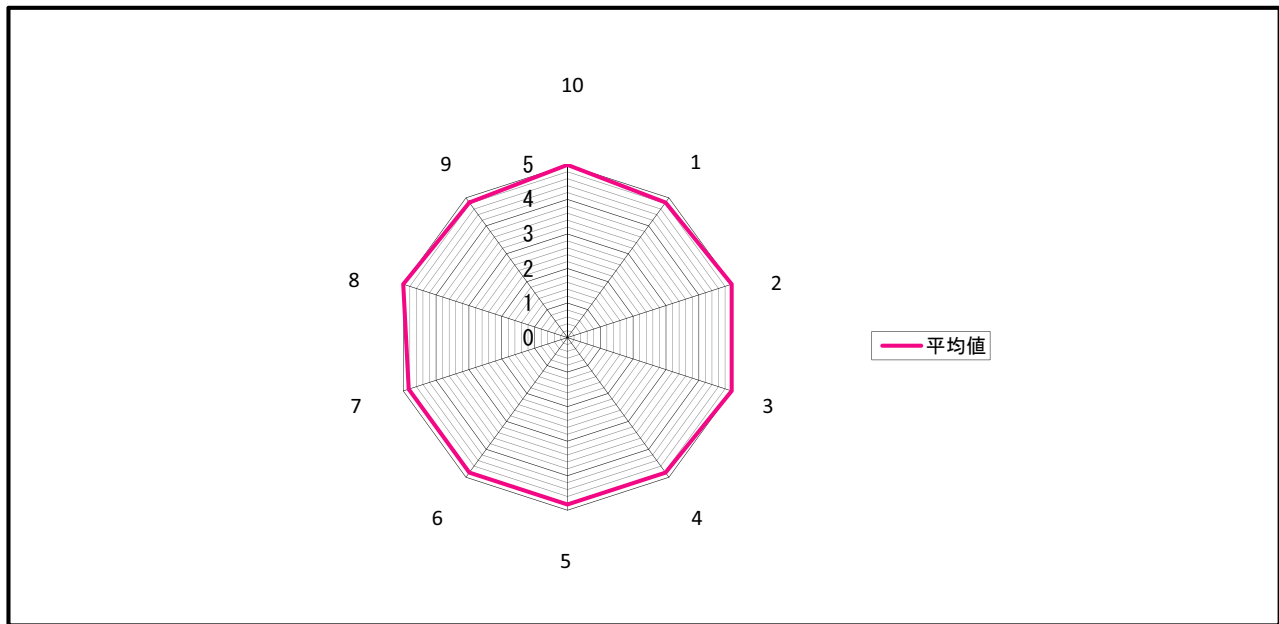
「授業の内容」や「授業の進め方」の8項目について、平均4.4～5.0と高い評価であった。このうち、5.0の評価は、「授業の内容」の「(1)授業概要の適切さ」と、授業の進め方の「(8)板書や視聴覚機器の使用の適切さ」であった。また、受講生の本授業への取り組みについて「(9)主体的・積極的に取り組んだ」の平均値が「4.4」であった。この評価結果について、受講生が全員、長期履修学生であったことに留意して、実践経験が少ない彼らのために、授業担当者が実際の教育現場での状況を具体的に紹介しながら、受講生に話し合いの機会を多く設けて彼ら自身の意見や感想を促す機会をもったことがよかったと思われた。また、受講生が発表したことを再度、振り返らせてその内容を確認するといったことをくり返して、内容の定着を図った。このような授業を展開したことで、本授業の総合評価の平均値が「4.8」になったと考えられた。したがって、本授業は、概ね、受講生のニーズを満たした授業であったと考えられた。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育指導特論演習
 評価実施日 平成25年2月21日
 担当教員名 大谷 博俊

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

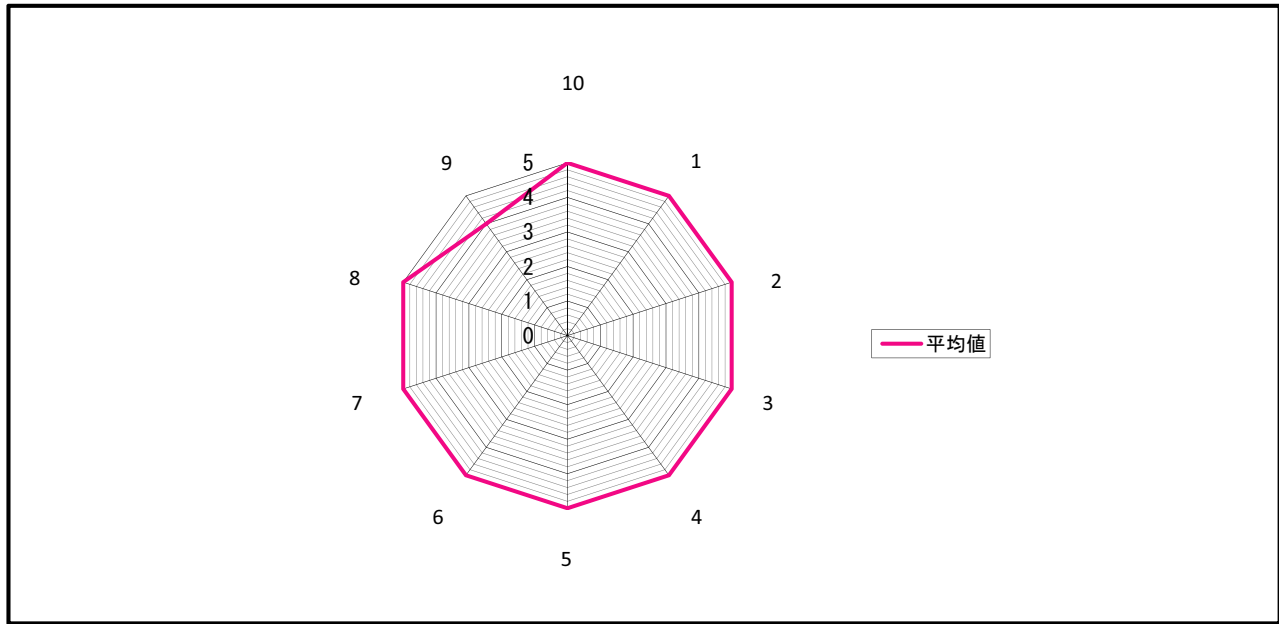
受講生の授業に対する総合的な評価を見ると、満足度は高かったと推察できる。各項目に対する評価は、4以上であり、授業内容、授業の進め方、及び授業への取り組み、全てにおいて高い評価となっている。特に、「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」「教師の実践力の育成につながる内容であった」は、受講生全員が5と評価している。本講義が、専門的知識と教員の実践力をバランスよく育む内容であり、そのことが受講生の満足につながったのではないかと考える。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床支援技法演習
 評価実施日 平成25年2月8日
 担当教員名 高原 光恵

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

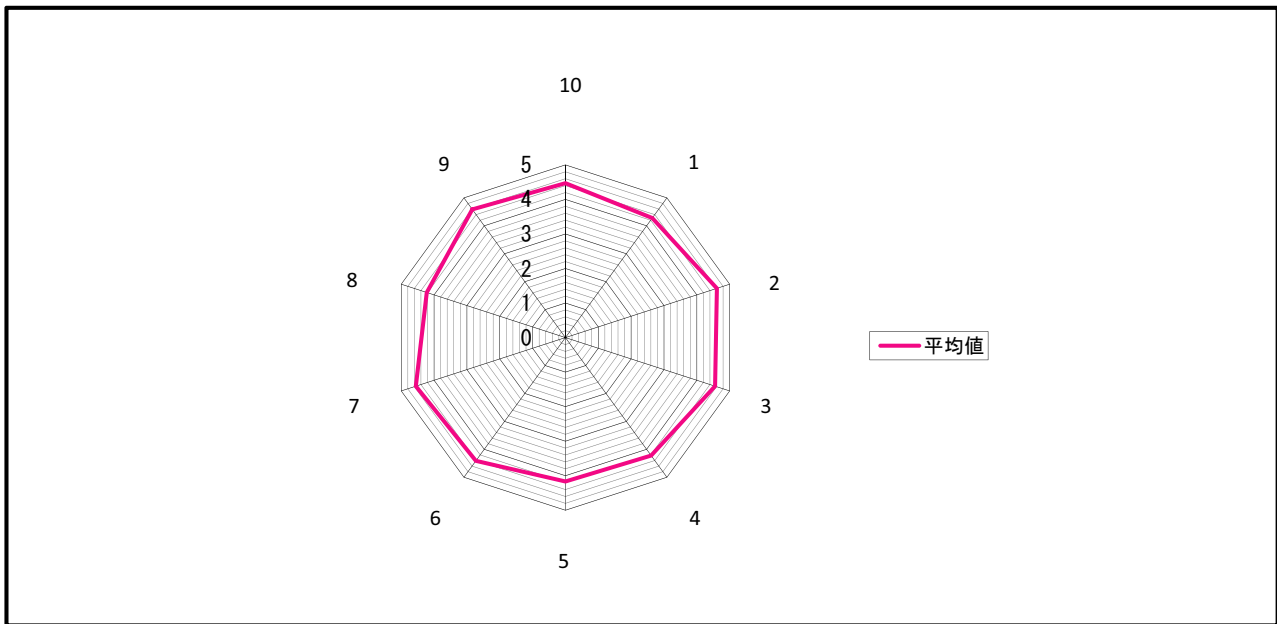
少人数での授業評価の解釈に悩みます。授業内容の絞り方や進め方についての評価は、意見交換しやすかったことが一因と思われます。また、実際の授業の中では、受講生自身、主体性に関わらないと進まない作業をこなしていたにも関わらず、3から5まで評価が分かれる結果となりました。主体性、積極性を発揮する授業展開となるよう工夫することが今後必要だと考えます。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習支援演習
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 18 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	9	2			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	5	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	4	2			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	5	3	1		4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	4	4	1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2	4		1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	2	3			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	4	5			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	5	1		1	4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	2	2	1	1	4.5



教員のコメント

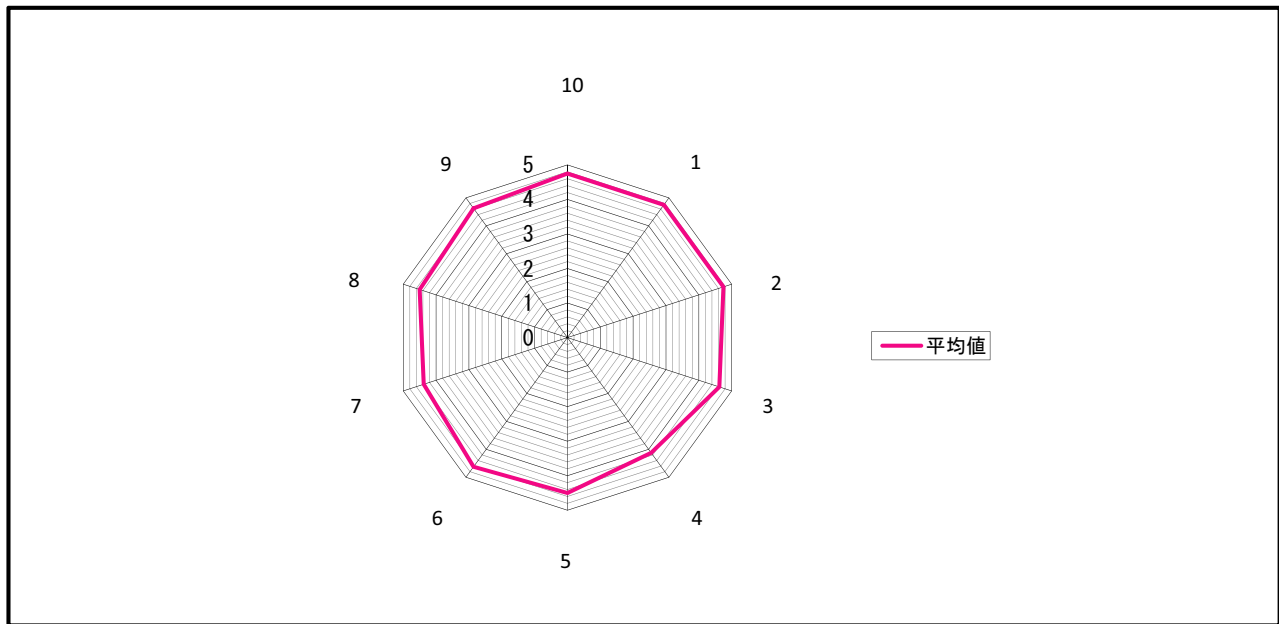
10項目中4項目(問2・3・7・9)で、18名中15名以上が4または5の高い評価を行ったことから、授業内容はよく浸透し、授業に主体的・積極的に取り組んだ受講生が多かったことが確かめられた。特に、問7で5の評価を行った受講生が多かったことから、「配布した資料は適切であった」ことが分かった。また問2・問3でも5の評価を行った受講生が多かったことから、授業内容が「専門的知識を深めるのに役立つ」「教師の実践力の育成につながった」ことが分かった。今年度は、従来用いられて来た心理検査(WISC-III・K-ABC)の実習に加えて、新しく開発された心理検査(WISC-IV)の実習も取り入れたため、限られた時間を有効に使うように、各種の資料類を周到に準備した。そのため、知識の整理を促し、専門的な知識の育成に寄与できたのだと考えられる。また、新しい検査の実習を加えたことが、問9「授業への主体的・積極的取り組み」の評価を向上させることにつながったのだと考えられた。しかしながら、問5で3や2の評価を行った受講生が見られたことから、「授業の進む速さについてゆくのが難しい」と感じている受講生もいることが分かった。新しい検査が増えるほど、自ずから必要とされる実習量も増えることになる。従来の検査に馴染みのあった受講生は、新しい検査への興味を示したが、あまり馴染みのなかった受講生は、授業の進み具合が早すぎると感じたのであろう。今後、益々新しい検査が増えてくることを考慮して、基本検査で習得したアセスメントの技能を、各種の検査の実習に波及させる方法を工夫すること、授業時間外にも自主的なグループワークができる体制を作ること等を、次年度に向けて検討してみたい。

結果報告書

授業科目名 発達障害児支援医学演習
 評価実施日 平成25年2月4日
 担当教員名 津田 芳見

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	3			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1	2			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



教員のコメント

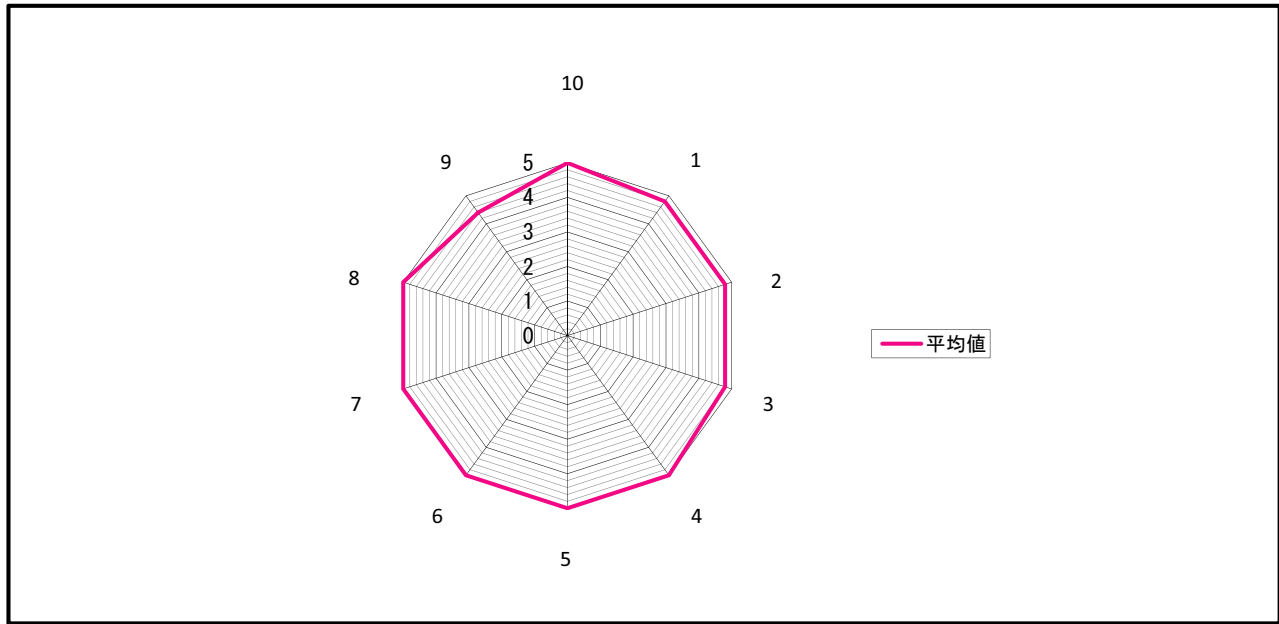
全体的に平均して高い評価を受けているようである。
 特に専門的知識や、概説などが高い評価を受けている。
 学生の授業への積極的取り組みについても、4.6と高くなっていた。これについては、学生にとって教育現場の課題と関連づけることが、イメージしやすいような内容となるよう意図した。
 ワークショップ的な授業を取り入れたため、積極的な授業参加が図られたと考える。

結果報告書

授業科目名 発達障害児神経学演習
 評価実施日 平成25年2月22日
 担当教員名 田中 淳一

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4			1		4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



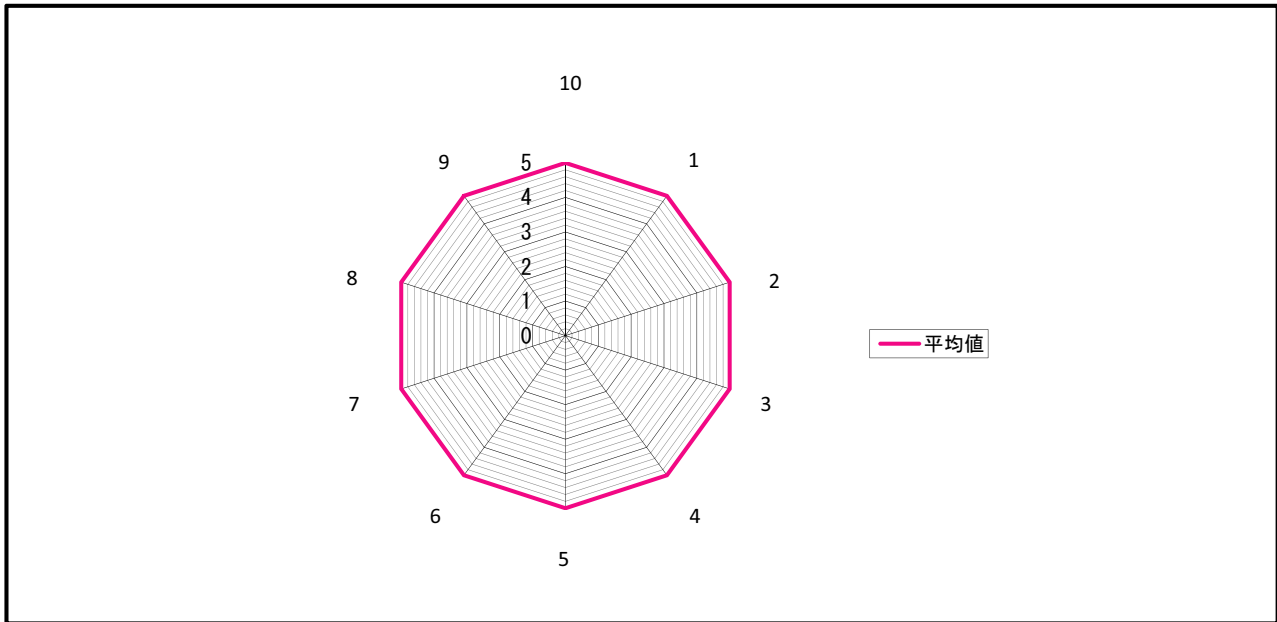
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 日本事情・日本文化
 評価実施日 平成25年2月14日
 担当教員名 小野 由美子

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

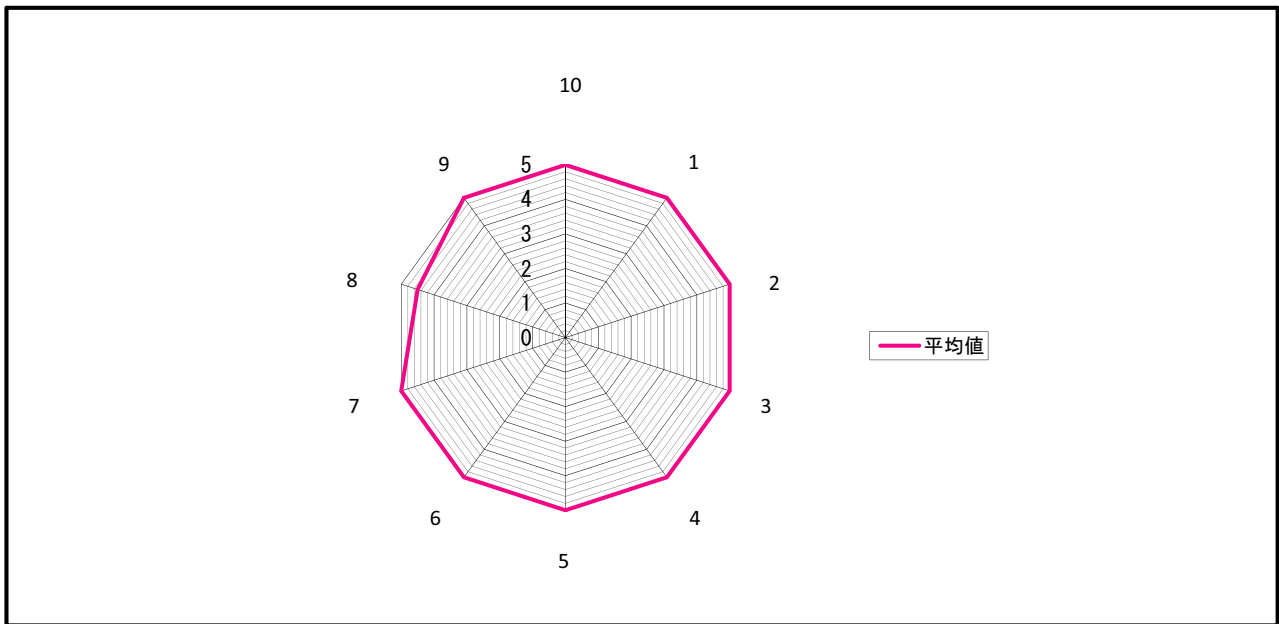
学生に満足してもらえる授業でよかったです。

結果報告書

授業科目名 日本語Ⅲ
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

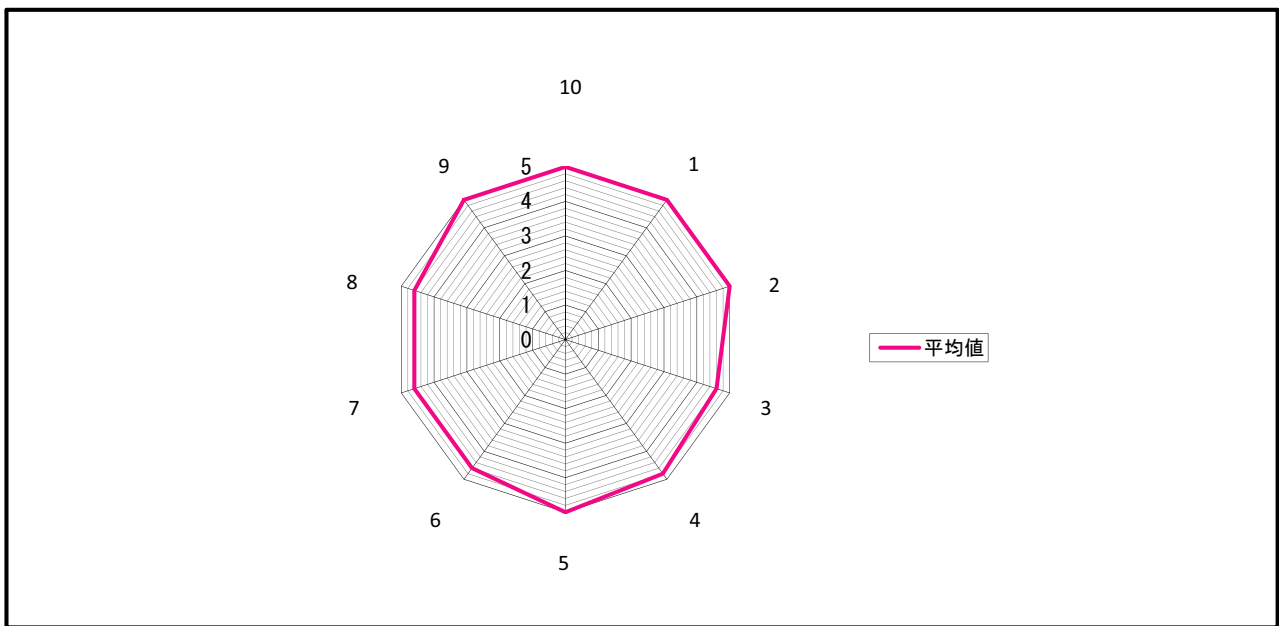
本授業は、論文やレポートなどの学術的な文書を書く訓練を行った。特に、学術的文書特有の文体や語彙、問題提起や提案の定型表現といった「日本語」としての側面だけでなく、説得的な論を展開するための証拠の挙げ方、読みやすさを考慮したセクション分けの方法など、日本語に限らず、「人を説得するためにはどのような工夫が必要か」という側面を重視した。受講者数は2名(＋聴講7名)であり、「学術的文書の作成はとても難しいが、先生は簡単な方法でいろいろな練習法や復習法を考えてくださった」「宿題の復習が丁寧でとてもいい勉強になると思う」といった声が寄せられていた。これを励みに今後も最善を尽くしたい。

結果報告書

授業科目名 日本古典語演習
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 原 卓志

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4		1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

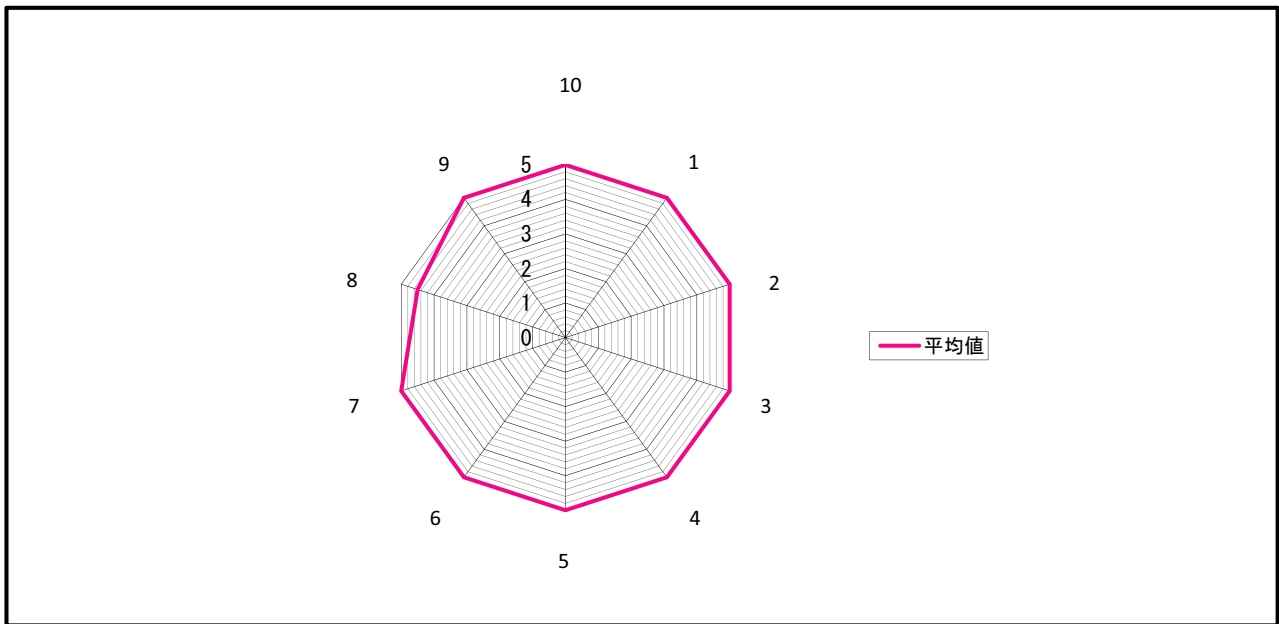
前期から引き続き、願勝寺(徳島県美馬市美馬町の古刹)に伝わる古典籍の中から、江戸時代書写(天明二年成立)の『紀行餘所能春』を取り上げ、現在の地図帳を用いてから、作者のルートをたどりつつ読解を進めた。また、読解を進めるに当たって必要な古典文学・古典語に関して調査し発表する機会を設けた。
 受講生諸君の努力の甲斐と、和やかな雰囲気の中で、変体仮名および基本的なくずし字(漢字)については、ほぼ読解が可能になった。

結果報告書

授業科目名 現代日本語演習
 評価実施日 平成25年2月5日
 担当教員名 茂木 俊伸

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

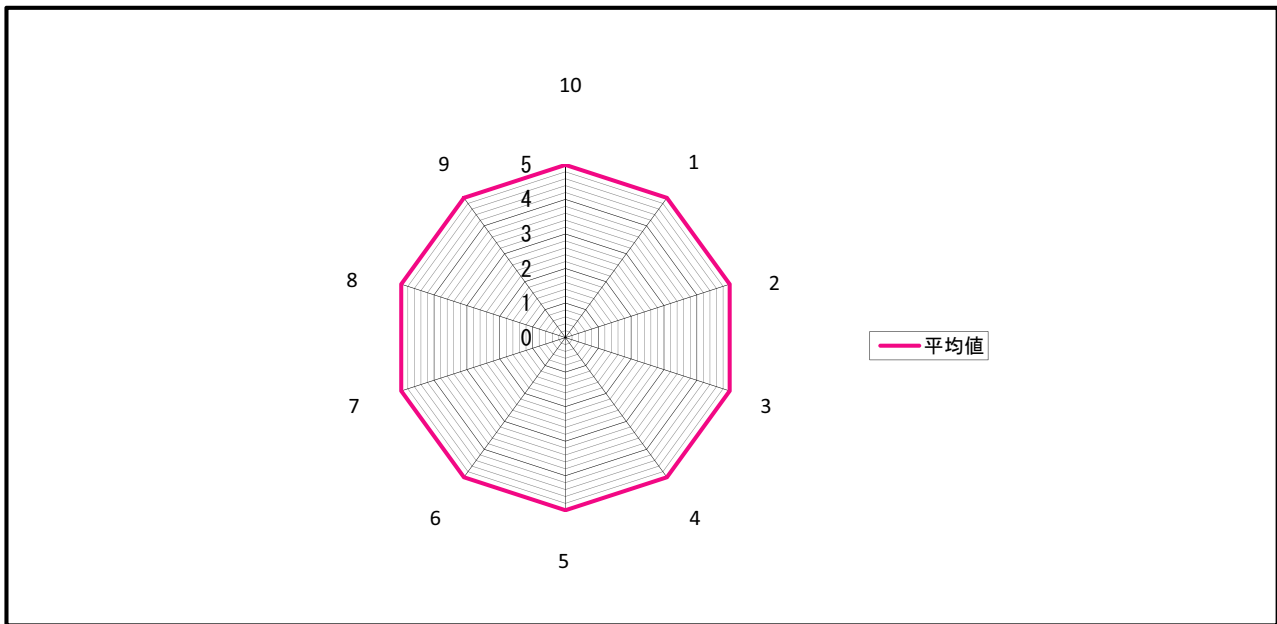
本授業では、現代日本語に関する研究論文を批判的に読みながら、「意味分析」をテーマとする演習活動を行った。受講者数は、昨年度と同じく2名(+聴講2名)であった。
 授業評価は、総合評価の平均値が5.0、全項目の平均値が4.95であるが、回答数が少ないため、具体的な分析は困難である。
 自由記述欄に関しては、改善すべき点として「受講生がふえると議論が活発になると思います」という指摘があった。前期の授業との内容的な連携を高めることも含め、授業の存在を周知する方法を考えたい。

結果報告書

授業科目名 日本文学演習Ⅱ
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 小島 明子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

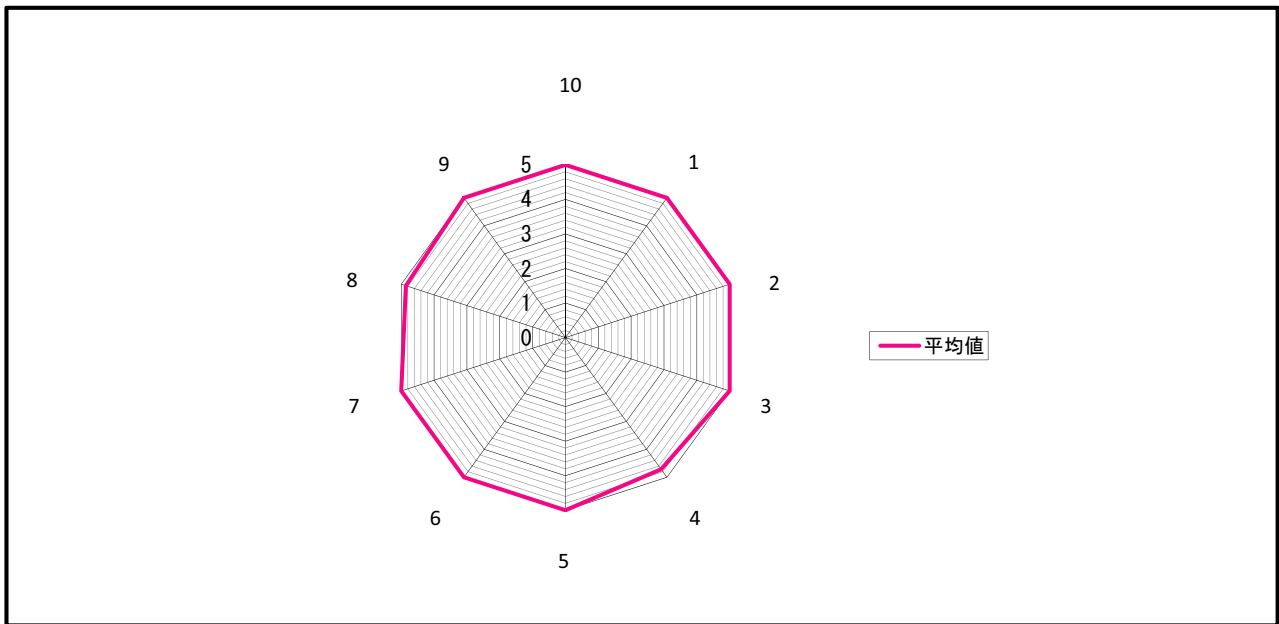
今回の演習は、受講者が3名(アンケートを記入した最終回は、欠席が1名いた)のごく少数の授業であったため、学生の受講意欲がきわめて高かった。そのため、授業評価も高い結果を記入してくれたものと思われる。受講者が多数になり、あまりモチベーションがない学生が混じったときに、教員の真の力量が求められることになるので、今回の授業を踏み台に今後そうした方途を探求したいと考えている。

結果報告書

授業科目名 日本語教育学演習
 評価実施日 平成25年2月5日
 担当教員名 小野 由美子

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

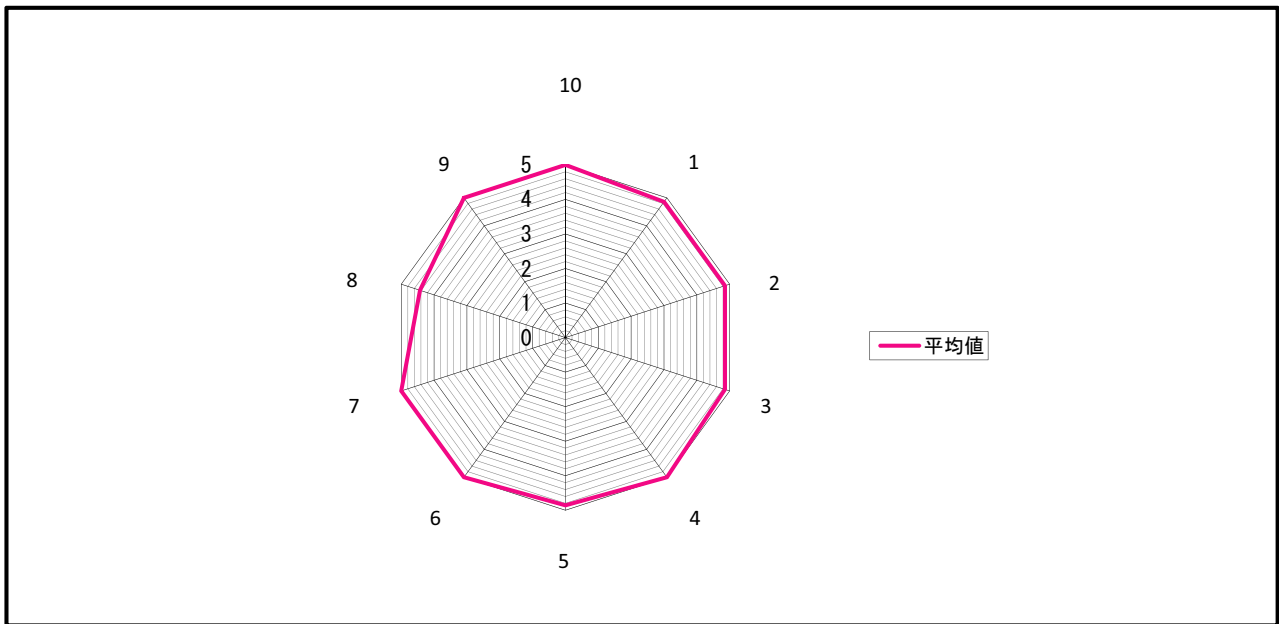
これからも学生の要望に応えられる授業を目指してまいります。

結果報告書

授業科目名 日本語文法演習
 評価実施日 平成25年2月14日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

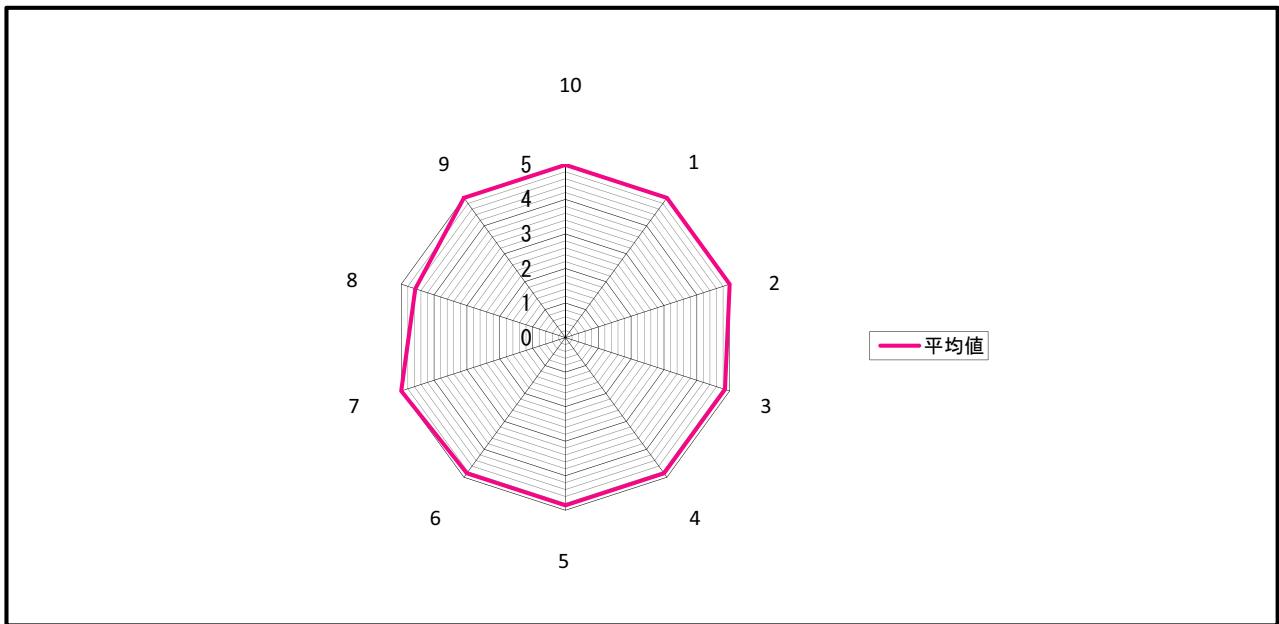
本授業は、日本語の文法研究の中でもとりわけ幅広く深い洞察がなされてきた「指示詞(コ・ソ・ア)」について、古典的な論文から最近の論文まで幅広く検討し、従来何が問題とされてきて、現在何が問題として残されているのかなどを議論することを目指した。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「説明がとてもわかりやすい(話し方、内容ともに)。豊富な具体例を出してくださったり、我々が理解できていない部分を見極め補足してくださったり等、指導者としてのあり方も学べた」「論文内容についてだけではなく、教授法についても話を広げてくれたのでより広く知識を得られた」「発表担当者への事前指導にたくさんの時間を取ってくださり、発表の方法やレジュメ作成についても勉強になり、今後活かせると思っている」など、教員によるサポートを高く評価する声が多く見られた。一方で、「(日本語文法の中で)指示詞のみに話題を限定した理由が曖昧だった」のように問題意識をうまく伝えられていなかった点は反省すべきであるし、「日本語を教えた経験のある受講生が多かったので、実際に教案を作って指示詞をどのように教えるかを検討しても良かったのではないか」のように、日本語教育の現場でより直接的に役立つ内容を求める声があがっていた点は今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 日本語語彙論
 評価実施日 平成25年2月15日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

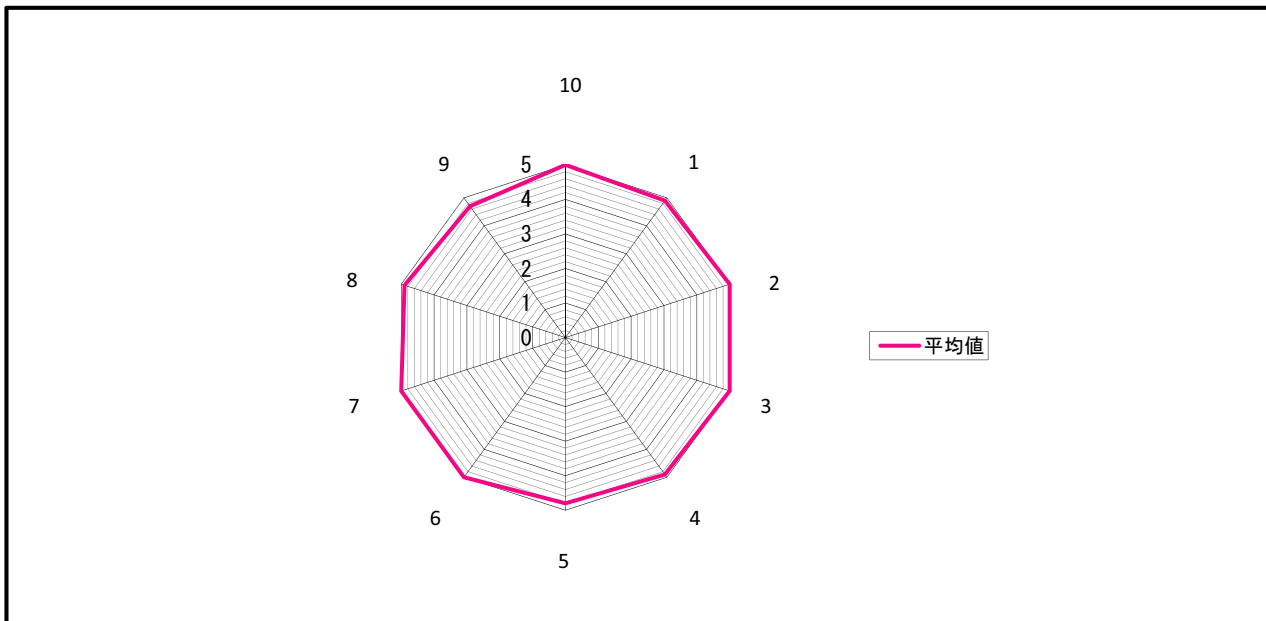
本授業は、語の意味、語構成、語の使用者や社会との関わりなど様々なトピックについて考えることで、日本語の語彙について多角的に捉える視点を身に付けることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「一方的な講義ではなくディスカッションがあったので理解が深まった」「段階を経て自分の知識が増え、理解が深まっているのが分かるようカリキュラムが組まれている」「小テストがあり、理解度の確認ができるとともに、返却時の振り返りが丁寧で埋めるべき穴が明確になる」など、授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「テストが難しかった」「(小テストだけでなく)レポート課題もあって良かったのではないかなど、評価方法に関して改善(再考)を求める声も出ていたため、今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 国語科教育学研究
 評価実施日 平成24年12月21日
 担当教員名 村井 万里子

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



教員のコメント

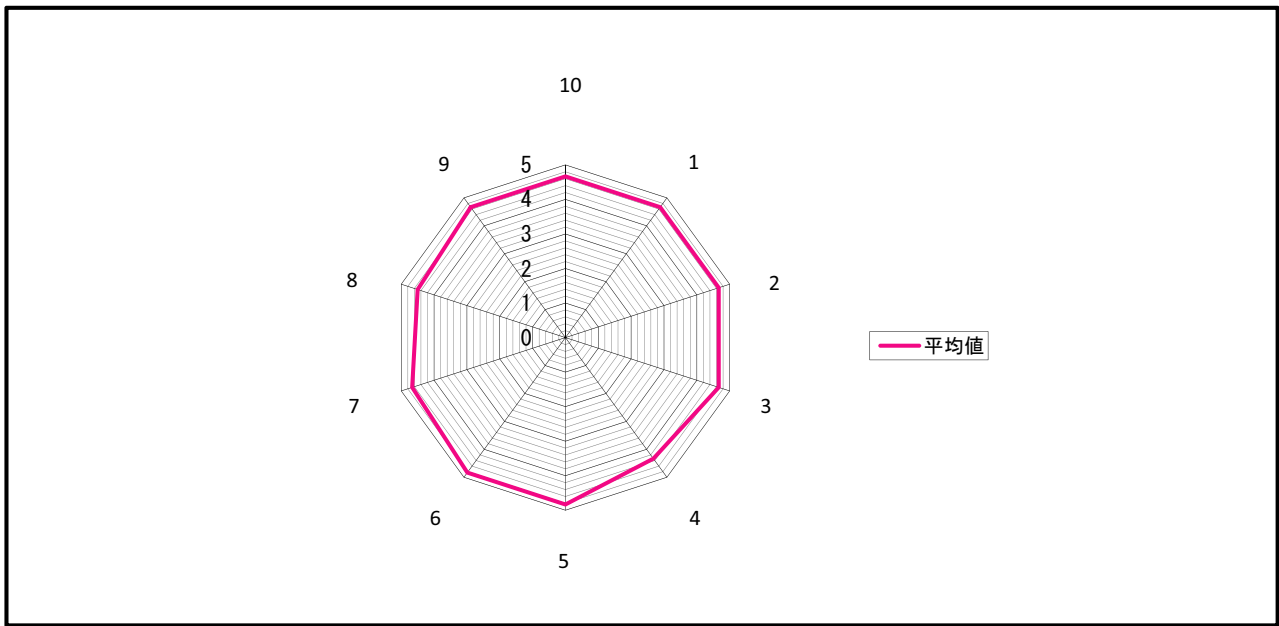
平成24年度前期の半期、内地研究に出たため、今年度のみ、集中講義によって授業を展開した。授業のコアとなる基本的内容は、昨年までと変わらないが、内地研究で得た知見を活かして講義内容に基礎づけと実用的展開を増すことができたように思う。受講生はいつでも熱心に小課題に取り組んだ。

結果報告書

授業科目名 国語科教育学演習
 評価実施日 平成25年2月12日
 担当教員名 村井 万里子

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1		1		4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1		2	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



教員のコメント

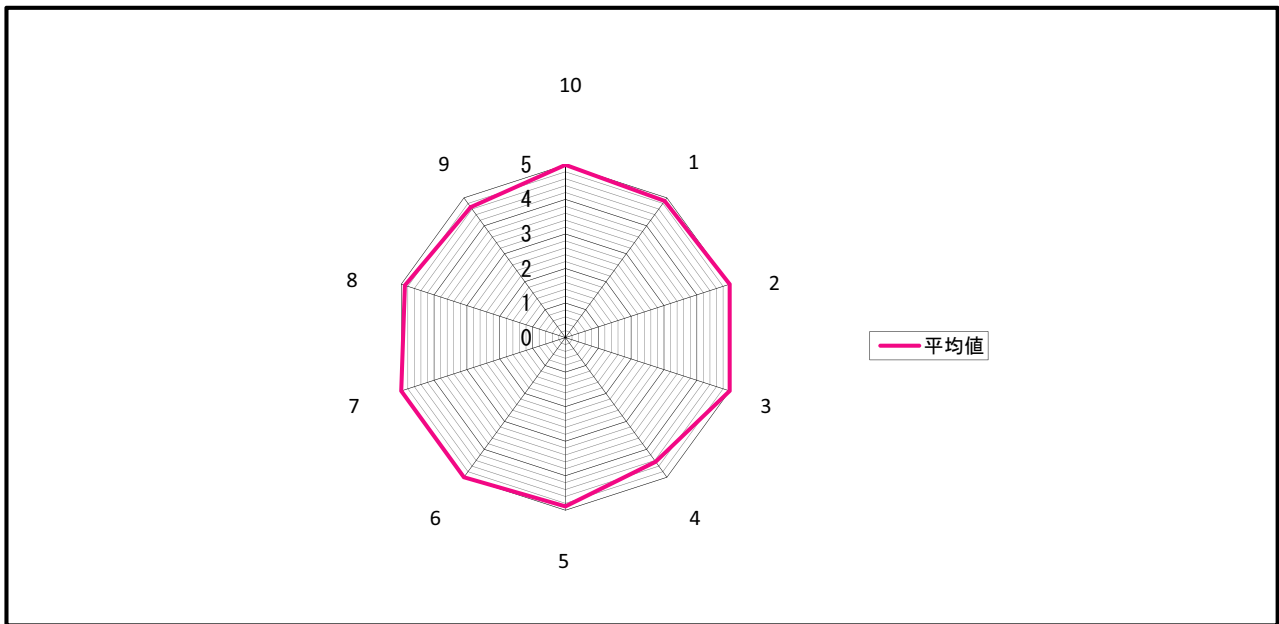
本来は「国語科教育学研究の内容を受けて展開すべき「演習」であるが、平成24年度は演習開始が先になった。
 演習内容は、今年度初めて取り上げる『理解をもたらすカリキュラム設計』ウィギンズ&マクタイの輪読・演習である。
 かなり難解な内容のテキストであったので、冒険であったが、演習の回数を重ねるにつれて、反復される部分に次第に「慣れ」が生まれ、理解が進んでいった。
 当初ねらいとした、理論書の実用性とは何かの実感には、至らなかったことが、受講生の反応・アンケートから察知できる。

結果報告書

授業科目名 国語科授業演習
 評価実施日 平成25年2月14日
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2		1		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



教員のコメント

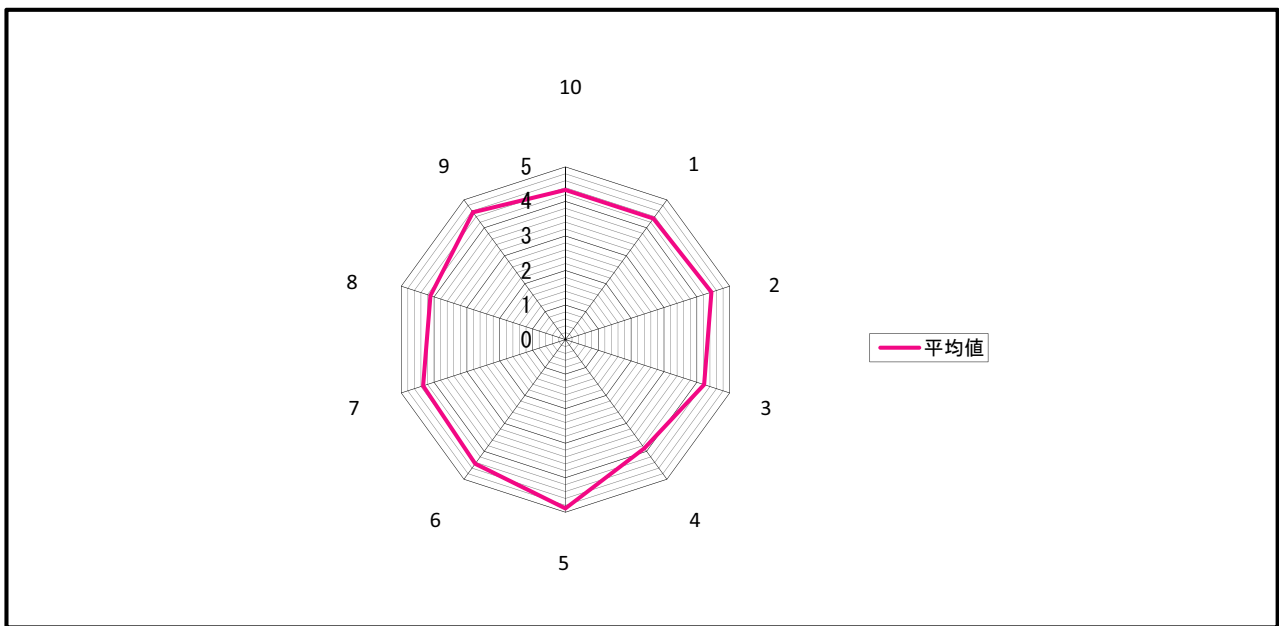
全般的には肯定的な評価をいただきました。少人数で実施する討議形式の演習授業ですので、満足度が高かったのは、受講生の皆さんが様々な話題に主体的に取り組もうとした結果です。ありがとうございました。
 個々のコメントでは、演習の進め方等について建設的な意見をいただきました。まず、今年度も理論と実践の二部立てでの報告を設定していたのですが、有効に機能しなかったのではという感想がありました。理論を検討するときは具体的な実践がないとわかりにくいし、実践を検討するときには理論への意識が希薄になっているので、理論と実践を有機的に結びつけにくかったという意見でした。他にも、実践の検討の方が考えやすかったというコメントもありました。よくわかりますので、演習の設定の仕方について再考したいと思います。また、分析の観点をしぼった方が意見の交流がしやすかった、報告のモデルがあった方がよかったのでは、といった意見もいただきました。次年度に向けて、改善していきたいと考えています。

結果報告書

授業科目名 国語科教材開発演習
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 余郷 裕次

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6		3			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	3	1		3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	2			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6		3			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5		4			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2	2			4.3



教員のコメント

国語科教材開発演習では、受講生が最も関心を持っている教材や、課題研究で取り組んでいる教材について、教材開発という観点から演習発表を行っている。演習では、その成否が受講生の演習発表のいかんにかかっていると看做しても過言ではない。そこで、教材開発という観点から受講生の興味関心や研究内容についてカウンセリングを行い、演習発表の内容を決定するようにしている。

例年、前期の「国語科教材開発研究」よりも評価の平均値が低い傾向があるが、本年度もその傾向を脱することはできなかった。しかし、受講生が言語系コース(国語)に限らず言語系コース(英語)の者も4名いたため、「何が子どもたちにとって良かったのかを、広い視野で吟味するとてもよい期間でした。」や「国語科だけではなく英語科の視点からも、教材開発について考えることができた。また現職の方もいらしゃったので、より教育現場に近い教材開発のとらえ方もできた。」などの成果が得られた。

また、演習発表後の、教員の指導について、「大村はま先生の書籍を読みきっかけを与えていただけたことがよかったです。」とのコメントがあった。教材開発について、より認識を拡充できるような指導を心がけたい。

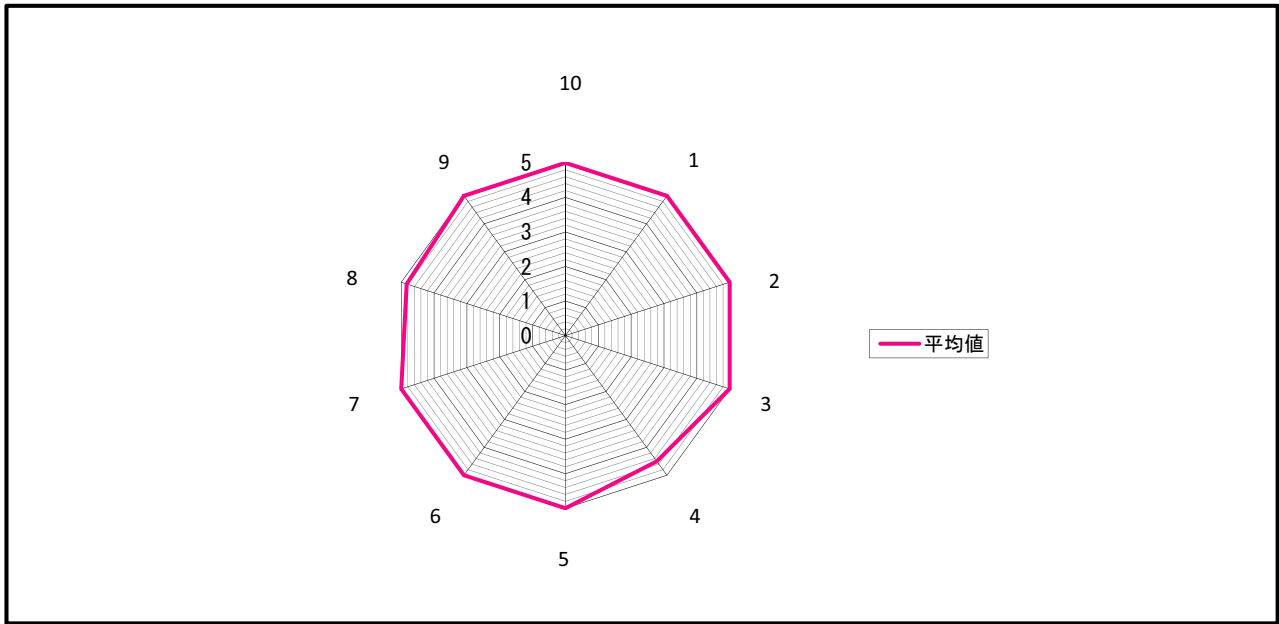
その他に「何を話しても大丈夫な雰囲気がありがたかったです。」とのコメントがあった。受講生が積極的に発言できる雰囲気の維持にも心がけていきたい。

結果報告書

授業科目名 日本語教育法演習
 評価実施日 平成25年2月5日
 担当教員名 小野 由美子

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

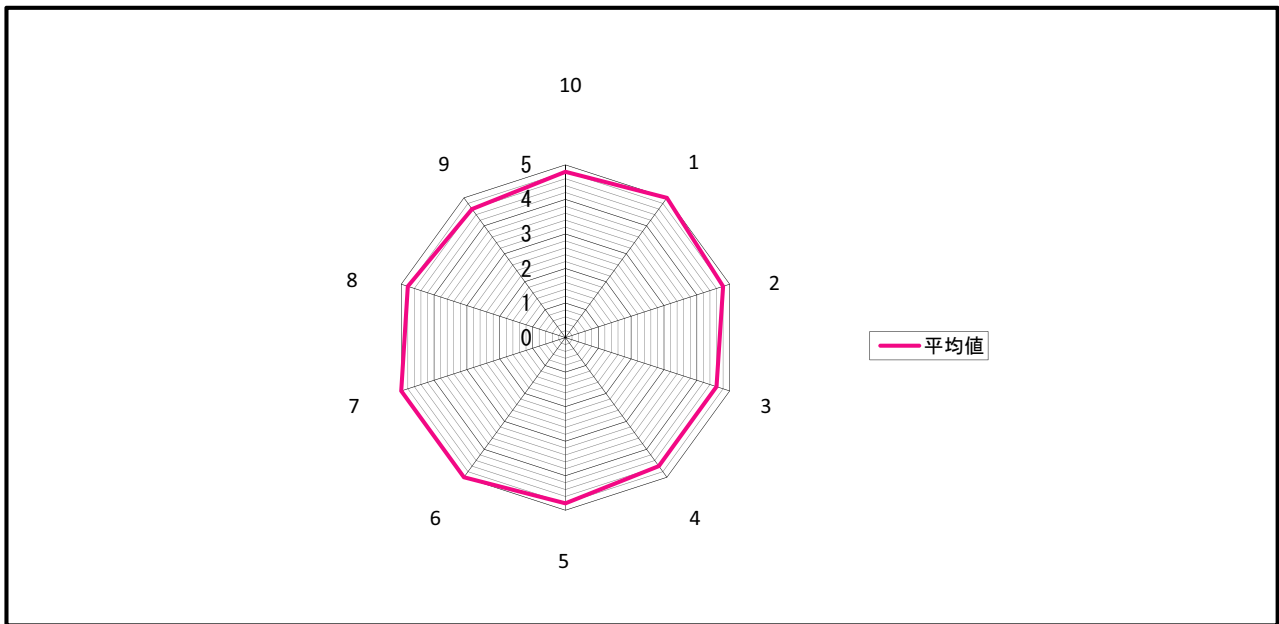
これからも学生の要望に応えられるような授業をしていきたい。

結果報告書

授業科目名 英米文化研究Ⅲ(言語文化研究)
 評価実施日 平成25年2月14日
 担当教員名 杉浦 裕子

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4		1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

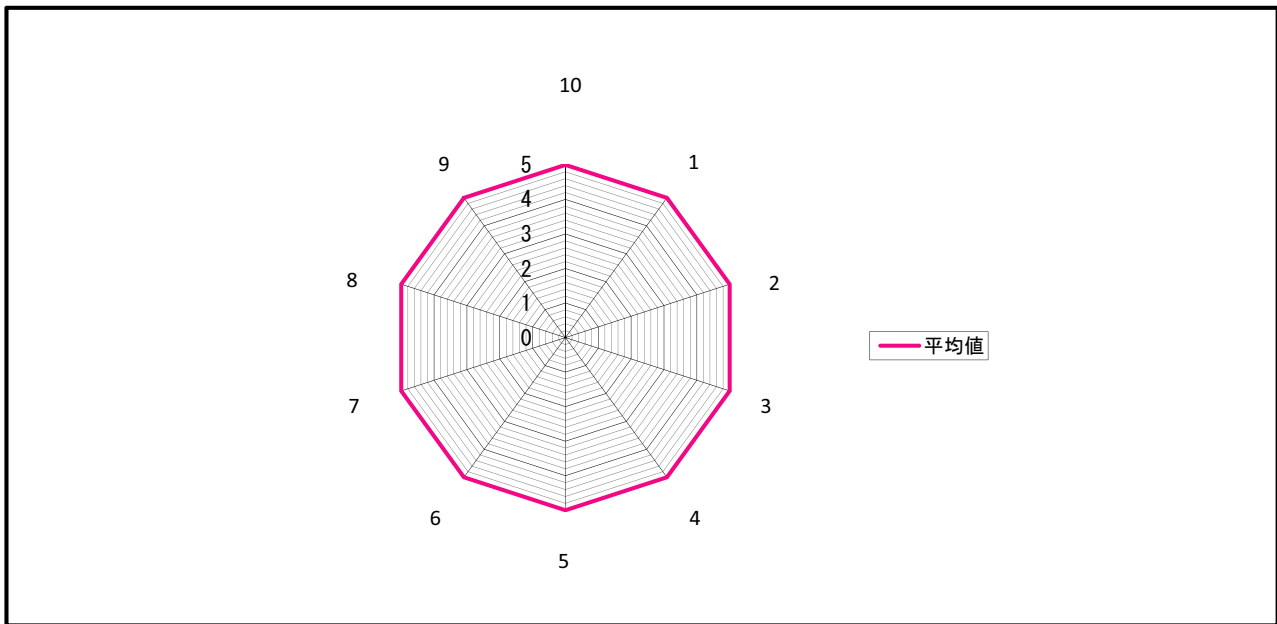
前期のイントロ的な授業とは変わり、後期の授業ではシェイクスピアの劇の中から一つ選んで発表とディスカッションを主体にしつつじっくり精読した。シェイクスピアの英語は難しいながらも新鮮だったようだし、取り上げた劇の映画を見たり、2グループに分かれて上演も行った。受講生のアンケートのコメントを見てもおおむね満足したようだし、授業者としても大学院にふさわしい授業ができたと思う。

結果報告書

授業科目名 英米文学応用演習 I
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 前田 一平

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

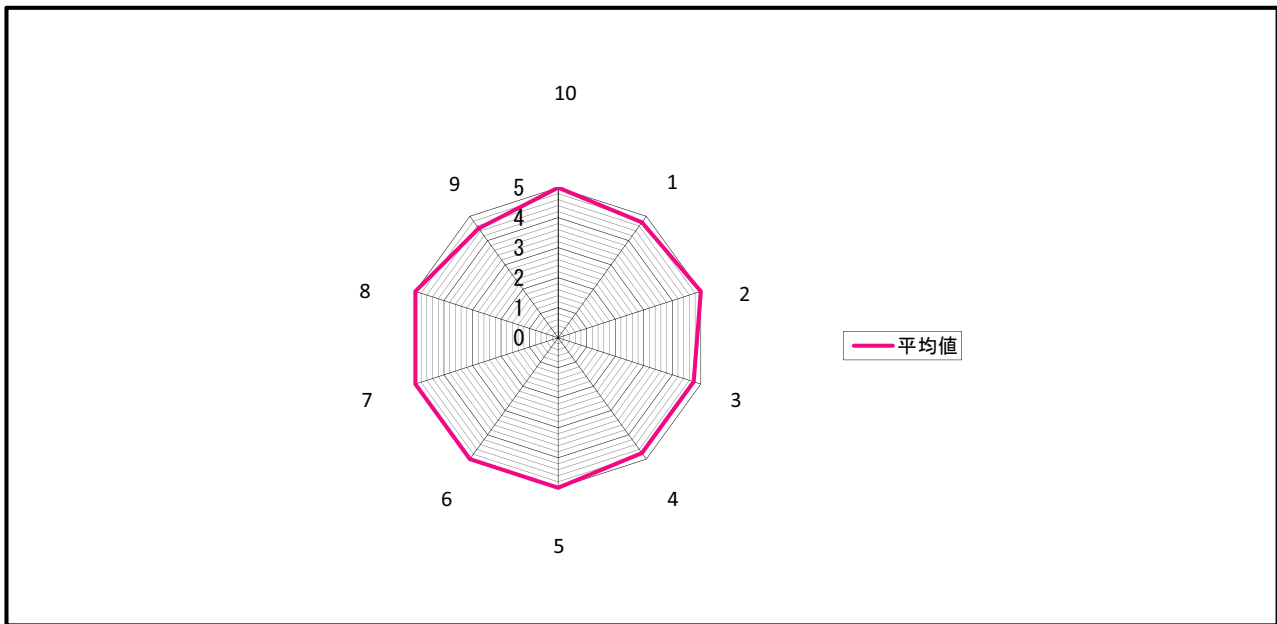
回答者が2名と少なかったために、このアンケート結果は信頼性に問題があるかもしれない。文学の授業でいつも感じるのは、現職教員を含めて、本学の院生は本を読まない、文学を読まない。そこで、私の役割は、子供に読み聞かせをするように、とにかく物語を読むという姿勢を育み、まずは他者の言葉に耳を傾けることを心がけさせることを基本としている。自由記述にも、読むことによって見える世界のおもしろさを指摘する声がある。言語活動の第一歩は、他者の声(テキスト)に耳を傾けること。本アンケート結果によって、このような授業の正当性を確認し、確信した。

結果報告書

授業科目名 学習英文法演習 I
 評価実施日 平成25年2月6日
 担当教員名 眞野 美穂

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

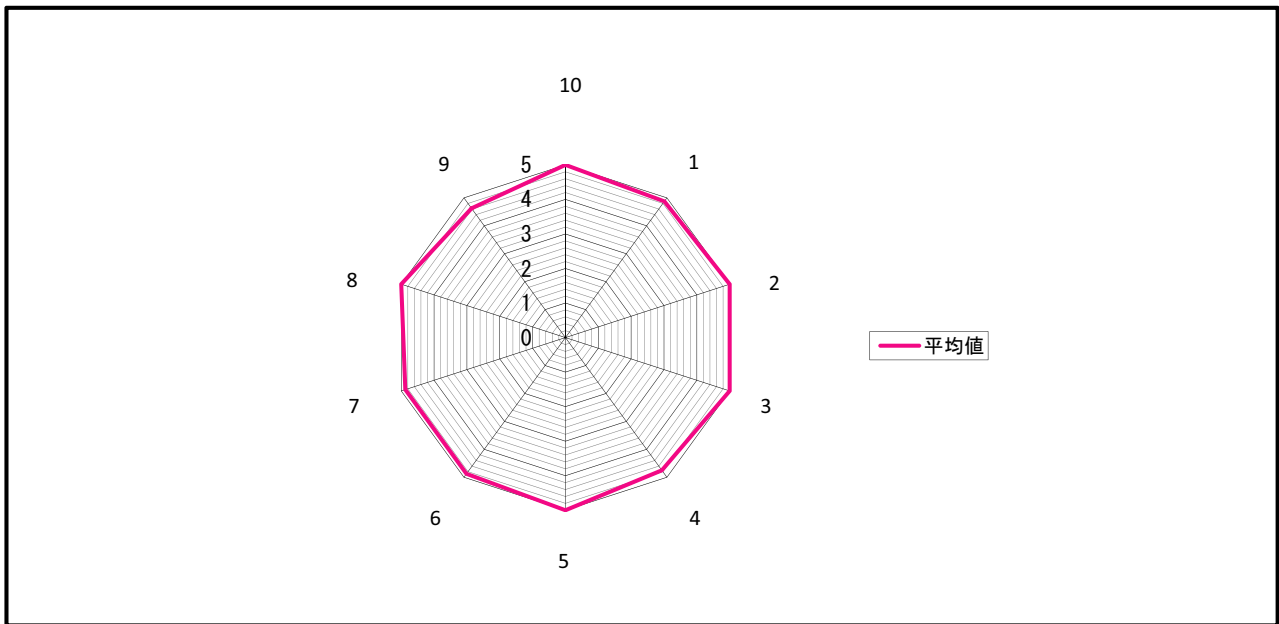
本授業では、授業の進め方として学生の発表や意見交換を中心に行ったものであるが、非常に高い評価を受けることができた。自由記述欄にも、英文法への興味を喚起された等の肯定的な意見も得ることができたため、進め方が間違っていないことに安心している。少人数授業だからこそできたことでもあるが、今後もできるだけ学生に考え、調べさせるような授業展開を行い、主体的に学べる姿勢を養いたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 英語科教育演習 I
 評価実施日 平成25年2月19日
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

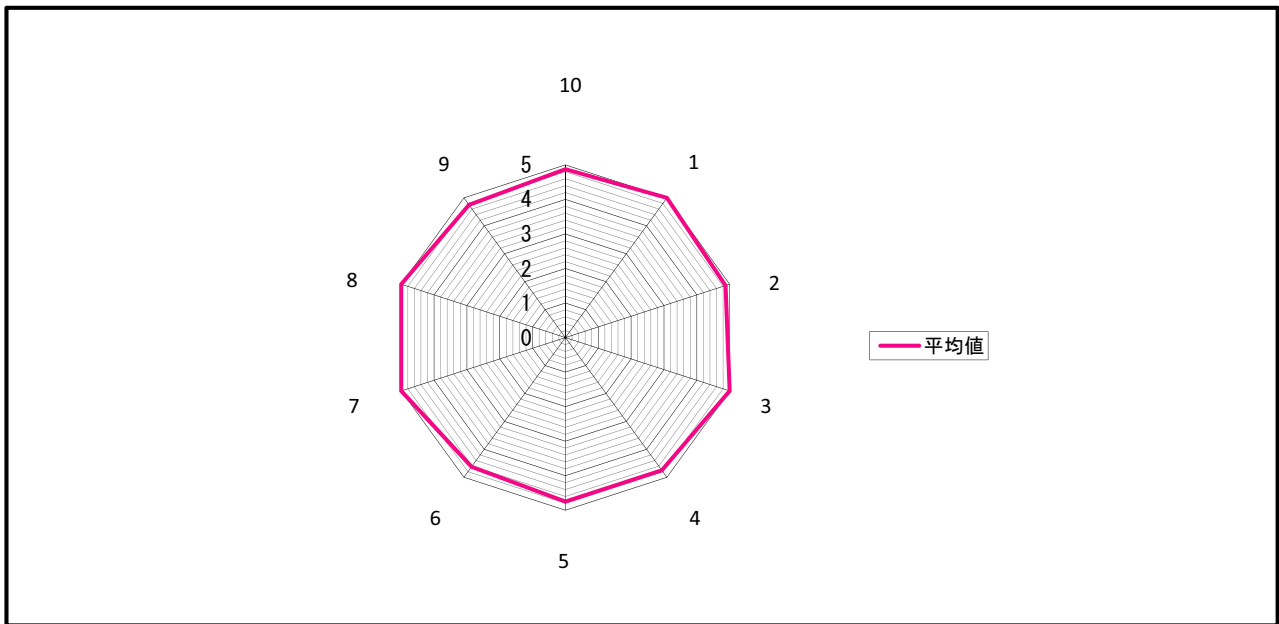
本授業の目的は、英語教育学の立場からL2学習における文型の役割に注目し、伝統的な文型指導にかわる発達論的文型指導論の理論と実践について理解を深めることであった。本授業に寄せられた受講生からの評価結果(10項目中5項目で授業評価を行った受講生8名全員が5の評価で、残りの5項目の中の3項目で8名中7名が5の評価、全体の平均値は4.9、そして総合評価は5.0)から判断する限り、授業の目的を達成する上で一応の成果が得られたものと考えられる。具体的な成果としては、授業のメインテーマである発達論的文型指導論について原書講読とそれに基づく講義を通して一定の理解を受講者に授けるとともに、中学生を対象とした調査の実施と結果の分析を通して、実証的調査研究の方法についても受講生の理解を深めることができたと思われる。受講生からも「生徒の実態をもとにそれに対してどのような策を講じるかを理論的に考えることができた」、「定型表現・文型指導についてよく分かった」、「実際に中学校で調査したのも良い経験になりました」など、好意的な意見が寄せられた。その一方で、「実際、家庭教師をしている中2生にA is Bをやってみたが、余計に混乱させてしまった」という反省もコメントも寄せられた。加えて、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に対しては、8名中3名が4の評価を下しており、改善の余地が残されている。今後、受講生の反応を見ながら、必要があれば改善していきたい。理論ほど実践的なものはないというのが持論であり、今後も実践につながる理論と、理論に支えられた実践の関係を模索していきたい。

結果報告書

授業科目名 英語科教育演習Ⅱ
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 山森 直人

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7		1			4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



教員のコメント

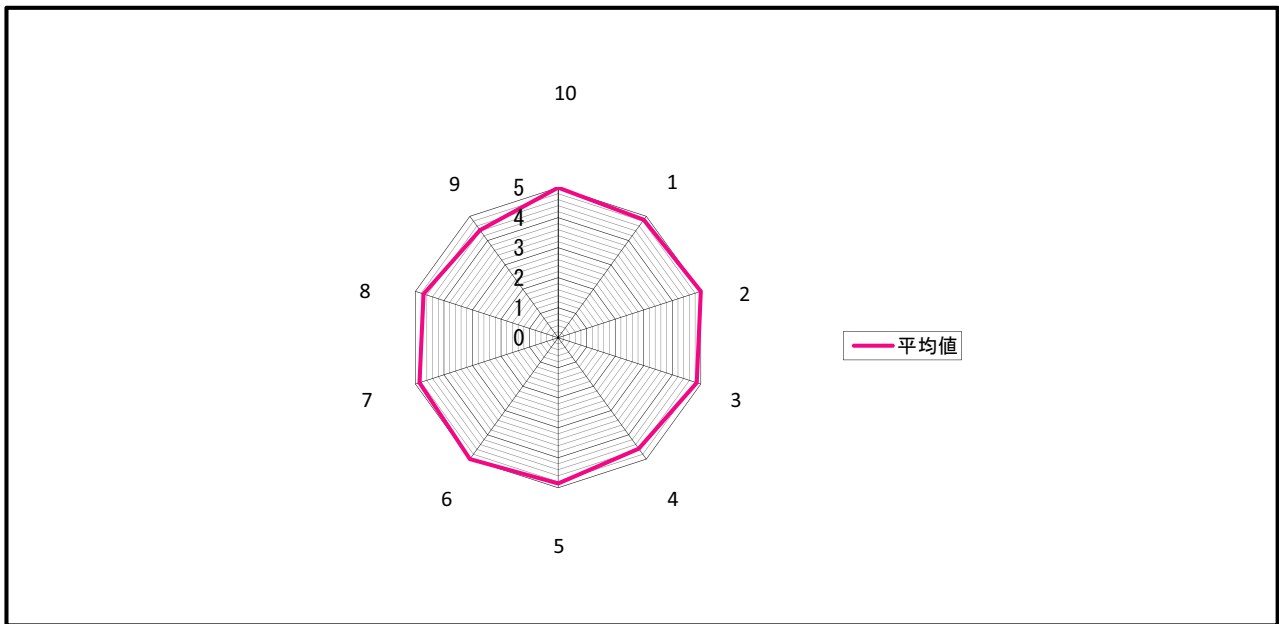
毎年相対的に評価が低い「(5)授業の進む速さは、適切であった。」(4.8)と「(6)受講生に分かりやすく説明した。」(4.6)について高い評価を得ることができた。授業進度にゆとりをもたせるために授業内容を精選し、話し合いの機会を可能な限り取り入れた結果が現れたものと思われる。また、高評価を得た「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」(5.0)についても、実践力の育成を視野に入れた本授業の主旨や展開を明確に述べることに同時に、授業実践の映像を視聴しながら教育実践について考える機会を増やしたことなどが、成果として現れたものと考えられる。総じて、高い総合評価(4.9)を得ることができた。しかし、本授業評価アンケートには結果として現れにくい、改善が必要な点もある。特に授業中に扱った授業実践映像を精選する必要がある。また本授業で扱う話題に関する受講生1人1人の考えを深く理解するとともに、受講生の思考をさらに広げ掘り下げるような問いかけを考えたい。

結果報告書

授業科目名 英語科教育演習Ⅲ
 評価実施日 平成25年2月5日
 担当教員名 畑江 美佳

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	3				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

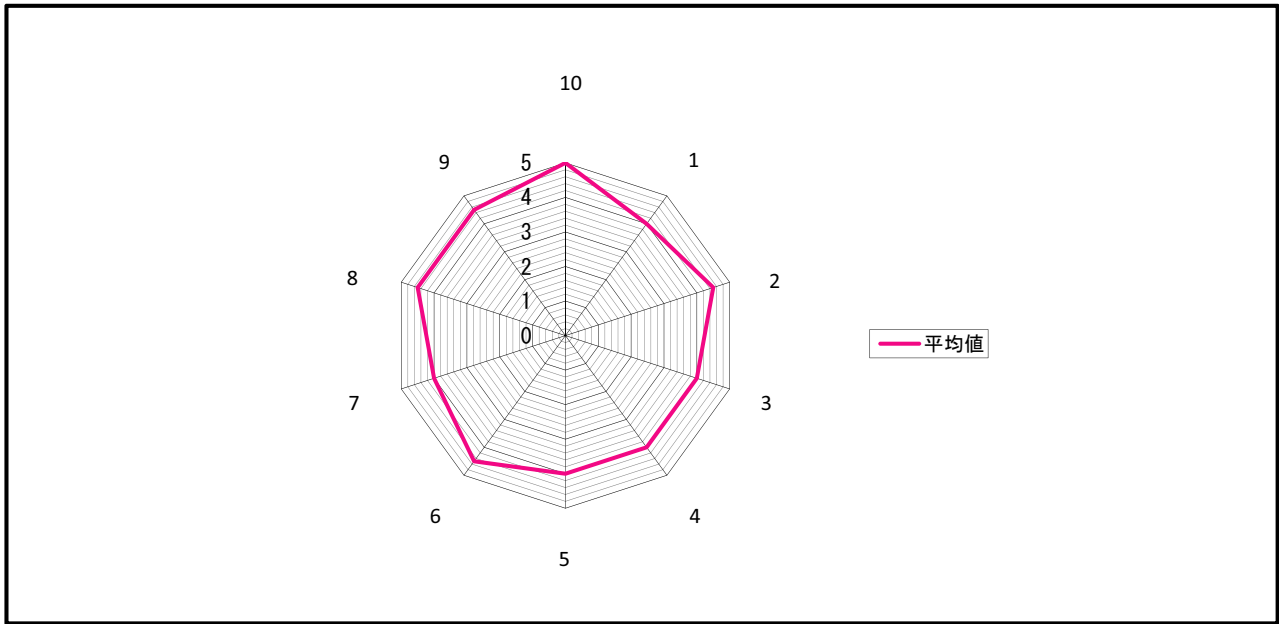
総合評価で5をいただけただので大変良かったと思います。学生主体の授業をできるだけ心がけ、一人一人が問題意識を持って毎回の授業に参加するように促し、授業内での積極的な意見交換も今後続けていけたらと思います。

結果報告書

授業科目名 地理学実習
 評価実施日 平成25年3月8日
 担当教員名 木原克司, 立岡 裕士

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		2				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

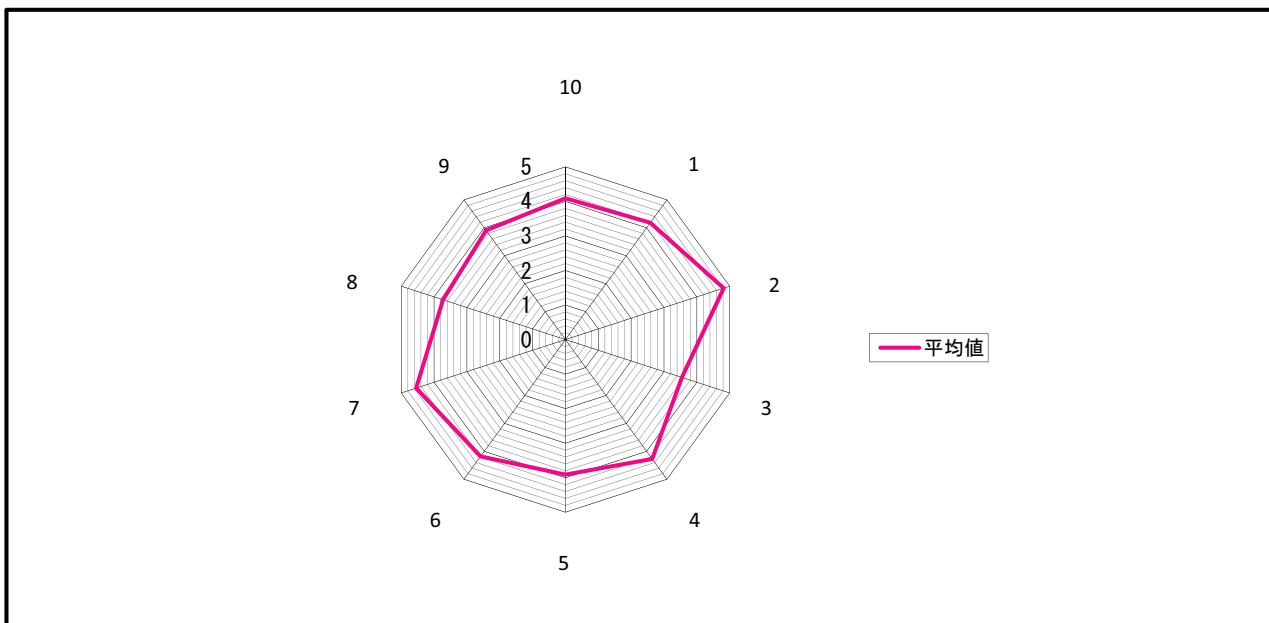
特に大きな問題はなかったと思われる。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究 I
 評価実施日 平成24年12月21日
 担当教員名 西尾 和美

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	7	1			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5	2	1	1	3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3	1	1		4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2	2	2		3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	4	1	1		4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	3	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2	6			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	4			3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	5	1	1		4.1



教員のコメント

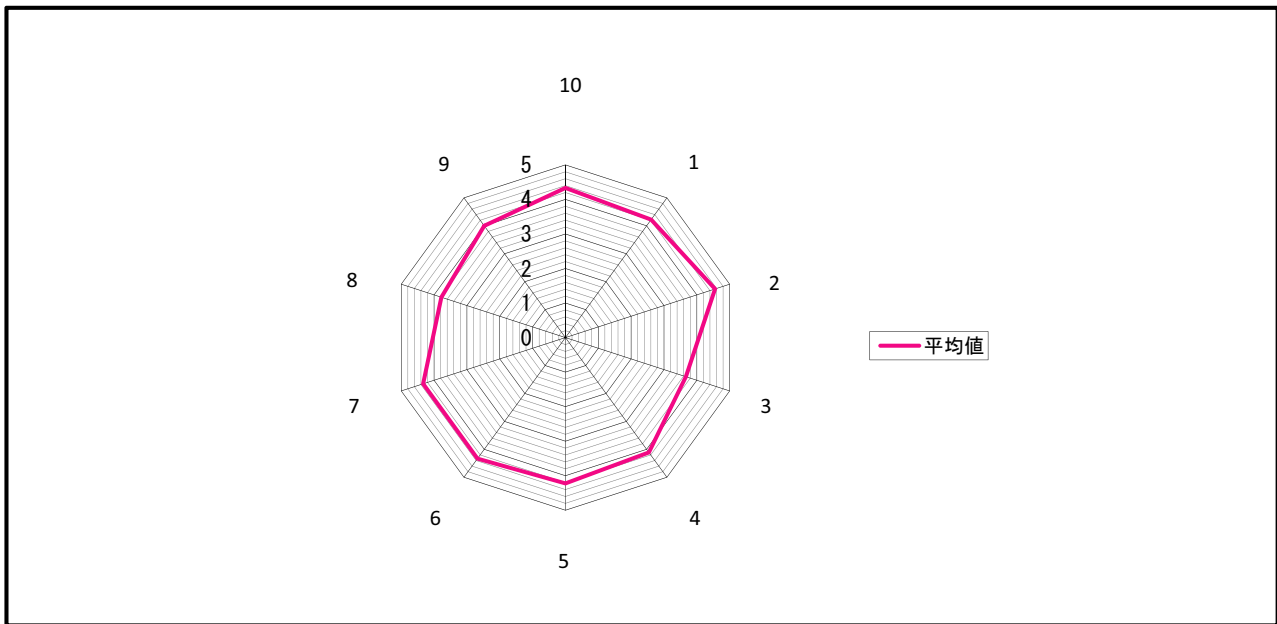
総合的な評価からすると、この授業はまずまず受講生にとって良好なものであったと判断されよう。特に、(2)の専門知識、および(7)の配付資料についての評価の高さは相互に関わるもので、具体的な歴史の詳細に触れたという実感にもとづくものであったと考えられる。次に、評価が低かった点について述べる。最も評価が低かったのは、特に(3)教師としての実践力につながる内容という点である。ただ、この点については、6割強の受講生は比較的高い評価を回答しており、2割弱ずつがどちらとも言えない、もしくは否定的評価を選択している。それからすると、今年度受講生の専門性等に多様性があったことも結果に反映しているかと考えられる。この授業の性格および専門知識を深めるという(2)との両立から考えて、この評価を高めるのは難しいが、次年度は、実践力の育成につながる有効な内容とは何かを受講生とともに考える機会を持ちつつ、授業を展開したい。(8)の視聴覚機器の使用については、多様な絵画資料の配付も視覚的教材の工夫の一つであり、また一過性の画面より授業外学習においても有効に活用され得ると考えた。板書についても大学院生であることから主体的なノートテイクを重視したが、最も多くの受講生が高い評価を選択しなかった項目であることを受け止め、次年度は工夫したい。なお、送付されたアンケート結果を全体的に見ると、低評価は2割ほどの受講生が集中して選択している面もあり、次年度は一人ひとりの理解度や満足度を把握する機会をもちつつ、授業を運営するよう努めたい。

結果報告書

授業科目名 歴史学演習 I
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 大石 雅章

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2	1	1		4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	2	2		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6		1	2		4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6		2	1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	1	1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1	1	1		4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2	3	1		3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5	2			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2	2			4.3



教員のコメント

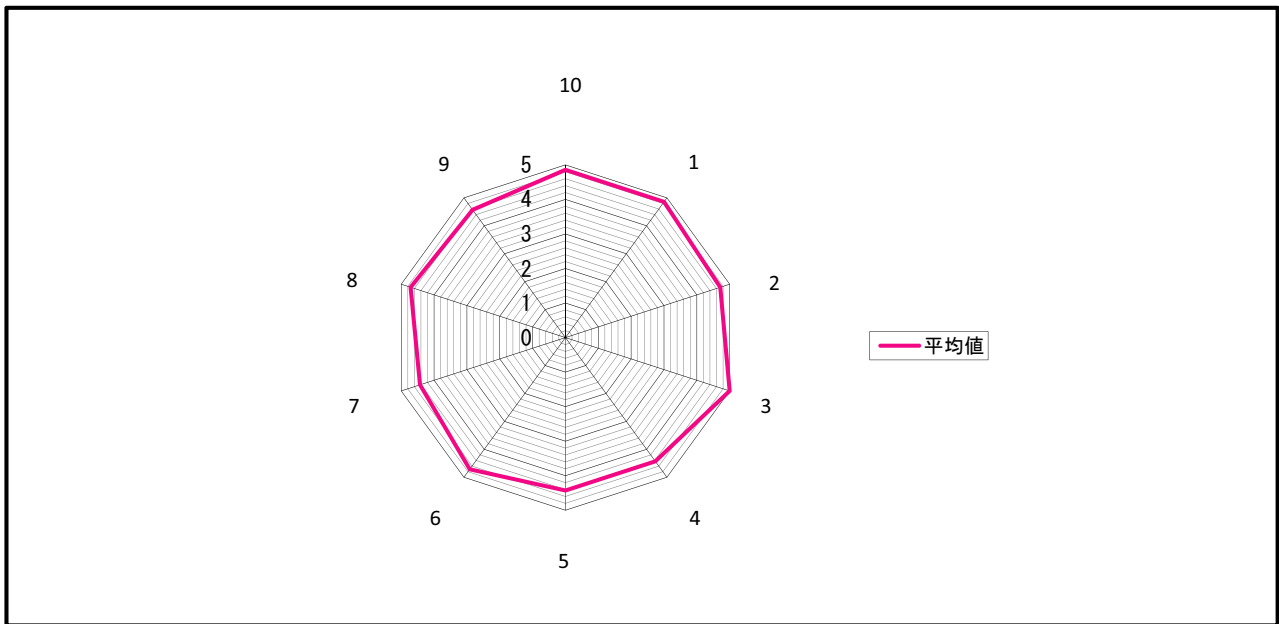
総合評価で4.3とそれなりの評価を得たが、今後改善すべきところは、論文演習で扱う学問的専門性が、教師の実践力にも繋がるということについて、学生に十分に理解されていない点である。その点が理解できるように、授業を工夫しながら進める必要がある。

結果報告書

授業科目名 歴史学演習Ⅱ
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 町田 哲

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	4				4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	2	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6		1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

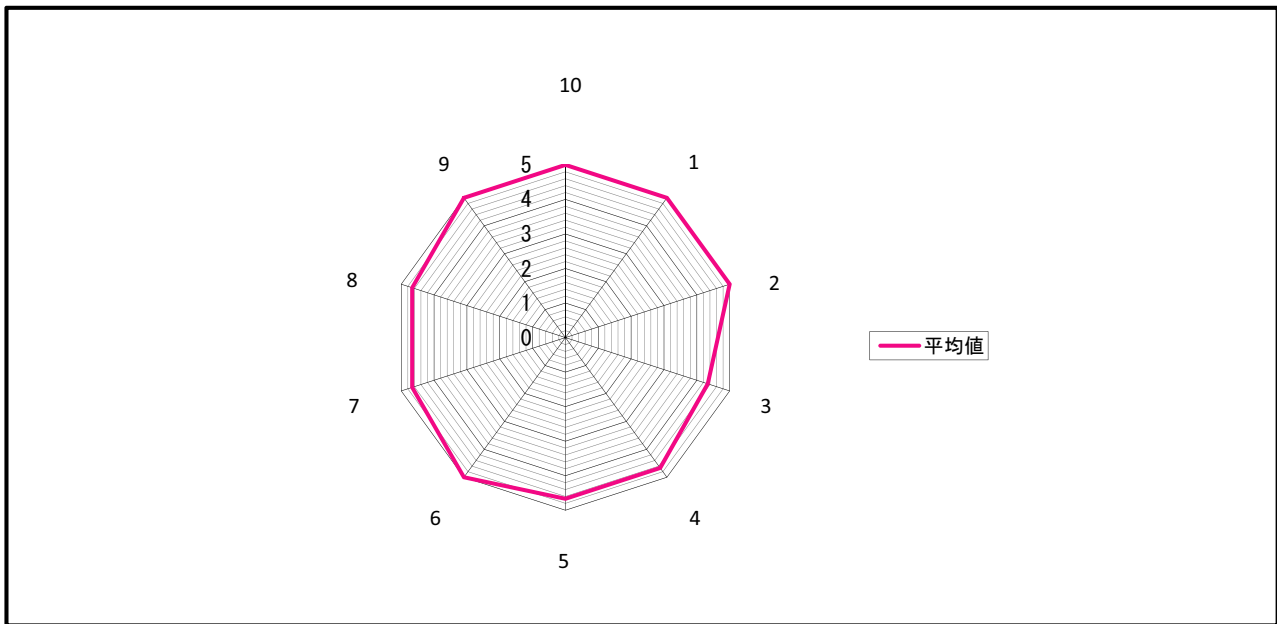
当該年度の歴史学演習Ⅱは、住宅地図(1960-2011)を比較検討しながら、鳴門市撫養の町並みが50年でどう変化したのかを、少数の受講生全員で考察しようとするものであった。実際に現地へ赴き、聞き取り調査やフィールド・ワークを繰り返しながら、2つの地図の比較からうかがえる社会の変化の意味を共同で探るといふ新しい試みで、受講生はこれに積極的に参加した。その結果が総合点4.9という高い数字となった。とりわけ教育の実践力育成につながるとの実感を受講生に持たせるものになったことが、アンケート結果からわかる。ただ、授業者としては、今少し丁寧な分析し、丁寧にまとめる力量を伸ばす必要があったと反省している。深い分析には、それなりの論文読解力や史料読解力、そして歴史に対する理解が求められる。今後は、そうした力量を伸ばすことができるように努力を続けたい。

結果報告書

授業科目名 歴史学演習Ⅲ
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

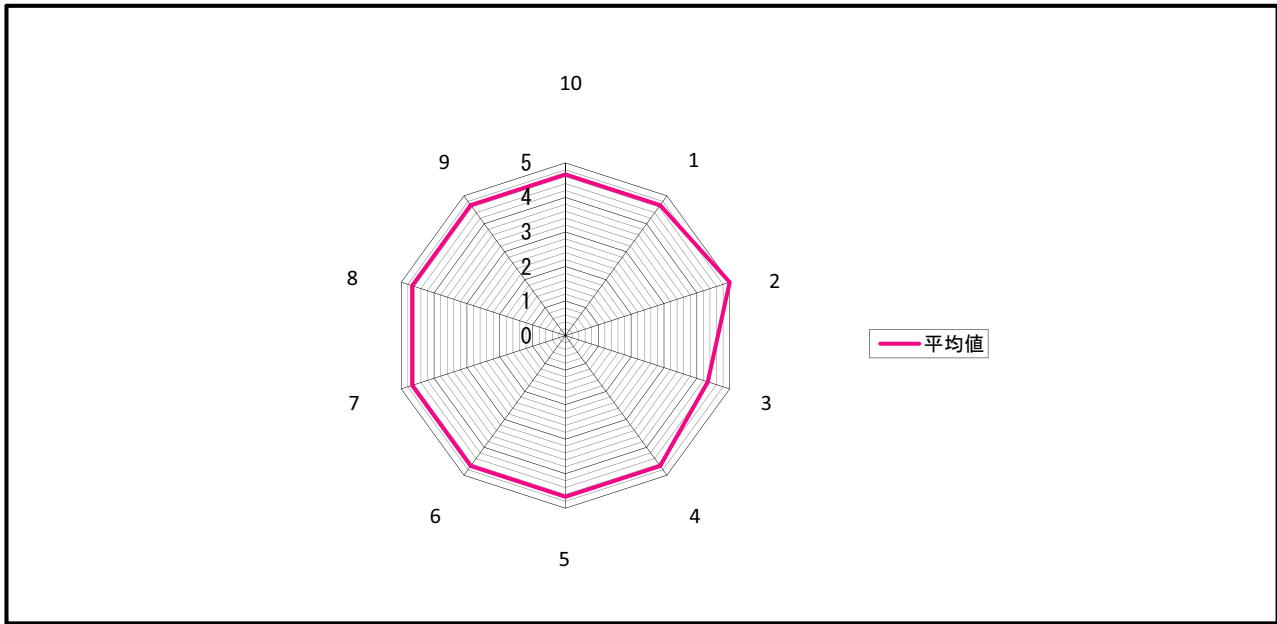
本授業は受講者が決められたテキストの内容を毎週輪番で報告し、それに基づいてディスカッションする形で進められ、さらに、受講者はテキスト以外にも追加的に配布される関連論文も読んでテーマに対する理解を深めた。2012年度はJ・ハーバーマスの『公共性の構造転換』をテキストにした。難解な内容であったが、受講生は苦勞しながらも毎週丁寧にテキストを読んで議論に参加していた。すべての質問項目が「5」または「4」の評価となっており、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。例えば、質問2で全員が「5」と評価していたことから、本授業が歴史学(外国史)の専門的知識の習得に役立ったと感じていることが読み取れる。最後に、質問10で全員が「5」と評価している点からも、学生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。

結果報告書

授業科目名 地理学研究Ⅱ
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 立岡 裕士

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

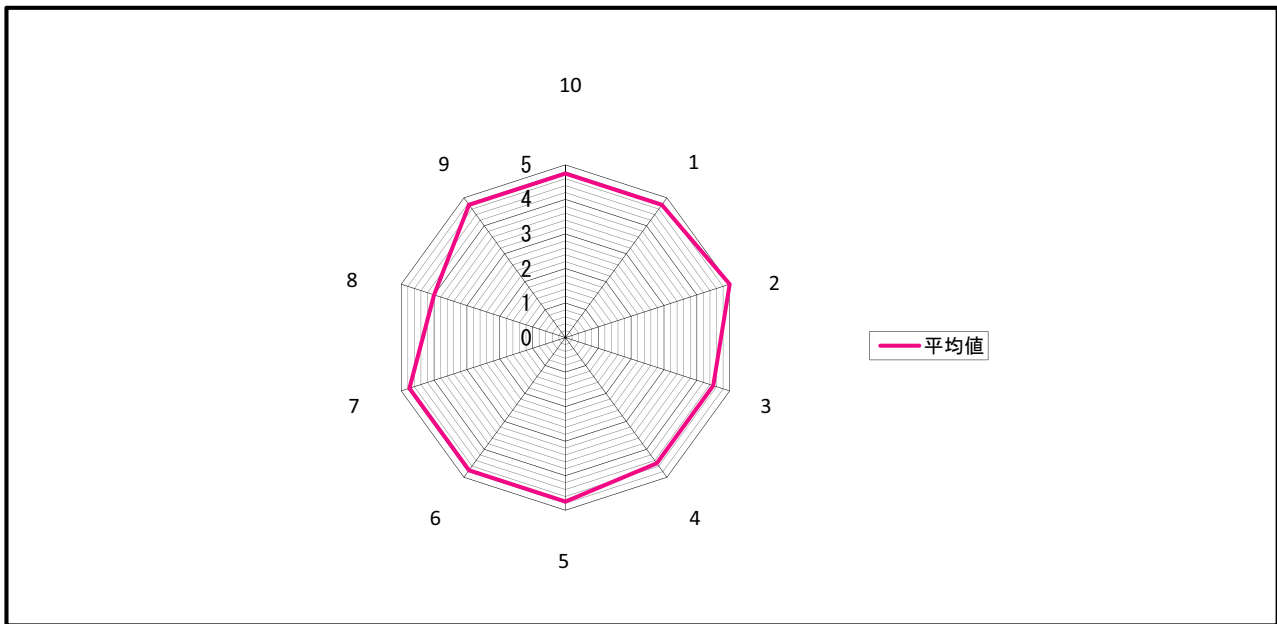
受講者が少数のためもあるが、特に大きな問題はなかったものと思われる。

結果報告書

授業科目名 法学・政治学演習
 評価実施日 平成25年2月12日
 担当教員名 麻生 多聞

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

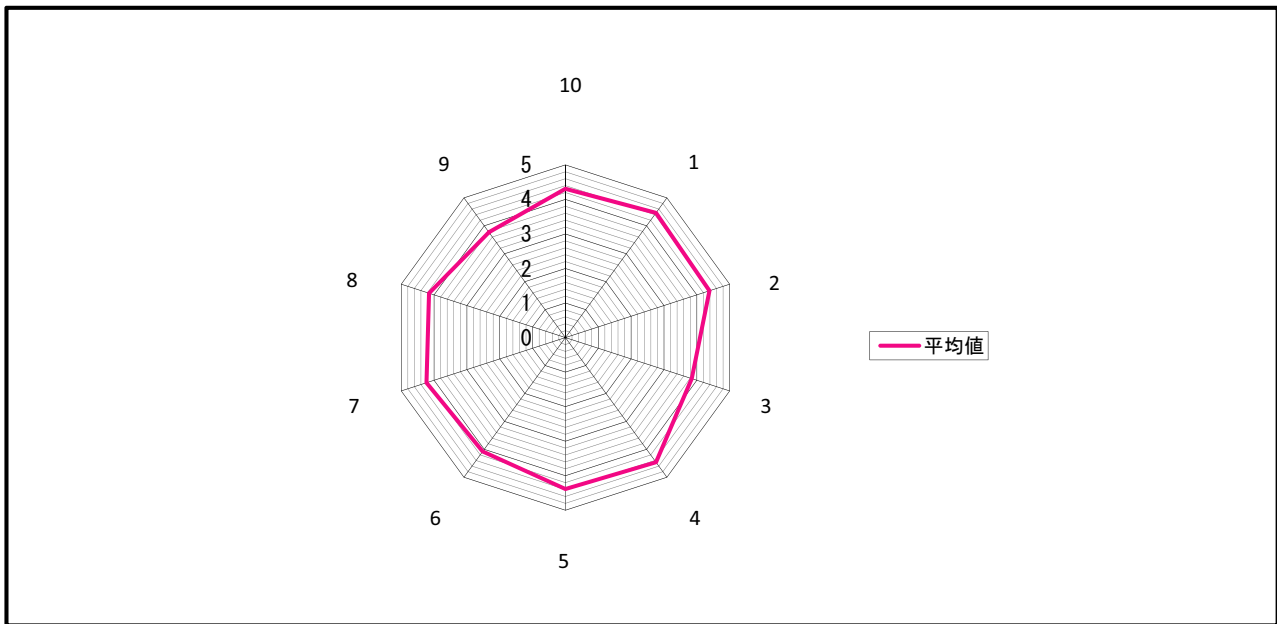
全体的に高い評価をいただくことが出来たと思います。文献講読にあたって、参加者の全員が主体的な意識をしっかりと持ちつつ、実りある議論が出来たように思います。板書については他の項目に比べて若干評価が低かったようですので、今後改善していきたいと考えています。

結果報告書

授業科目名 社会科授業研究
 評価実施日 平成25年2月4日
 担当教員名 伊藤 直之

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	7				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4	2			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	7	4			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	5	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	6	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	8	2			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	10				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	7	2			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	9	2	1		3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	7	1			4.3



教員のコメント

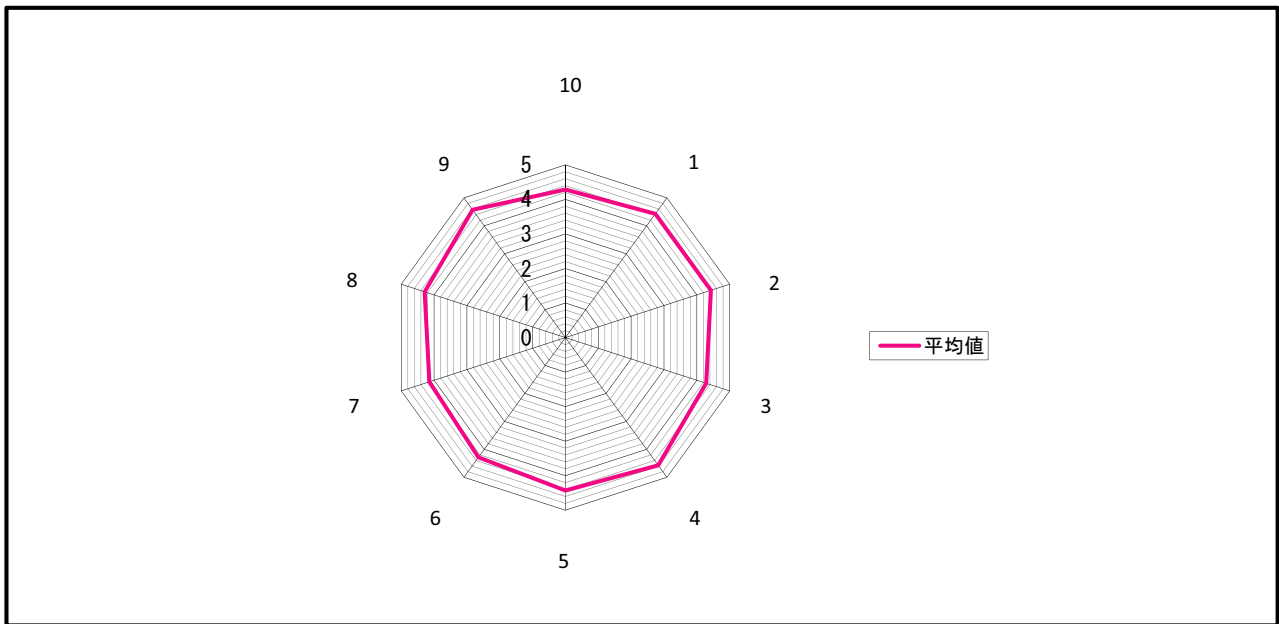
教師の実践力育成につながる内容として評価が低いように思われる。また、説明のわかりやすさという点で、課題がある。
 社会科授業の原理・理論にやや傾斜した内容であったかもしれない。
 今後は授業実践につながるように、受講生の「活動」なども取り入れて、講義一辺倒にならないように気をつけたい。

結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習Ⅲ(公民領域)
 評価実施日 平成25年2月14日
 担当教員名 井上 奈穂

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	4				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	4				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	4				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	2			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	1	1		4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2		1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1	2			4.3



教員のコメント

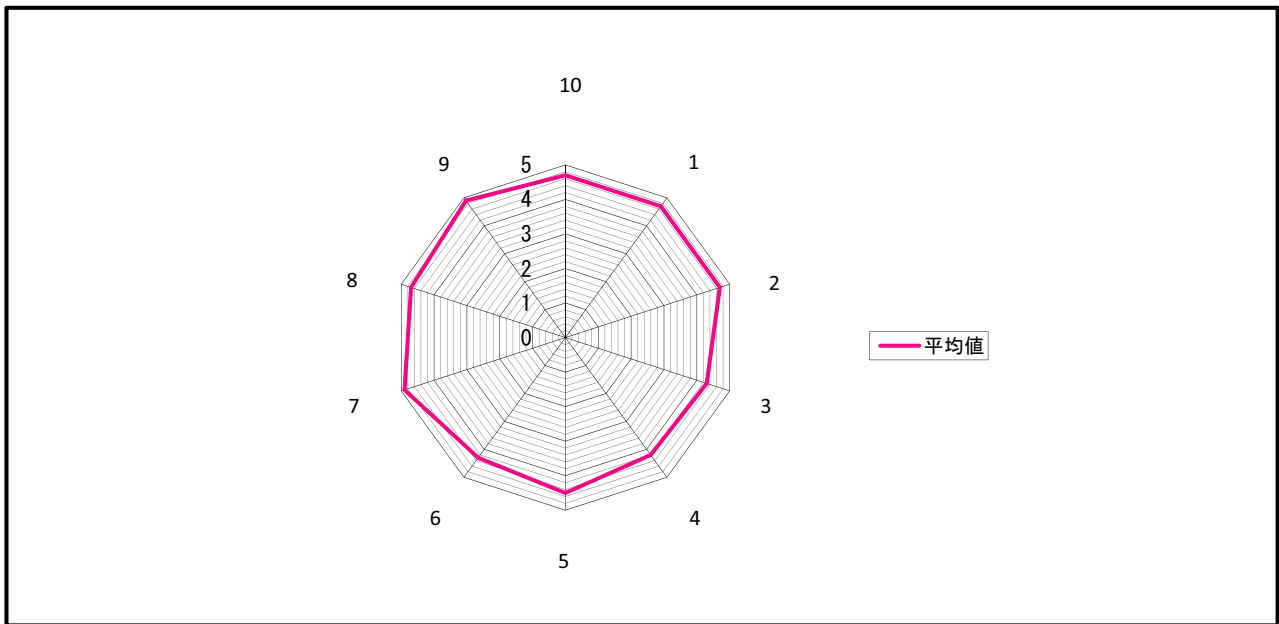
アンケートに示されている10項目全体の平均は4.3であり、まずまずの授業であったといえる。カテゴリー別にみると、「教員の授業の進め方について」の項目のうち「(7)教科書や配布された資料は、適切であった。」が低い。このことから、特に、資料の選択に課題があると言える。一方、「あなたの授業への取り組みについて」の項目は、他の項目と比較して高い。今後は、学生が取り組める場を積極的に設定するとともに、提示する資料等の改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名 幾何学研究
 評価実施日 平成25年2月19日
 担当教員名 松岡 隆

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1	1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4	2			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	5				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	5	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	3				4.7



教員のコメント

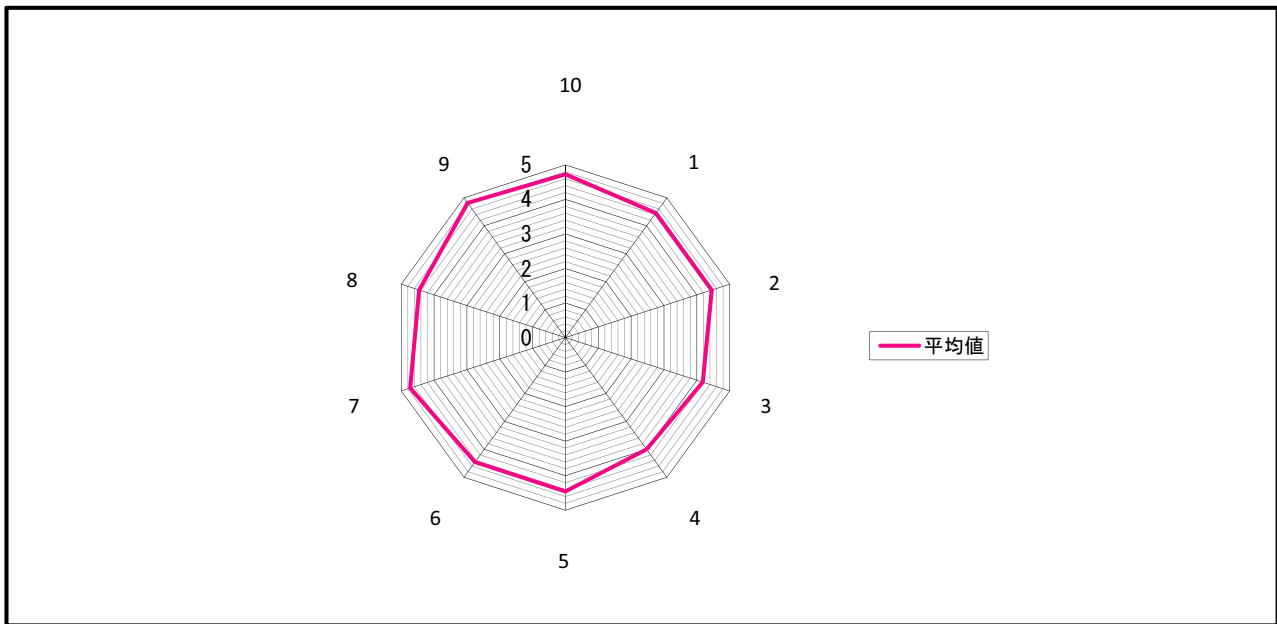
各項目の評価平均値は、4.2から4.9の間に分布し、総合評価も4.7であり、受講生からの評価は概ね良好であると思われる。実践力の育成、成績評価方法の説明と分かりやすさの評価が、他に比べて若干低い。それぞれ改善の余地があると考え。自由記述の「よかった点」の欄には、次の回答があった。「日常生活の中にある幾何学を探すことで楽しみが増えました」。「改善すべき点」、「その他」欄には、回答がなかった。

結果報告書

授業科目名 幾何学演習
 評価実施日 平成25年2月19日
 担当教員名 松岡 隆

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2	2			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	5	3			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	6				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	6				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	3				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3		1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3				4.7



教員のコメント

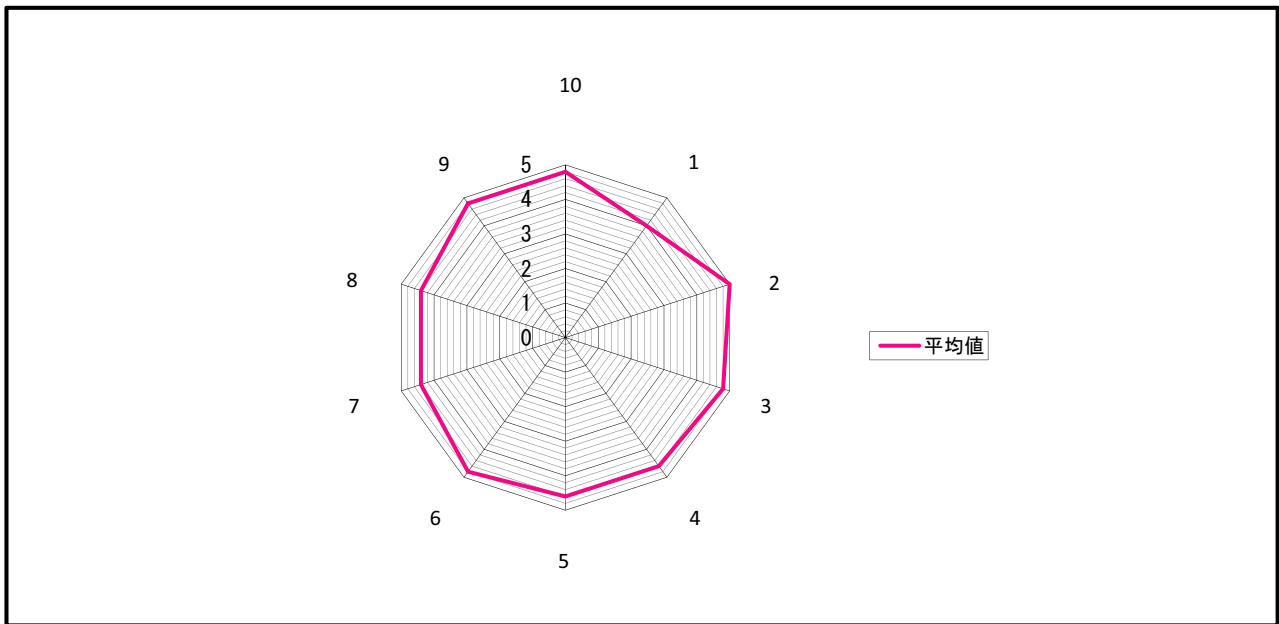
各項目の評価平均値は、4.0から4.8の間に分布し、総合評価も4.7であり、受講生からの評価は概ね良好であると思われる。実践力の育成と成績評価の方法の説明の評価が、他に比べて若干低い。それぞれ改善の余地があると考え。自由記述の「よかった点」の欄には、次の回答があった。「幾何学的に物事を見る楽しみができました。実際に、立体を作ったりすることで理解が深まりました」。「改善すべき点」、「その他」欄には、回答がなかった。

結果報告書

授業科目名 解析学研究
 評価実施日 平成25年2月21日
 担当教員名 成川 公昭

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	2			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

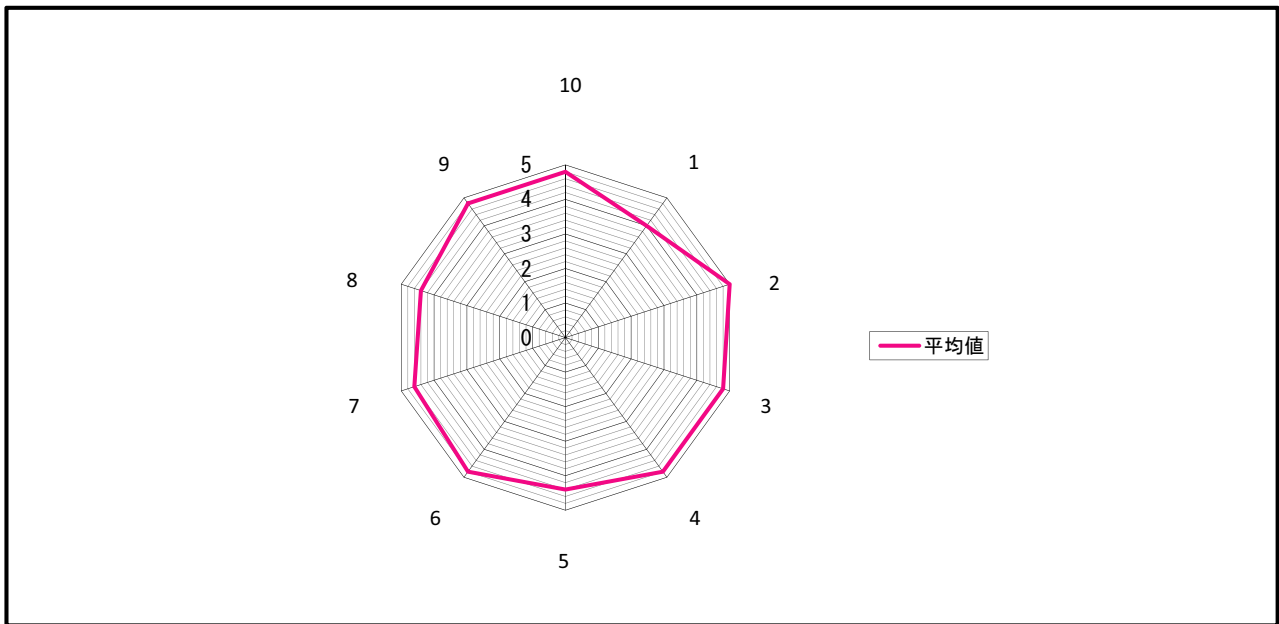
受講生が5人と少人数であったため、学生の理解度や意見を十分に聴取しながら授業を進めることができた。その結果、総合評価において4.8と学生からも高く評価されていると判断できる。特に、「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」の項目においては全員の学生が5.0を出しており大学院の授業として目的が達成されたと思われる。また、意識して学校現場で取り扱われる内容を含んだ教材を現代数学的立場から解説したこともあって、そのことが「教師の実践力の育成に繋がる内容であった。」の点数が、4.8に現れていると思われる。自由記述項目については、「学生の意向に合わせた授業づくりが行われていた」「難しかったけれど楽しい授業でした」という意見が合った一方で、「板書が転々としていて見にくいときがあった」との意見が書かれていた。この点については今後注意して改善しなければと思う。

結果報告書

授業科目名 解析学演習
 評価実施日 平成25年2月21日
 担当教員名 成川 公昭

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	2			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

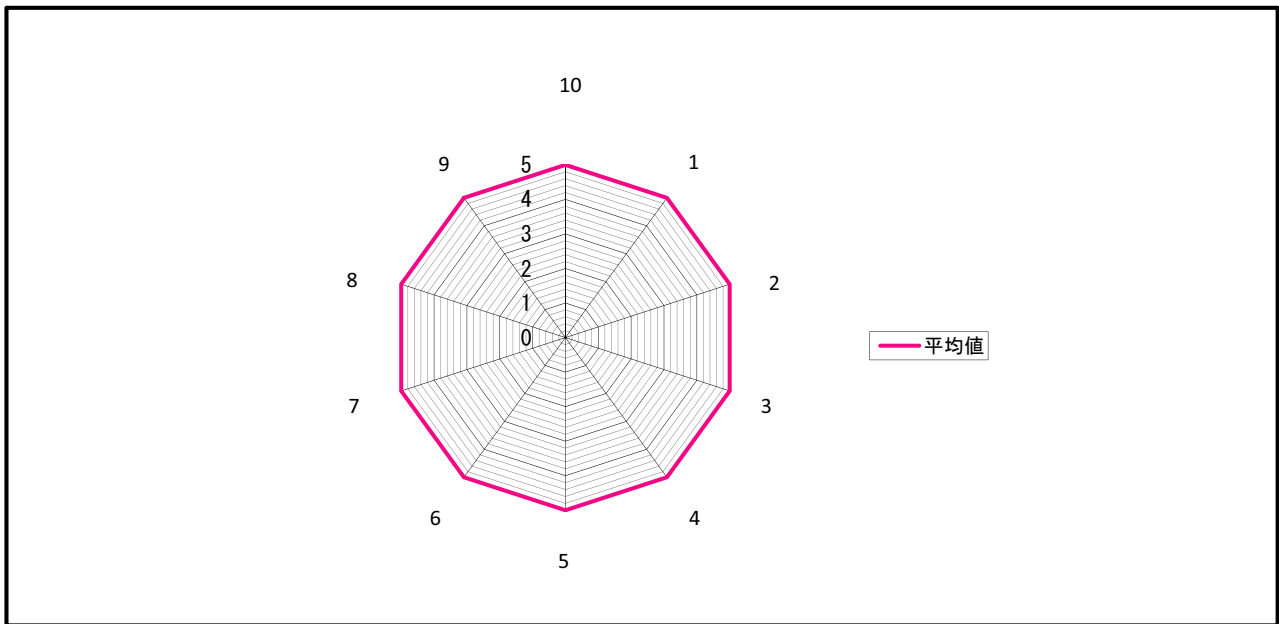
解析学研究を引き継ぎ、演習を行う授業であったが、これも5名と少人数の受講生であったため、十分に学生に目が行き、理解度を確認しながら、また、学生の意見を聞き、それを参考にして進めることができた。その結果、総合評価では平均値4.8の点数がつけられており、受講する側、される側がともに満足できる結果になったと思われる。特に、解析学研究と同様に「専門的知識を深める内容であった」の項目は全員が5をつけており、大学院の授業として求めている専門性を達成できたと評価できる。また、演習においては、解析学研究で述べた理論を背景に学校現場で利用できる教材を視野に入れて授業を進めた。このことが、「教師の実践力の育成に繋がる内容であった。」に対し4.8点と高い評価が得られている理由と思われる。自由記述において、よかった点は「学生の意向に合わせた授業づくりが行われていた。」「わからないところを丁寧に復習しながら学べた。」と書かれている一方で、「板書が転々としていて見にくいときがあった。」との記述があった。板書については、ただ整然と書くことがわかりやすいわけではなく、黒板はダイナミックに使用する必要があると考えているが、「転々として見にくい」との意見は十分に反省し改善するつもりである。最後に、本年は忙しく、また体調もよくないときがあり、講義に影響を及ぼしていないか心配であったが、その他の欄で、「体調がすぐれないときでもそれを感じさせない授業はさすが先生だと思いました。」との記述があった。学生の気遣いに感謝するとともに、授業を行うときの姿勢を改めて思い直し襟を正した。

結果報告書

授業科目名 数学科教育学演習
 評価実施日 平成25年2月25日
 担当教員名 服部 勝憲

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

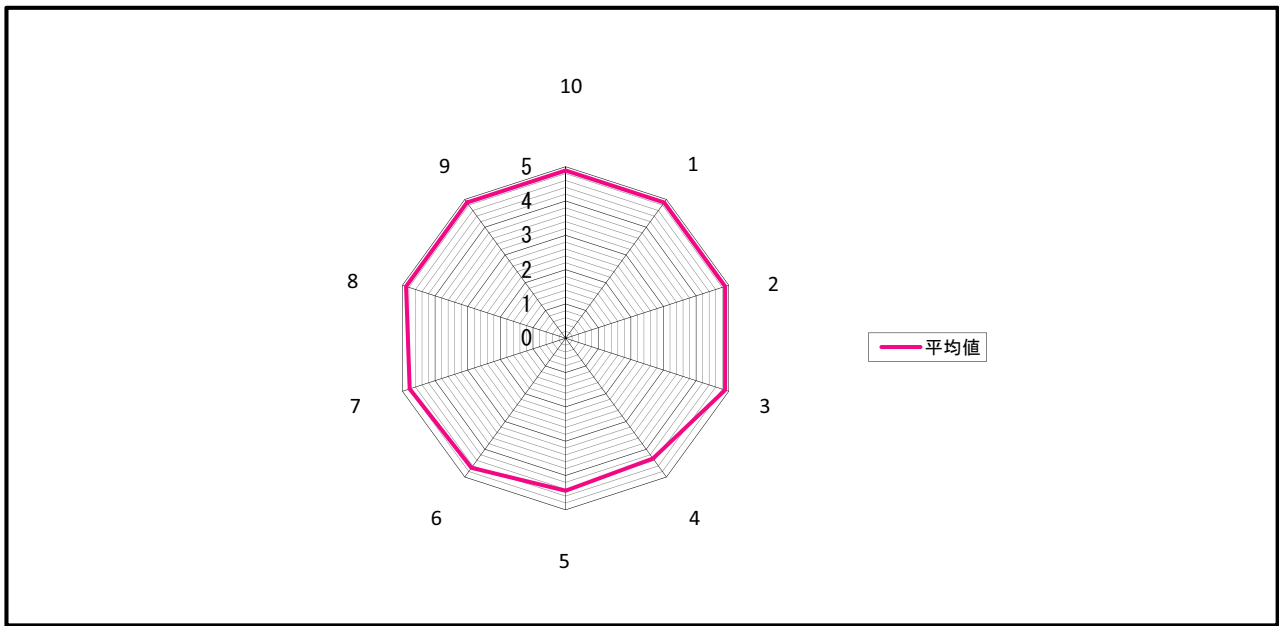
「数学科教育学研究」の内容を基盤として、算数・数学教育における実践的課題をについて考察するとともに、その課題の解決・改善策について探究することを目的とした。そのために授業の2/3の期間は、主として小・中・高等学校の教材とその授業展開の課題について、報告・討議し、実践的研究の課題について理解を深めた。また後半の1/3は、主として受講者が課題意識を持っている領域・内容に焦点を絞り、教材研究と教材開発を進め提案と修正を重ねた。その結果は、「学習内容の統合的な理解を促進する教材の開発」というテーマで鳴門教育大学「学校数学研究」(Vol.21 No.1, pp.33-40, 平成25.5.31)誌上で報告することができた。受講者(2名)が少なく、特に後半は毎回報告・討議という、かなりタイトな展開になったが、大学院の演習科目の内容を1つのものにまとめ上げることができた事例として評価できるものと考えている。

結果報告書

授業科目名 数学科授業研究
 評価実施日 平成25年2月4日
 担当教員名 佐伯 昭彦

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1	1	1		4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	3	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



教員のコメント

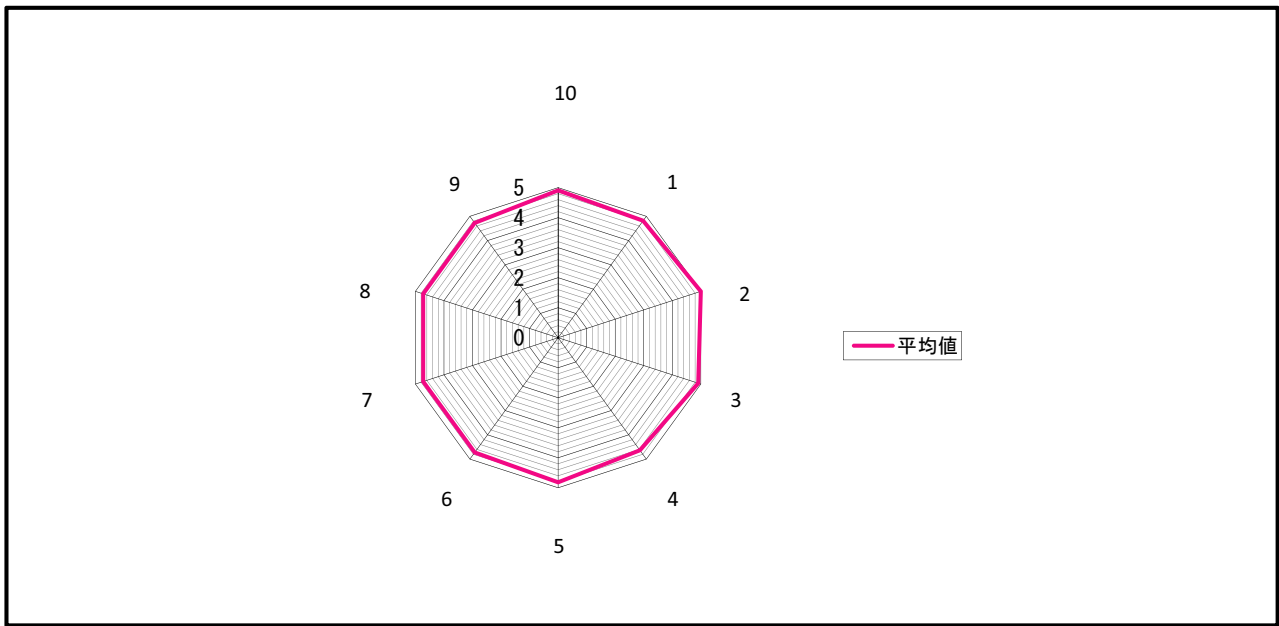
全ての項目において「4」以上、総合評価では「4.9」という高評価を得ることができた。授業では、生徒の数学的活動を支援するテクノロジー活用をテーマに、実際にテクノロジーを活用した事例を体験することで、テクノロジーを活用した教材開発及び指導方法を学んだ。さらに、テクノロジーを活用した模擬授業を二つのグループに別れ実施し、模擬授業の評価と改善方法について議論した。授業で使用したテクノロジーは、自然現象のデータを収集するグラフ電卓とデータ収集機、関数グラフツールであるGRAPES、そして、作図ルーツや統計処理等の統合ツールであるGeoGebraである。学生たちは、初めて使用するテクノロジーに興味・関心を持って取り組んでくれたこと、さらに、学生主体による活動をもとに自由に議論できたことが総合評価で「4.9」を得た大きな要因であったと考える。

結果報告書

授業科目名 数学科教材開発演習
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 秋田 美代

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	3				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1				4.9



教員のコメント

本授業の主な目標は、前期の「数学科教育学研究」の授業内容を基盤として、受講者に算数・数学学習において基礎的・基本的な内容をしっかりと定着させて創造的思考を活性化するための原理と指導方法を獲得させ、授業実践力を高めることである。

この授業に対する受講者の評価平均値は4.8、総合評価は4.9であった。評価平均値が高かった質問項目は「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(5)授業の進む速さは適切であった」、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」であり、評価平均値が低かった質問項目は「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」であった。

記述による回答では、「教材開発は非常に難しく、その反面その分野に関する理解を深めることができ、とても実践に役立つ授業であった」、「数学の教材の考え方や意味を理解させるために必要なことが分かったので、実践の場ですぐに役立つと考えた」、「学んだ知識を生かすことができる機会を得ることができた」等の内容が記載されていた。記載の内容から、受講者が、評価・教材開発に対する認識を深め、授業実践力を高めたことがうかがえた。

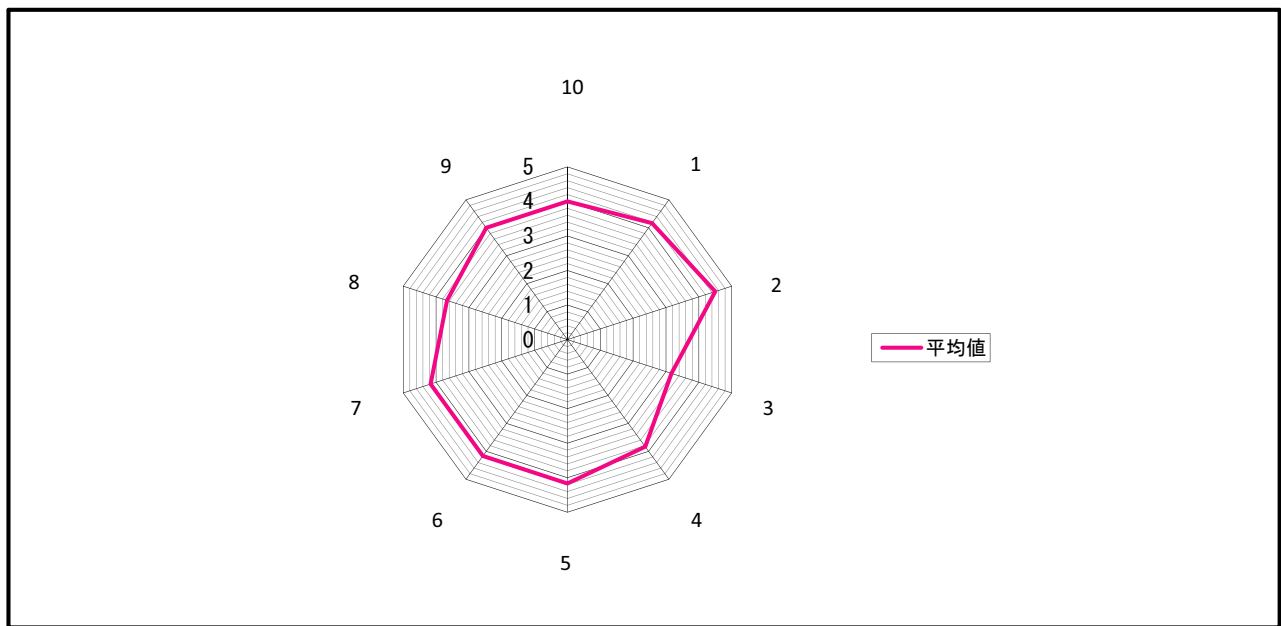
以上の各質問項目に対する評価、及び記述による回答から判断して、本授業の目的は概ね達成できたと判断できた。

結果報告書

授業科目名 原子物理学特論
 評価実施日 平成25年1月29日
 担当教員名 粟田 高明, 寺島 幸生

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	5				4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3	2		1	3.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		5	1			3.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3	1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	3	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		4	2			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	4	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	4	1			4.0



教員のコメント

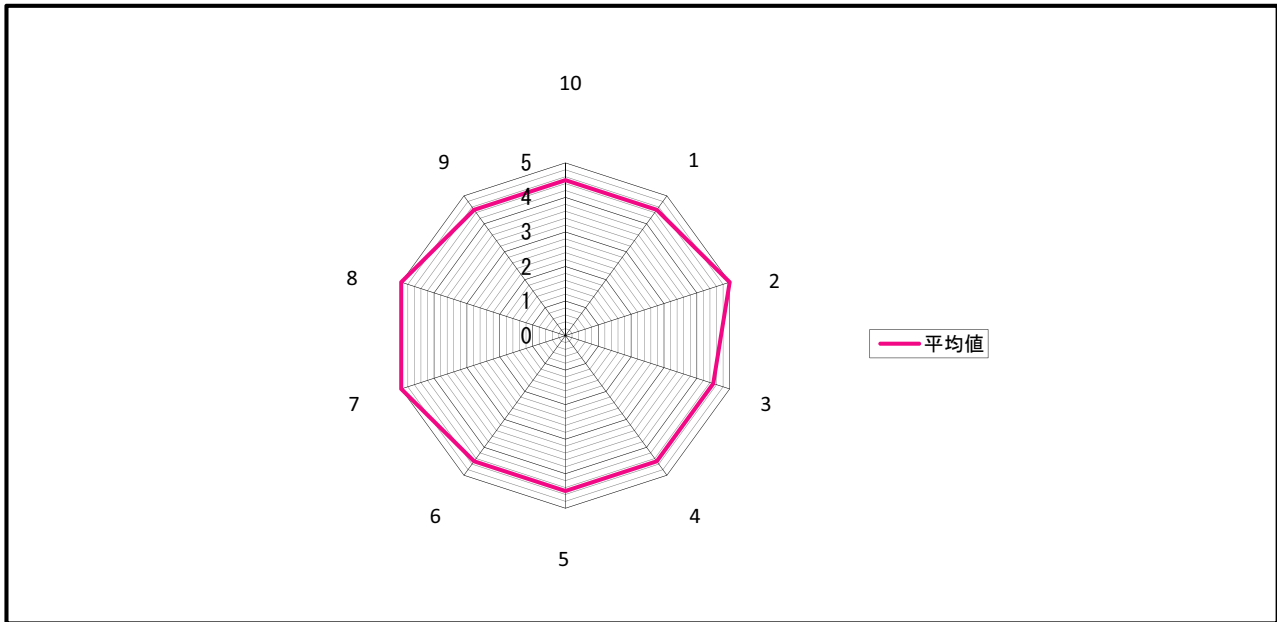
アンケート結果から類推するに、本授業について概ね満足しているようである。アンケート項目(3)のみ1をつけている受講生が1名いたが、これは至極真っ当な回答である。本授業科目は大学院の教科専門の授業科目であり、「教師の実践力の育成」に間接的には幾ばくかの寄与はあるかもしれないが、直接的には全くの寄与がなく、この項目の存在自体が甚だ疑問であり、項目自体の削除を希望する。アンケート調査紙配布時に、毎年、項目自体を削除していたが本年度は失念していた。来年度は削除する予定である。また平成24年度本授業を初めて担当したが、内容が難しかったこととゼミ形式で行ったことのため、受講生はかなり苦勞した模様である。しかしながら、受講前に本授業のシラバスを読んでいれば、内容の難しさあるいは準備の大変さは予想できたと思う。そのことを理解して授業に臨んでくれればうれしい限りだが、学生にシラバスを見たかと質問したが、見た学生は皆無であった。一種の虚しさを感じる。

結果報告書

授業科目名 物理化学特論
 評価実施日 平成25年2月22日
 担当教員名 武田 清

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



教員のコメント

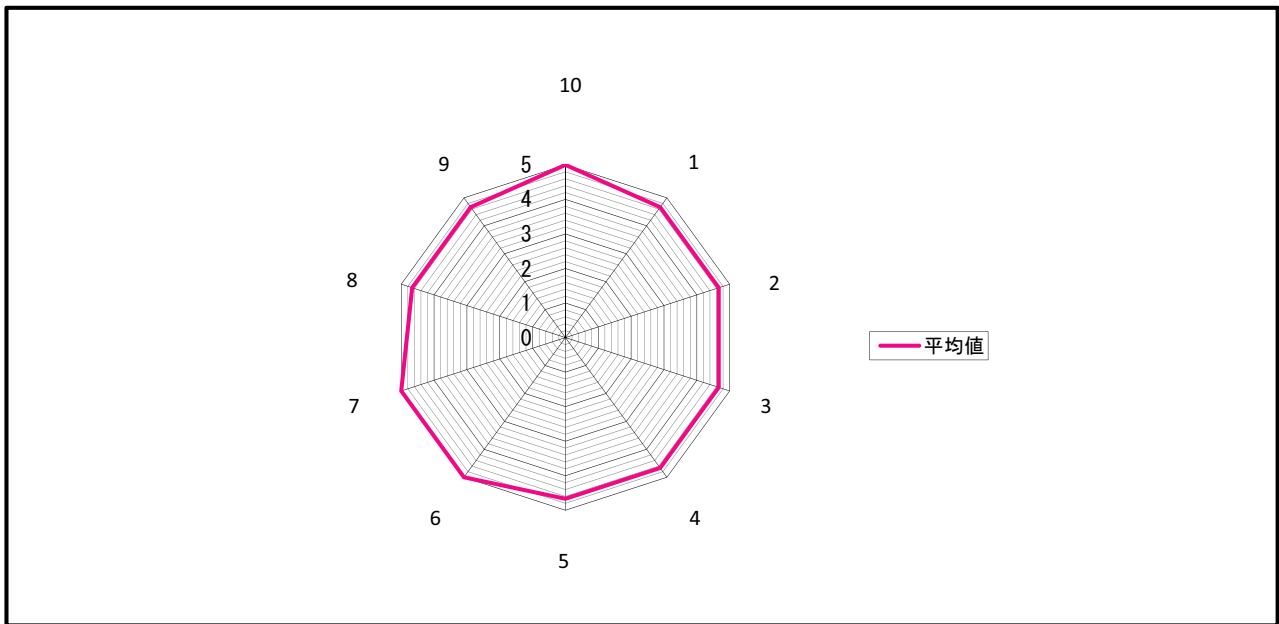
受講者2名では、アンケート結果についてコメントする意味はない。授業内容については、今後より専門的な内容を増やしていきたい。

結果報告書

授業科目名 生物科学特論 I
 評価実施日 平成25年2月21日
 担当教員名 米澤義彦, 佐藤 勝幸

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

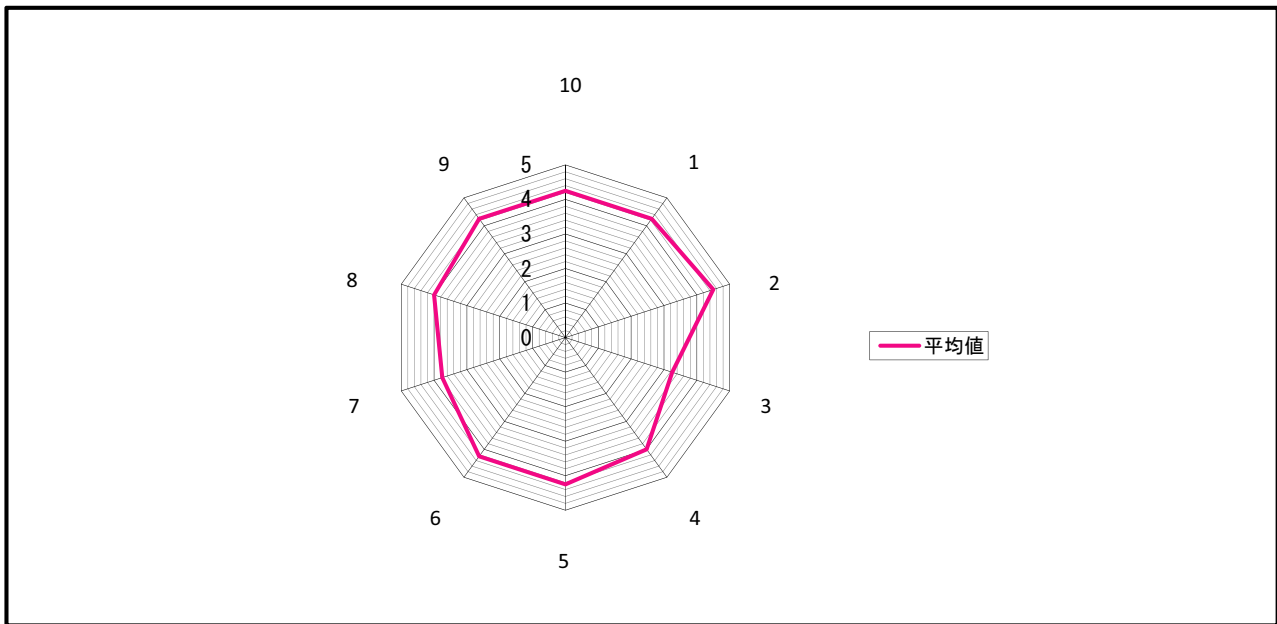
本授業科目の受講者は4名であり、全員がいわゆるストレートマスターである。生物学のバックグラウンドもまちまちで、どのレベルにあわせて講義を行うかが難しかった。しかし、高校の生物学の授業を担当したときに困らない程度の知識は身につけてほしいと願い、新学習指導要領の元で執筆された高校の教科書に記述してある内容もしくは大学の教養レベルの内容とした。その結果、多少消化不良の点は否めなかったが、6割程度は理解してもらえたものと思う。授業評価については3名しか提出しておらず、いずれも顔なじみの院生であるので、この評価を妥当な評価とすることは差し控えたい。

結果報告書

授業科目名 地学実験法特論
 評価実施日 平成25年2月13日
 担当教員名 小澤 大成, 村田 守, 香西 武

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	3			3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		2			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	3				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	3				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		3	1			3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		1		2	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3				4.3



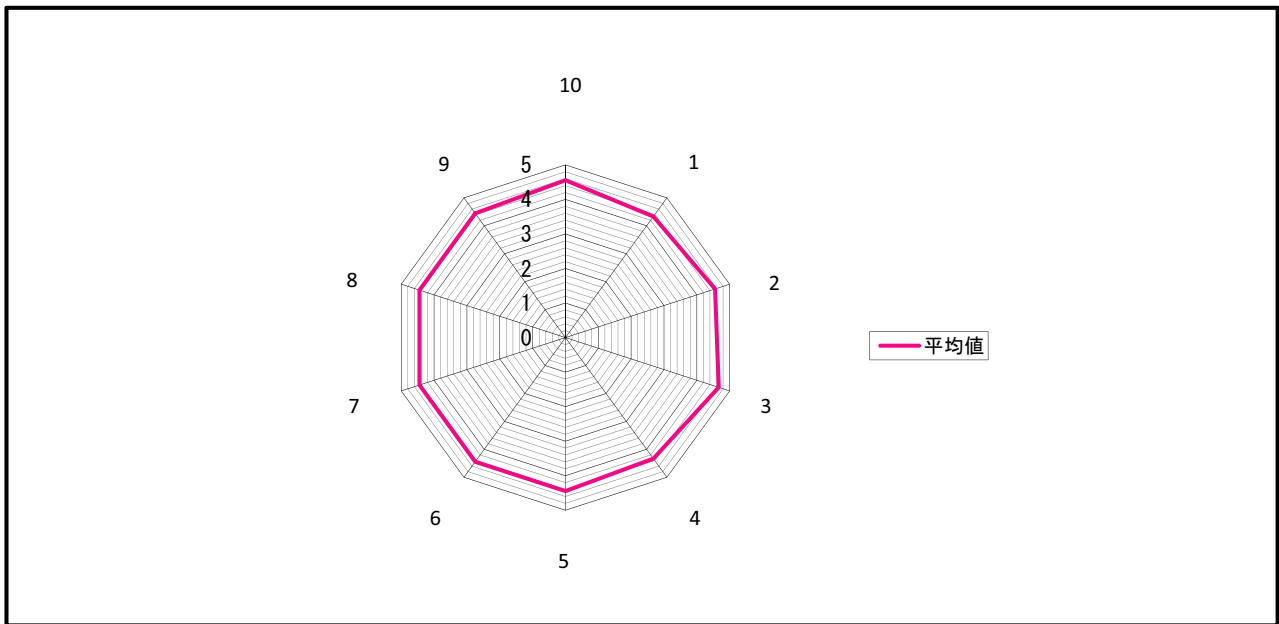
教員のコメント

総合評価は4.3でありおおむね満足していることがわかる。授業の良かった点として「いろいろな機械に触れ地学への興味を増した」「普段できない実験や作業に取り組めた」を指摘された。専門的な内容ということもあり「教師の実践力の育成につながる内容であった」の評価が低かった。次年度は教科内容と初等中等のカリキュラムとの関連を意識させていきたい。

結果報告書

授業科目名 理科教育学研究
 評価実施日 平成25年2月21日
 担当教員名 佐藤 勝幸, 早藤 幸隆, 香西 武, 寺島 幸生 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	6				4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4				4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4	1			4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	5				4.4
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	5				4.4
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	5				4.4
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	5				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	4				4.6



教員のコメント

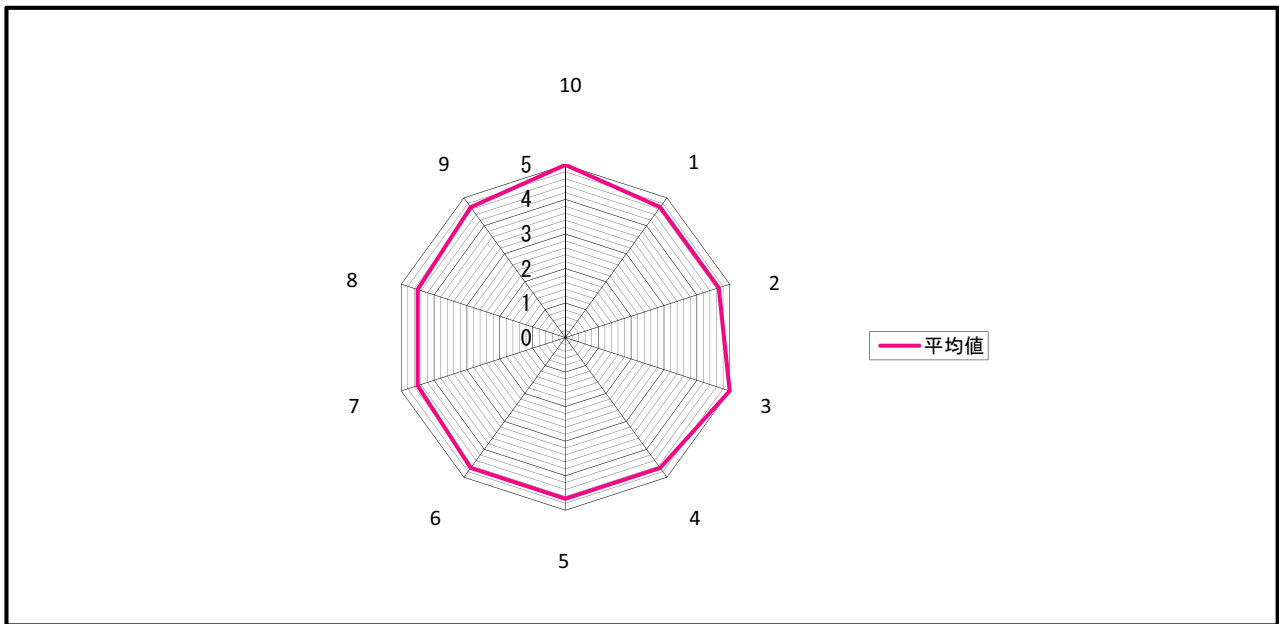
授業では、理科教育学の学問内容を紹介するとともに、戦後の理科教育史、特に教授論を中心に解説した。また、教材論や学習評価方法についても解説した。その後、学校現場での実践例や課題を中心に討論を含む授業展開を試みた。さらに、諸外国での理科授業の紹介や学校現場への視察などを行い、教育実践力育成に努めた。その結果、学生からは観念的な意見よりも具体的な課題や質問などが出され、実感の伴った授業展開ができたと考えられる。学生の評価からもそのことがうかがえらるるといえる。来年度もさらに工夫を重ね、教育実践力の育成がより図られるように努めたい。

結果報告書

授業科目名 理科教材開発研究 I (物質とエネルギー)
 評価実施日 平成24年12月14日
 担当教員名 本田 亮, 胸組 虎胤, 寺島 幸生

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0	
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7	
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7	
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7	
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				1	4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7	
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0	



教員のコメント

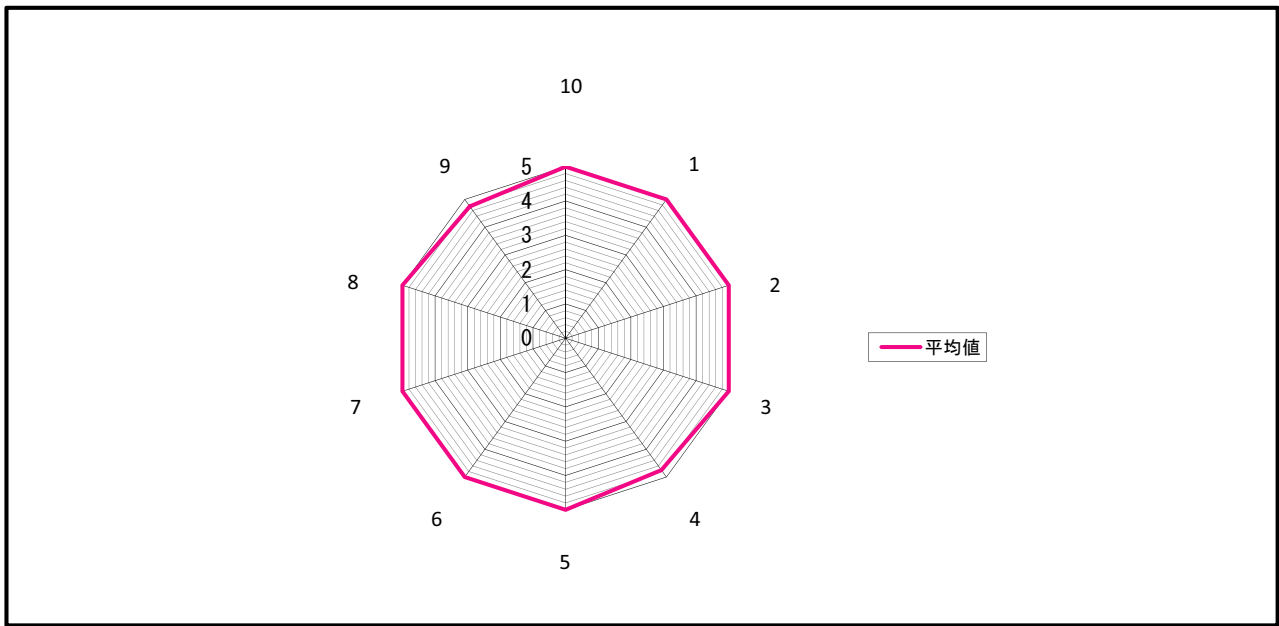
受講者数が3と分析に値するほどのサンプリング数ではないので、価値ある分析はでき得ないことを前置きしておく。また、自由記述欄もほとんどが無記入であった。したがって、この欄のコメントは授業担当教員から見た授業内容と個人的な意見である。この授業では、受講生は理科の教材に対して抱いている課題を解決する作業を行った。取り上げられた課題は、中学校現職教員である大学院生から出されたものであり、学校現場で取り上げたい教材であったようだ。受講生が自ら解決していく過程を重視し、担当教員はその助言を行った。受講生の間では活発な議論があり、検証実験がなされ、その内容は最終授業時に口頭発表された。このような教材の構築と利用方法を検証する機会が、学校現場で増えることが望まれる。

結果報告書

授業科目名 歌唱表現演習
 評価実施日 平成25年2月15日
 担当教員名 頃安 利秀

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7		1			4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

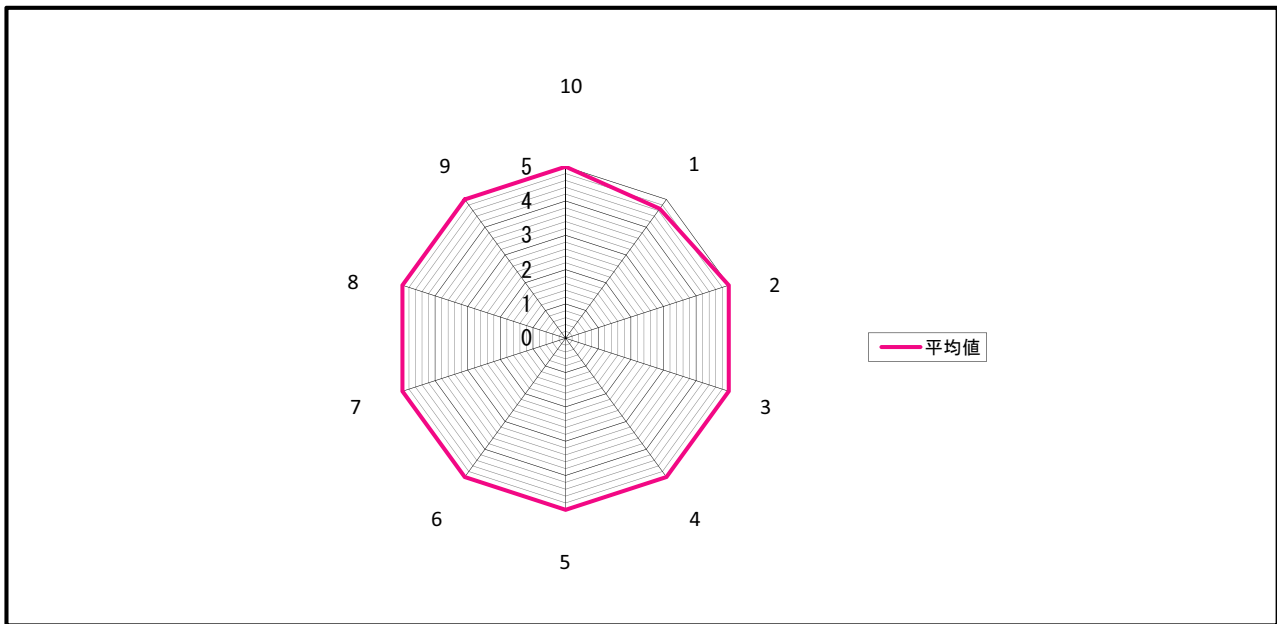
歌唱表現演習では、履修生個々の音楽的能力や実際的な必要に応じた指導を行っており、教材も個別のものを使っている。平均値が5という高い評価になったのは、そのような個々の能力や実際的な必要に応じた指導ができたからだと考えられる。成績評価については、授業への取り組みや出席状況が中心になる。そのことは授業の始めに説明しているが、十分に理解されていないところがあったかもしれない。

結果報告書

授業科目名 ソルフェージュ研究
 評価実施日 平成25年2月19日
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

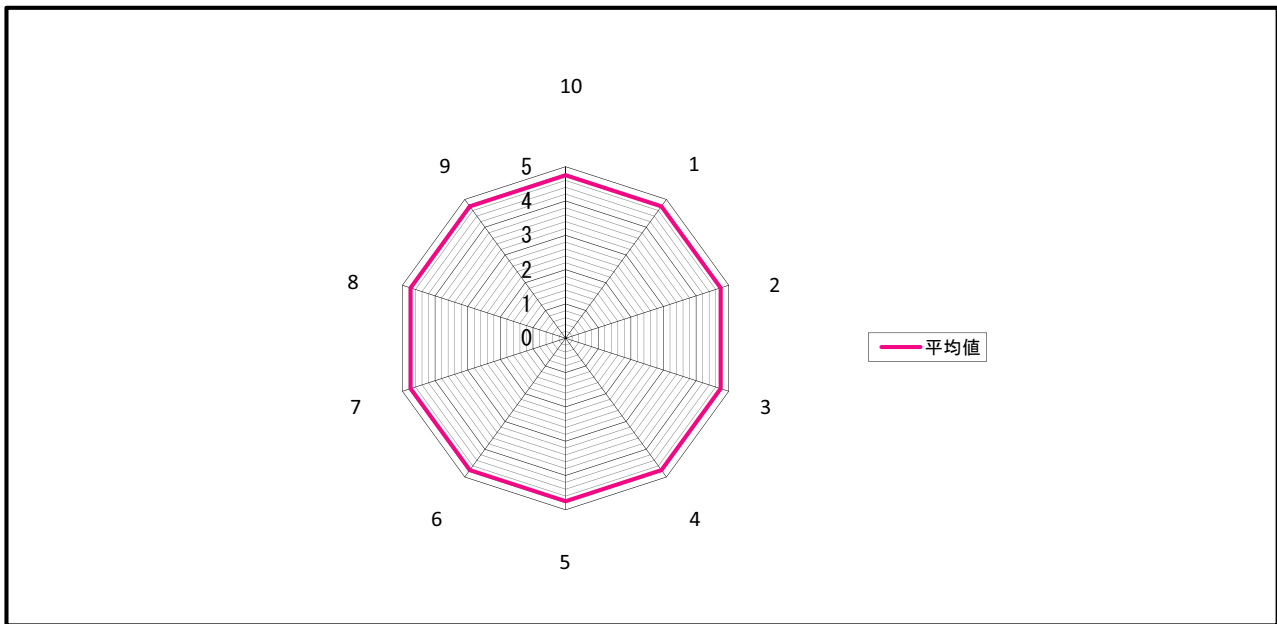
例年、自由に話題を提供しつつ、音楽について一緒に考えるという授業のスタイルを取っているが、本年度は現職の教員2名受講してくれたおかげで、実際の学校現場における問題なども聞けて、授業者自身にとっても非常に実り多い授業であった。また受講生が書いてくれたコメントも例年になく好意的であった。

結果報告書

授業科目名 室内楽(器楽)
 評価実施日 平成25年2月12日
 担当教員名 森 正, 山根 秀憲

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

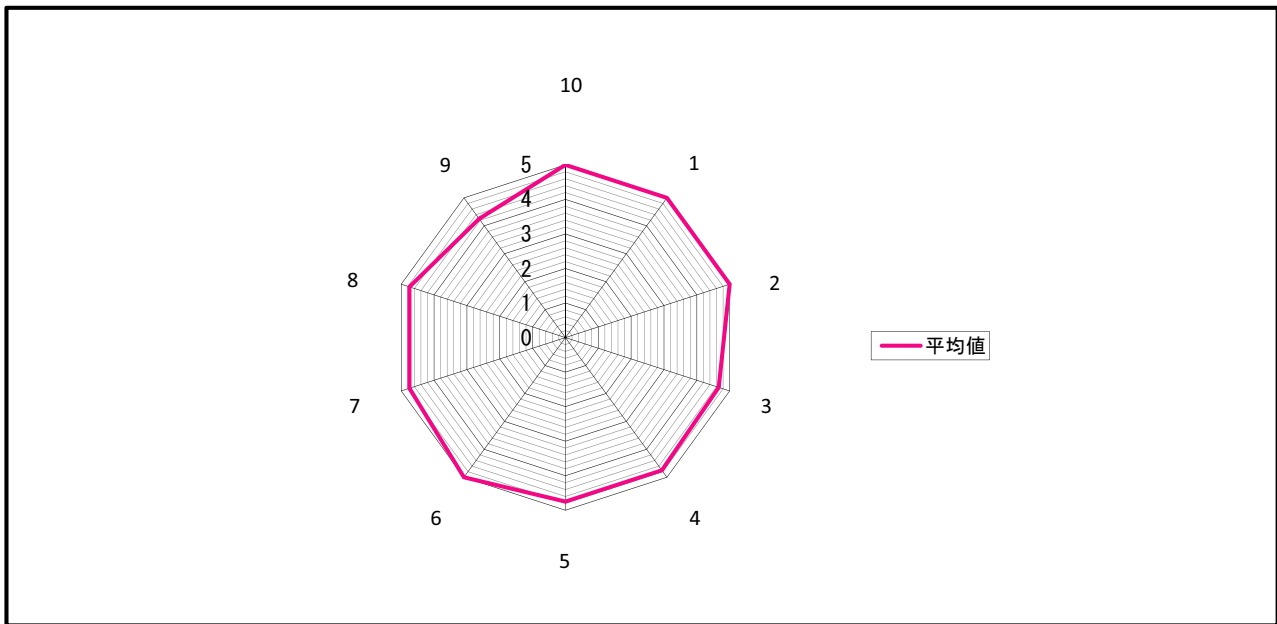
個々の学生に応じた適切な課題により授業を進め、学生たちから高く評価されたと考える。室内楽の演奏経験が少ない(まったくない)学生もいたようであるが、今回の授業で、独奏とは異なる、他者との共同作業で表現活動を行うことの楽しさ、そして教育的な効果を体験出来たと思う。

結果報告書

授業科目名 作曲法基礎演習
 評価実施日 平成25年2月28日
 担当教員名 松岡 貴史

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

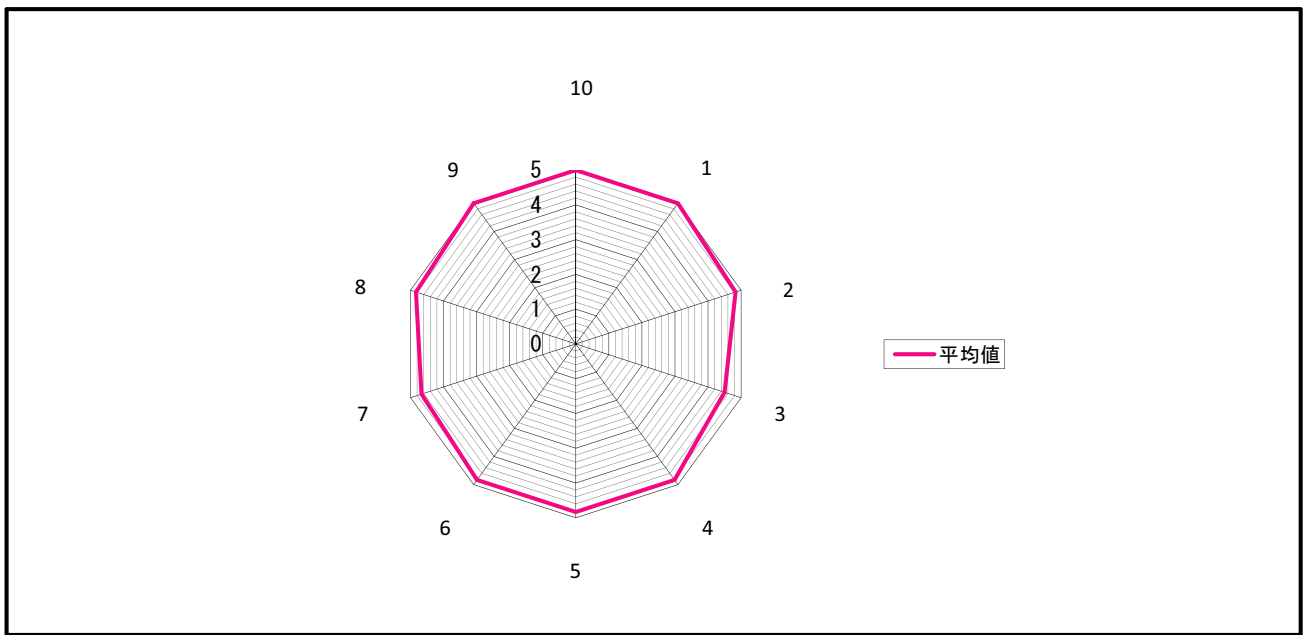
総合評価5など、授業に対しては肯定的な評価で占められたが、受講者が3人なので、否定的な面が書きにくかったのかもしれない。受講者をもっと主体的に取り組むような投げかけを心掛けたい。自由記述には、「内容がとても充実していた。説明も丁寧で分かりやすかった。」「各人の個性が出ており、自分にはない感性が授業で得られた。丁寧な指導で分かりやすく、感謝している。」などの記述があった。

結果報告書

授業科目名 油画制作演習
 評価実施日 平成25年2月14日
 担当教員名 鈴木 久人

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5		1			4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

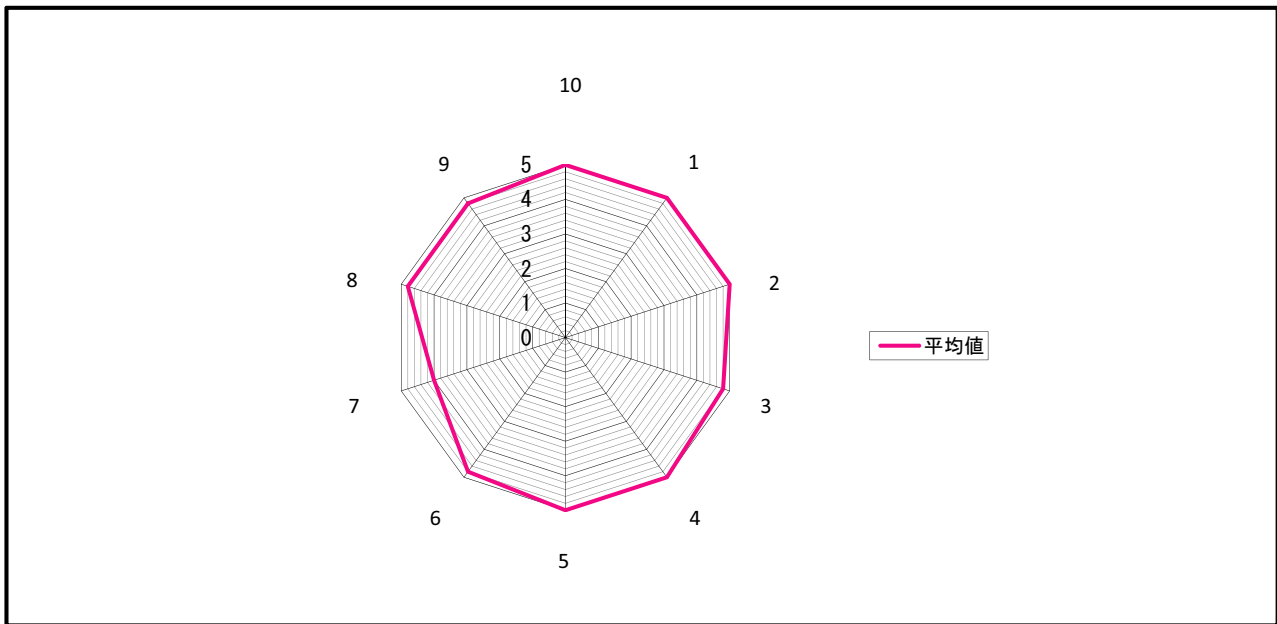
総合評価が5.0であり、他の質問事項全てでも前年より大幅に改善しており大変満足した結果である。今後とも授業改善に努め、それぞれの作品制作の深化ばかりではなく、本授業で習得した内容の現場での展開の可能性や教材開発の可能性、児童、生徒の作品鑑賞や評価法についてもより学生とのディスカッション等を通じて深めたい。

結果報告書

授業科目名 彫刻制作研究
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 野崎 窮

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1			1	4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

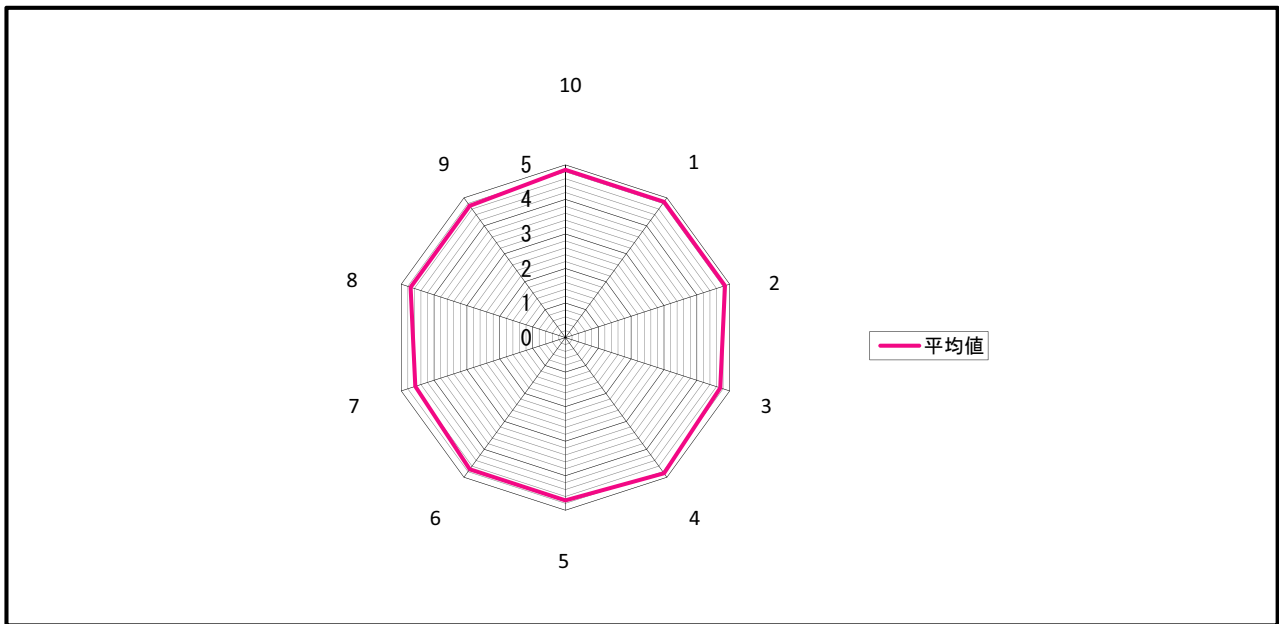
「(7)教科書や配布された資料は、適切であった。」が評価1とする学生が1名あった。このことを精査した上で、今後、改善していきたい。
 「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」は平均値5であったので、初めての授業であったが、全体的にはうまく授業が成立したと考えている。

結果報告書

授業科目名 デザイン制作研究
 評価実施日 平成25年2月5日
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6		1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

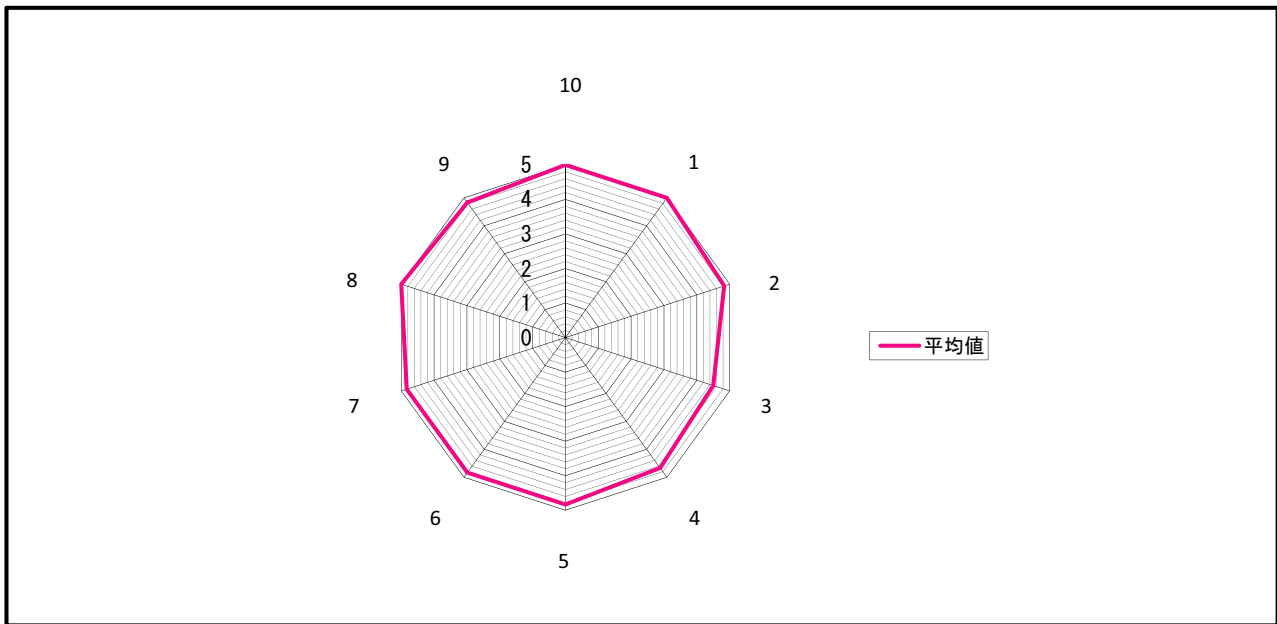
この授業の受講者は8名でアンケートに回答してくれたのは最後の授業時の出席者7名であった。本授業は前年度まで先輩の退職教員の担当だったため、今回初めて担当する授業であった。この授業は以下の様な流れで運営した。1時間目は全体の授業運営説明、2から5時間目はAdobe社のIllustratorの初歩的用法解説とこれを使用した地図制作。6・7時間目はデジタル一眼レフの操作方法解説とスタジオでの照明操作解説および撮影演習。8・9時間目はAdobe社のPhotoshopの初歩的用法解説。10・11時間目はIllustrator、Photoshopの両方を応用したダイレクトメールの原稿の制作。12・13時間目はデザインの各分野についての各自で調査。14・15時間目が相互発表・作品講評。美術コースではファインアート分野で制作を行う学生・院生からダイレクトメールの制作手順についての質問が時折寄せられるため、最低限デスクトップでこれが作成できるようにこの流れを考えている。受講者8名は全くの初心者もいれば、既に問題なく操作できる者もいた。撮影機材に関する資料は紙媒体で渡しているが、大方の資料は自分のウェブページに準備しておき、これを見せる形をとった。制作にあたっては、質問を申し出た者のところへ直接行き対応する形式であった。時として複数同時に手が挙がるケースがあったが、習熟している者にフォローをしてもらう形を取った。受講者からの反応は良かった点としては「このソフトの基本技術を学ぶ事ができた」が6名から、「印刷物の決まりについて学べた」が1名からあった。また「Photoshopももう少し深くできたら」という要望も一件あった。授業者の習慣からIllustratorを中心とした解説が多かったためかと思われるが、今後少しずつ方法を改良していきたい。改善点の要望は「授業スピードが時折早く感じた」というものが2点、「学生のレベルによって内容を変えた方が良い」が1点あった。制作目標を2つ用意するのは一つの手であるが、評価の際にどうするか判断も必要になるなど、授業者に慣れが必要と思われる。今後授業速度の調節もしていきながら、試していきたい。その他の感想は、感謝が1件、面白かったというのが2件であった。

結果報告書

授業科目名 映像デザイン演習
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

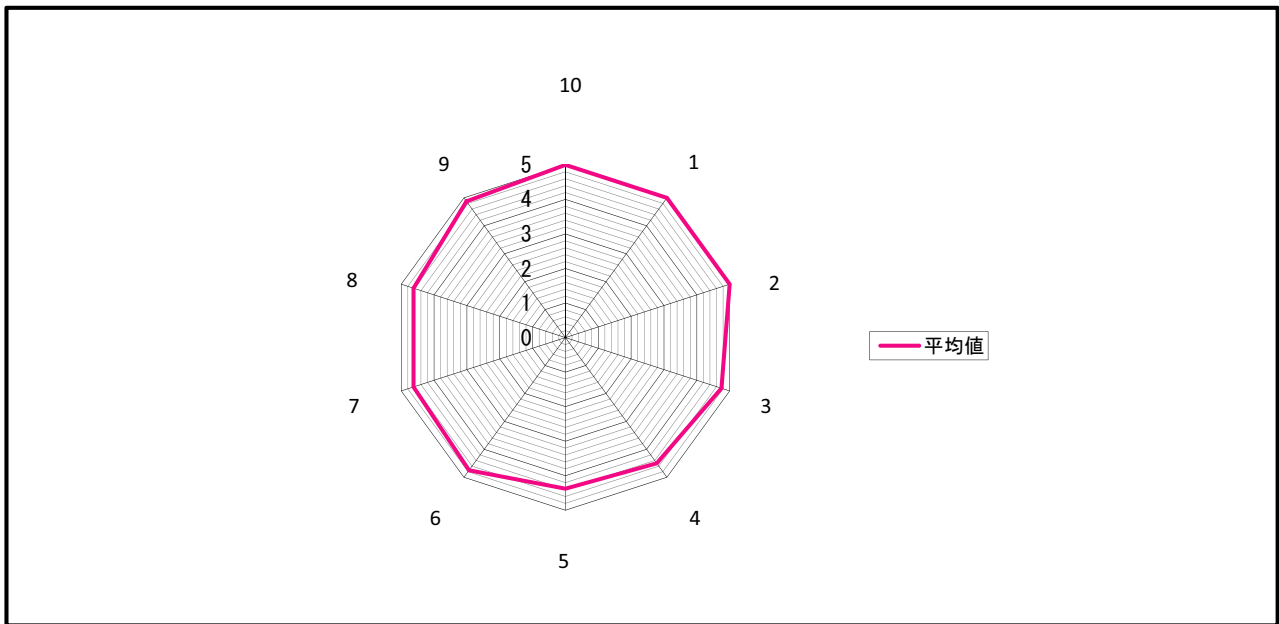
本年度の受講者は7名で最終回に出席していた6名がアンケートに回答してくれた。本授業は昨年度までは映像原理の体験として、段ボールと虫眼鏡によるカメラ制作とネガポジ法での撮影、およびデジタル一眼レフカメラの使用法解説と撮影実習を行って来た。従来も授業に対する評価は高い点数を頂いていたが、カメラ自体を製作するのに多くの時間を使ってしまう難点があり、また時折「動画についての内容に触れて欲しい」という要望が寄せられて来た。このため本年度は以下の様な流れに改め実施してみた。第1時間目は年間カリキュラムの説明、2・3時間目はサイレント時代をテーマとした映像の情報交換、4・5時間目はトーキー黎明期をテーマとした映像の情報交換、6・7時間目はアニメーションの映像の情報交換、8時間目はCM(海外・日本)の紹介、9時間目は実験映像作品の紹介、第10時間目以降14時間目まではデスクトップビデオ編集の説明から短編映像作品の2グループに分けての制作までを行い、最終回に作品提出/講評と言う手順であった。各回で紹介する映像の内容は、研究室で準備したものを貸し出すか、図書館から借りて視聴させ、各自が別々の作品を鑑賞し、授業では特に印象的だった部分をお互いに紹介させ感想を述べ合うといった方法をとった。アンケート結果(グラフ)からみると、「教師の実力育成に役立つか」と言う項目で配点が若干低いが、現場で即応用できなくとも、経験として児童生徒に多くを伝えられる事を望む。「こういう映像がある」と話して教えたり、映像を作る時に構図を参考にしたり取り入れたりしてはできるからだ。自由筆記の感想で良かったと思われる点は「色々な映像を見ることができ良かった」が4名、「知らない作家を知れた」が1名、「編集方法などもかじれた」が1名であった。改善すべき点については「学生の発表が間延びしたときには教員の指導がもっと入るべきであった。授業がしばしば延長したため」が1名。90分7名がシーン紹介等しながら情報交換するため、受講生が夢中になって1人の持ち時間を延長してしまい、授業が休み時間にもつれ込む事が数回あった。今後、スケジュールをきっちり伝えて運営するように努力したい。

結果報告書

授業科目名 工芸制作研究
 評価実施日 平成25年2月12日
 担当教員名 栗原 慶

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	5				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	3				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	3				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

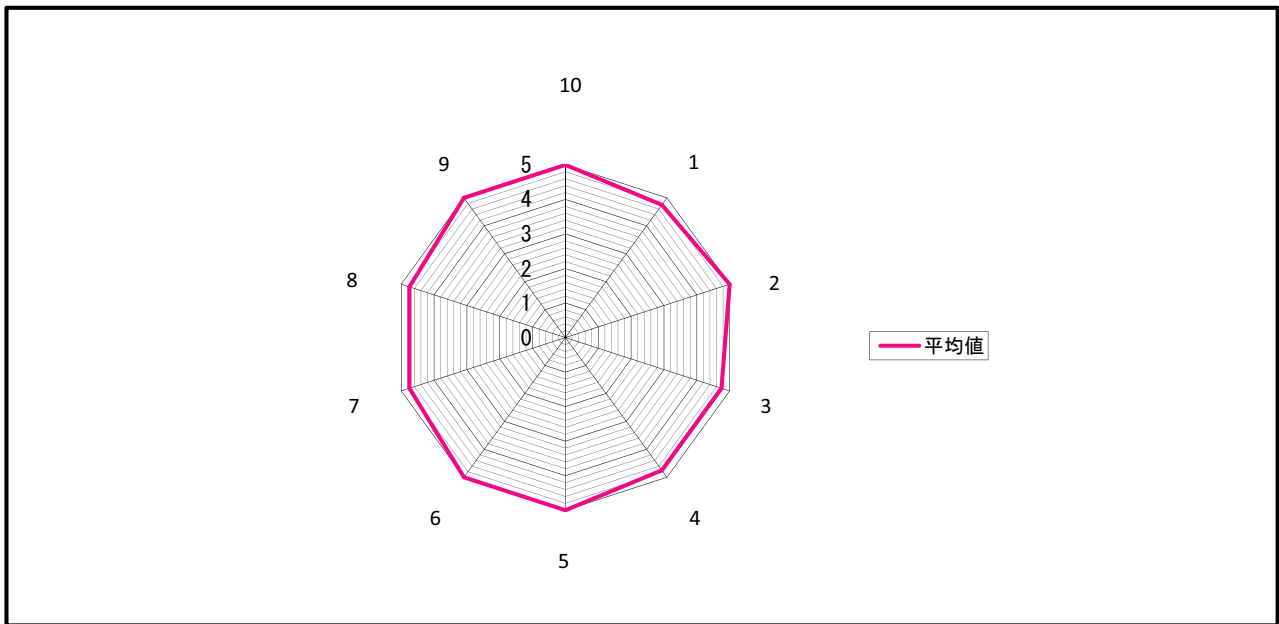
総合評価が5.0ということは、履修した学生の満足感が高かった事として素直に受け止めたい。しかし、回答者が履修12名中の内8名なので、未回答の学生の評価はもう少し低い可能性もあるだろう。授業内容については、比較的高い評価を得ている。これは工芸の素材の魅力と、未体験の技法習得のおもしろさに助けられているところも大きい。鑄込み技法を扱ったことで、支援学校などで行われている技法だったことも、学生の興味につながったと考えられる。授業の進め方に対してはどの項目も改善の余地があることが示されている。特に授業の速さについては、5名の学生が4の評価としており、今後、学生一人一人のペース配分に対する配慮が必要であろう。窯炉焼成という共同作業や、作品の乾燥のタイミングなどがあり、授業時間以外での作業や指導を行ったことが、学生の負担になったのかもしれない。ペースについて全員の意見を反映させるのはなかなか難しいが、もう少し余裕を持ったスケジュールを検討したい。

結果報告書

授業科目名 芸術学演習
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 小川 勝

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3				1	5.0



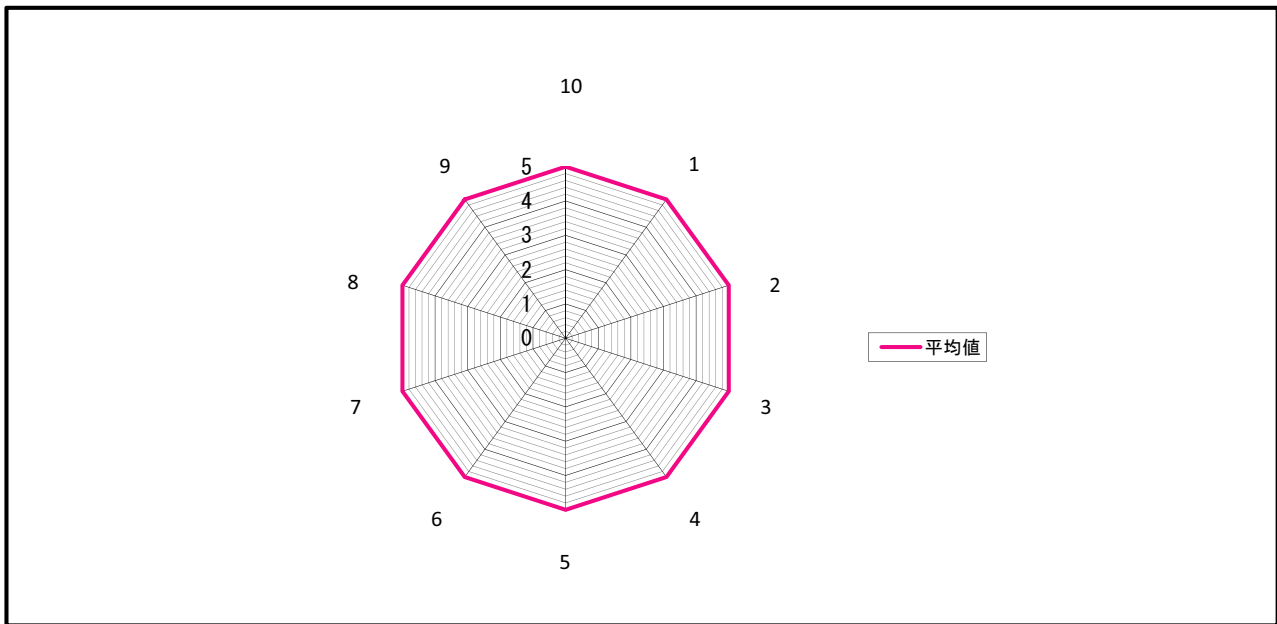
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 美術科教育学研究
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 山田 芳明

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

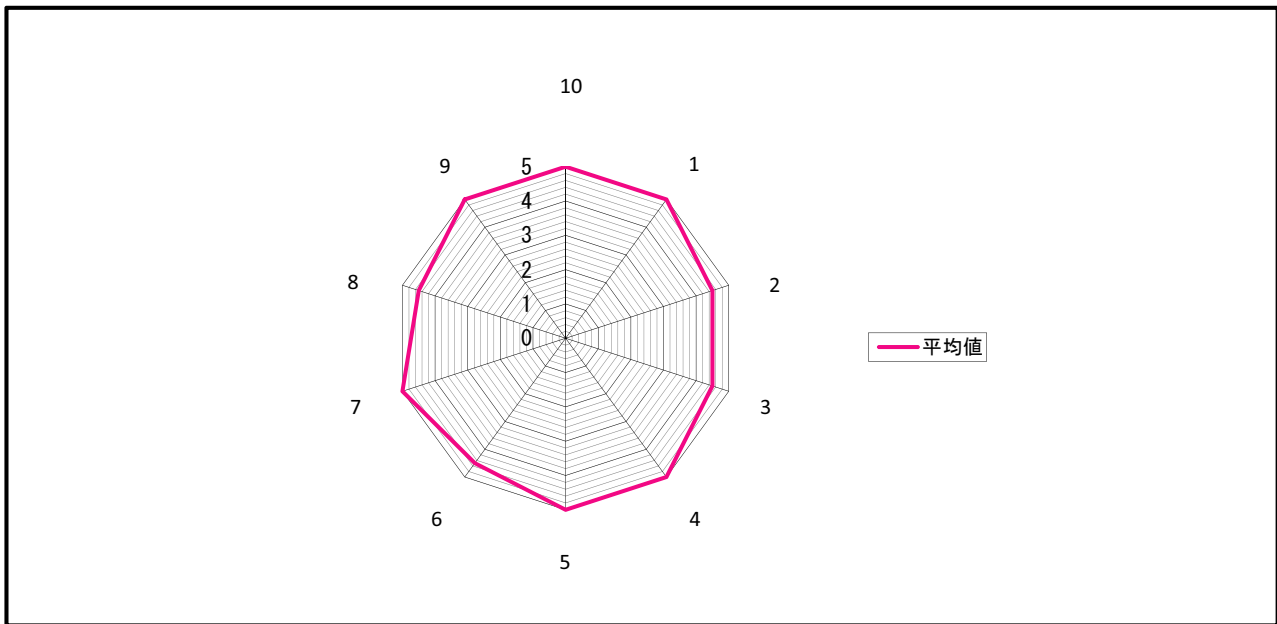
受講学生が美術科教育にリアリティをもつことができるように、本授業では教育現場への視察を取り入れて構成している。視察校までの旅費等は学生負担であり、なおかつ視察毎に学生がレポートを行うこととしていることから、学生にとっては負担感の強い授業となっている。そうした中で、今回全ての項目で5の評価であったことは、本年度の受講学生の学びへの意識の高さによるところだと考える。そこで本授業については、同様のカリキュラムを継続し評価を受けることで、本授業に対する学生評価の妥当性を高めたい。

結果報告書

授業科目名 学校体育経営演習
 評価実施日 平成25年2月20日
 担当教員名 藤田 雅文

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

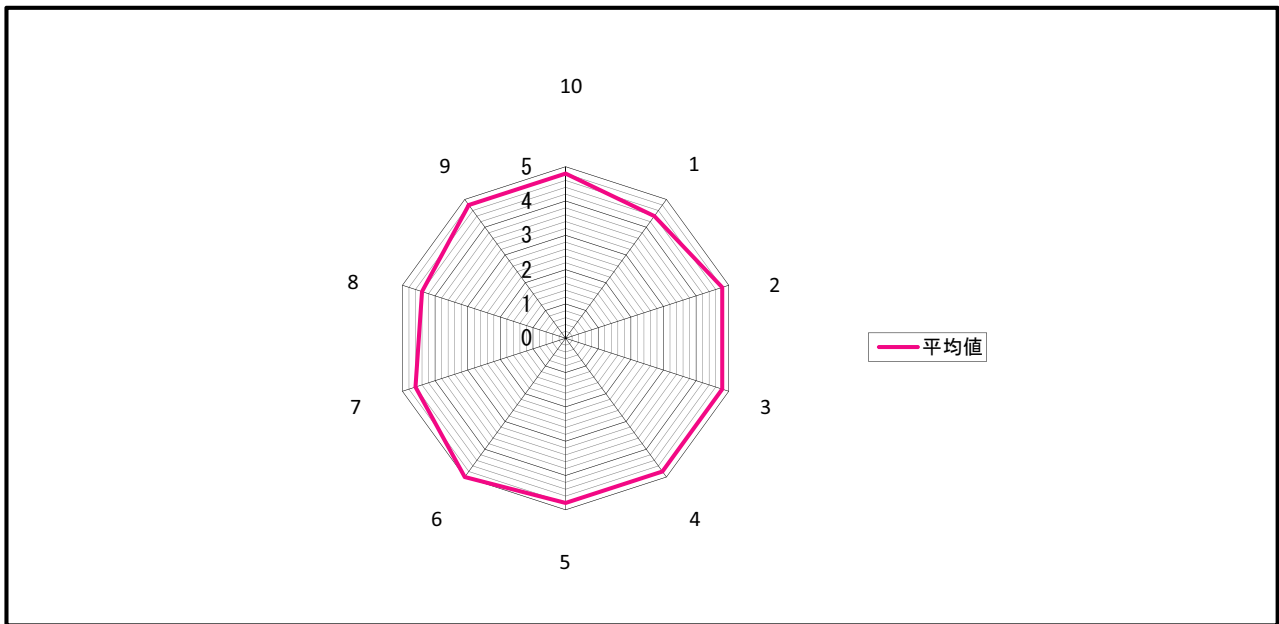
9項目の平均評価点は4.8で、総合評価も5.0であることから、高い評価を得たと考えている。本授業では、保健体育科の学習評価、体力テストのデータ分析、授業研究のデータ分析の演習を行っている。教育実践現場に役立つ内容をさらに厳選して、次年度以降も同様のスタイルで授業を展開したいと考えている。

結果報告書

授業科目名 スポーツ・トレーニング演習
 評価実施日 平成25年2月14日
 担当教員名 南 隆尚

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	3				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

質問項目「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。」と「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」の評価の平均値が4.4であった。(1)はシラバスは参考にしたが、履修者の希望を優先し、救急法を中心に進めたため、評価が低くなったものと思われる。また(8)についても実技中心であり、資料の配布などを駆使しなかったためと考えられる。昨年度も同じ様に資料についての指摘があったが、改善が進んでいない点が反省材料である。

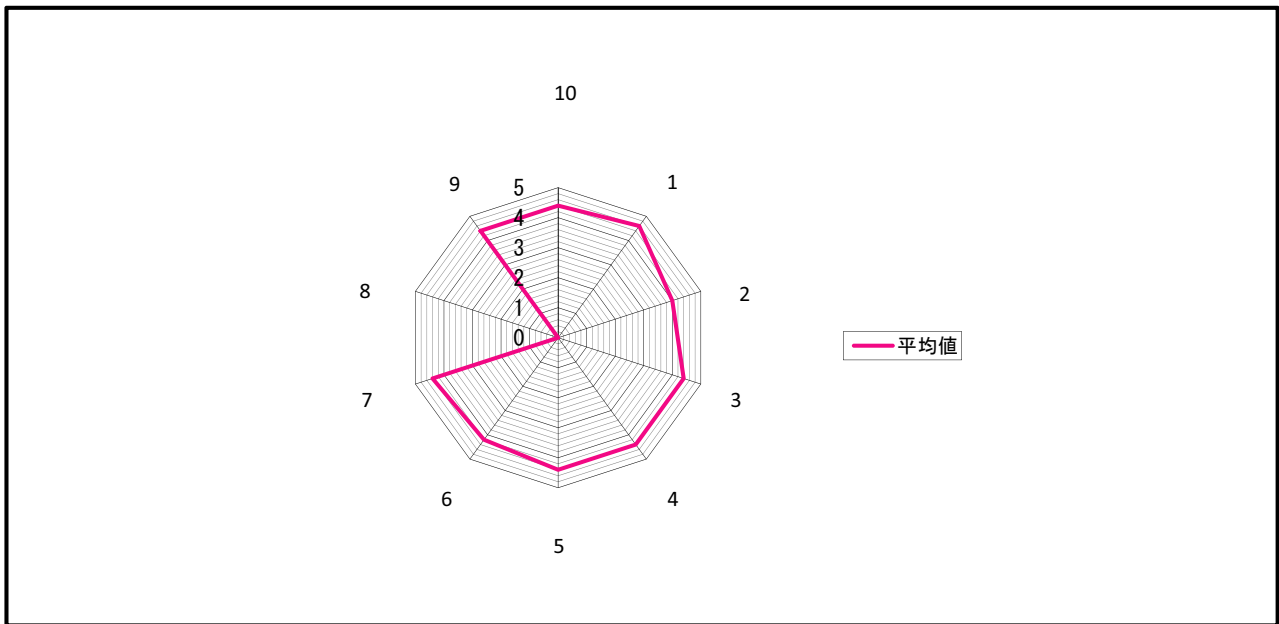
全体の評価は4.8であり、概ね好評である。履修者の感想からは「救急法についてしっかりと学ぶことができた」「資格も取れ有意義であった」との記述があり、自信を持って指導に当たることができる援助ができたと考えられる。しかし授業の中心的課題となるスポーツ・トレーニングに関する情報が少なくなってしまうことは残念である。今後学生の希望も鑑みながら、出来る限り救急法やリスクマネージメントはコンパクトに収め、トレーニングの実践的指導法について振れて行く様にしたい。

結果報告書

授業科目名 学校保健学演習
 評価実施日 平成25年2月26日
 担当教員名 吉本 佐雅子

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	3	1			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	3				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1	1			4.4



教員のコメント

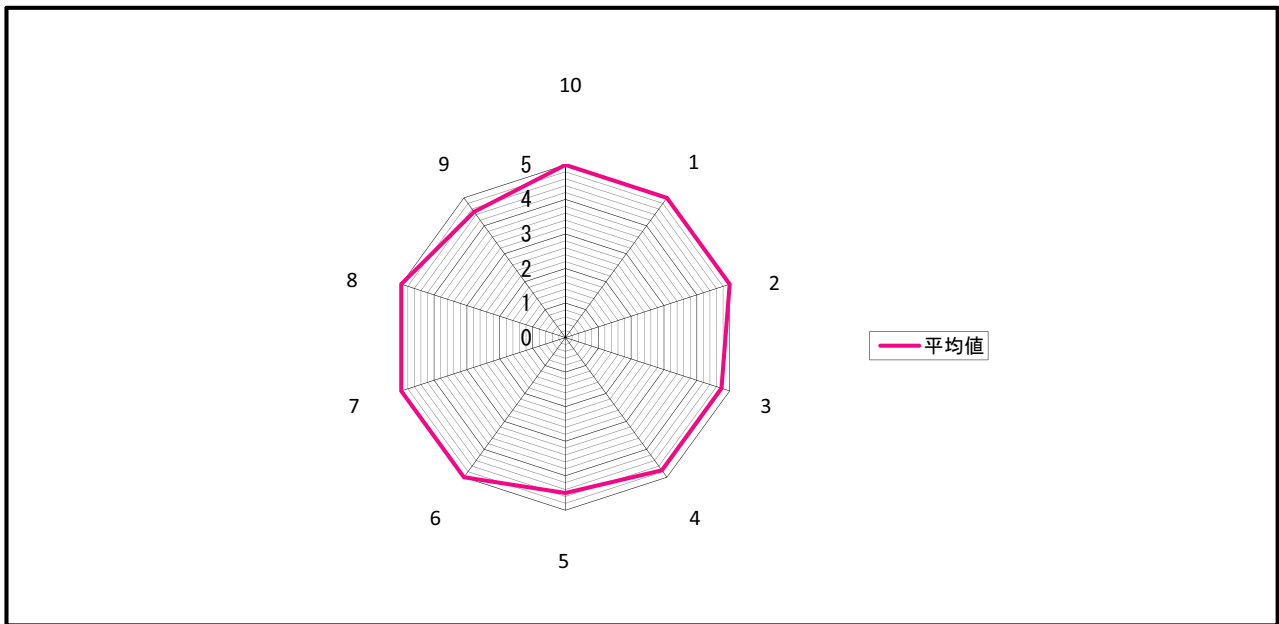
本演習では、子供向けの啓発用リーフレットの作成を行った。学生は各自で喫煙、薬物乱用、体力づくりなどのテーマを決定し、情報収集、整理、アピールするための文章づくり、文面編集など、一連の作業を行った。このように一人ひとりが具体的な完成品を目指して行う授業は主体的に関心を持って進めることができたと考える。また、リーフレット作成には以上の様な教育・研究に関わる様々な作業が含まれており、学生の教育・研究に関わる総括的な能力の向上に寄与できたのではないかと考える。

結果報告書

授業科目名 健康科学演習
 評価実施日 平成25年2月1日
 担当教員名 廣瀬 政雄

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3		1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

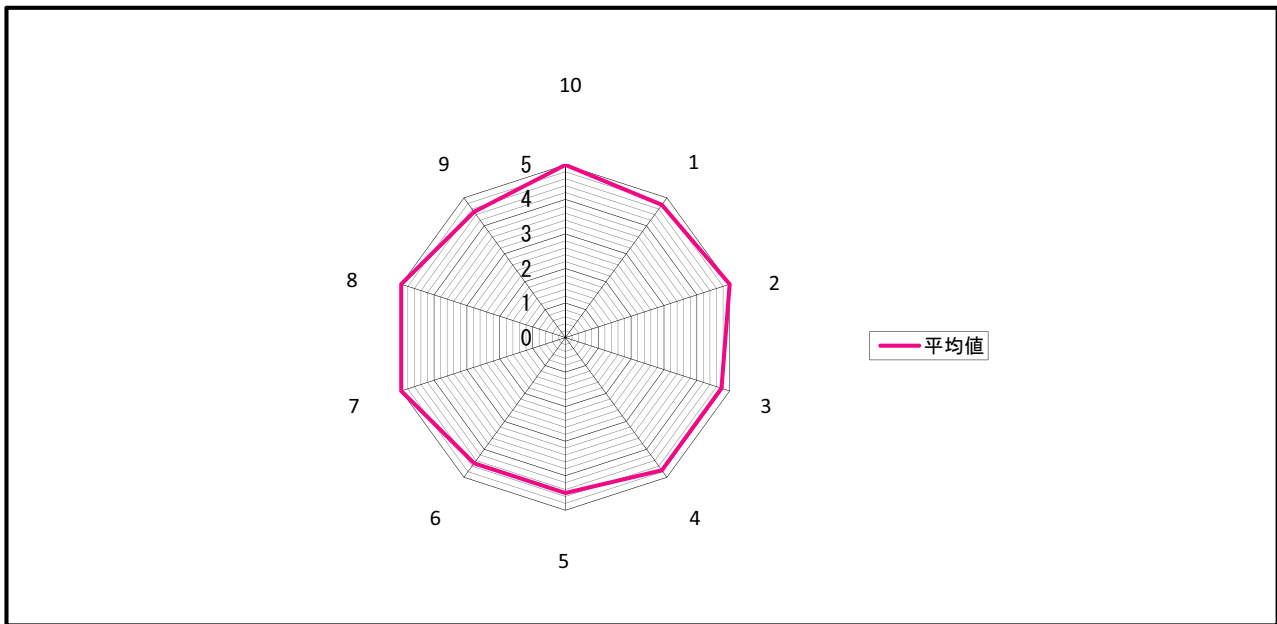
受講した人数は5人と少ないが、授業評価の結果としては良い評価といえる。前期は健康科学研究の講義を行い、後期には健康科学演習を行っている。研究と演習と授業の名前は違うが、授業は講義を中心に進めるので大きな変わりはない。「演習」を受講した学生は前期の「研究」に引き続いて受講した者で、学生の方で受講を望んだということが良い評価の最大の原因となっていると考えられる。医療関係者でない者に医療関係者が医学教育を行うと、その欠点として、必要以上に詰め込みすぎる、羅列的になり過ぎる、医学教育の基礎がないのに理解困難な内容の授業をしてしまう、などが表れやすい。健康科学の講義では、学生のレベルに合わせる、学生の要望を知る、内容を基礎から結論まで一コマで理解できるようにまとめておく、分かりやすく話す、話題はupdateなものにして興味を引くものとする、教材は散漫にならないように文章で完成させておく、授業ではまじめすぎるのではなくいろいろな話題に触れて退屈しないようにする、などの工夫をしている。

結果報告書

授業科目名 情報技術演習
 評価実施日 平成25年3月4日
 担当教員名 菊地 章

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3		1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3		1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

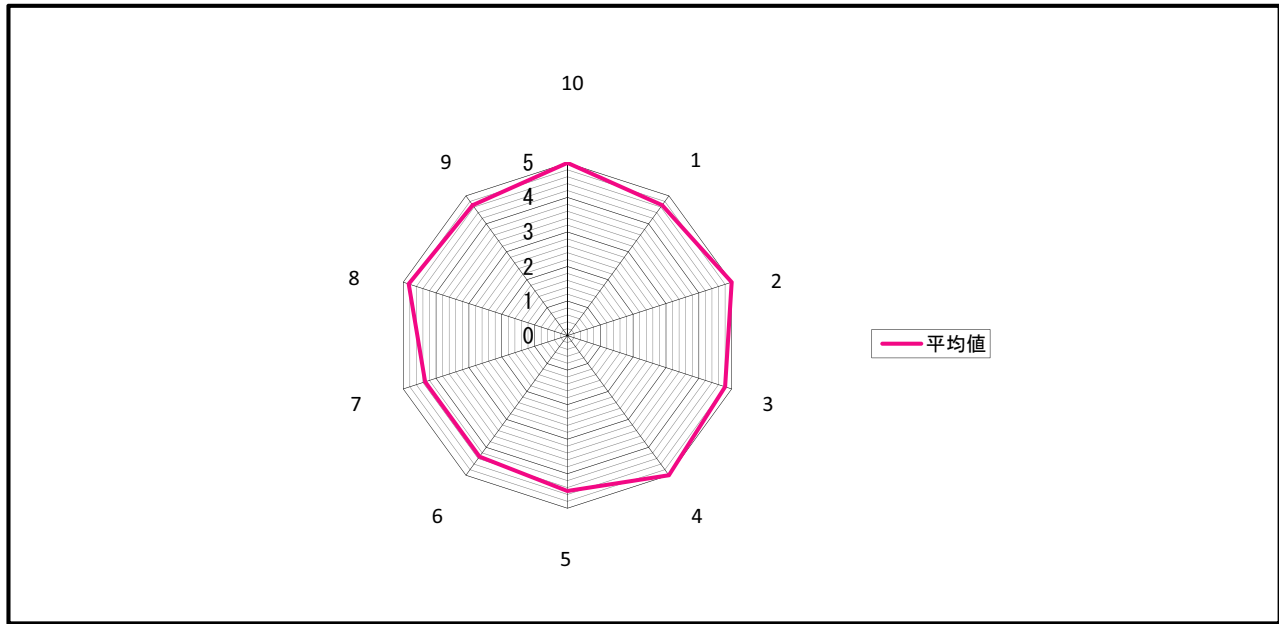
学生の受講者が4名と少人数であり、受講者の質も揃っていたため、順調に授業を進めることができた。また、コンピュータに不慣れな学生がいたにも関わらず学生の反応は良かった。徹底的に学生に質問して理解状況を確認しながら授業を進めたことが、全体的に高い評価を得た理由かもしれない。

結果報告書

授業科目名 画像情報処理研究
 評価実施日 平成25年2月21日
 担当教員名 伊藤 陽介

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		2			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

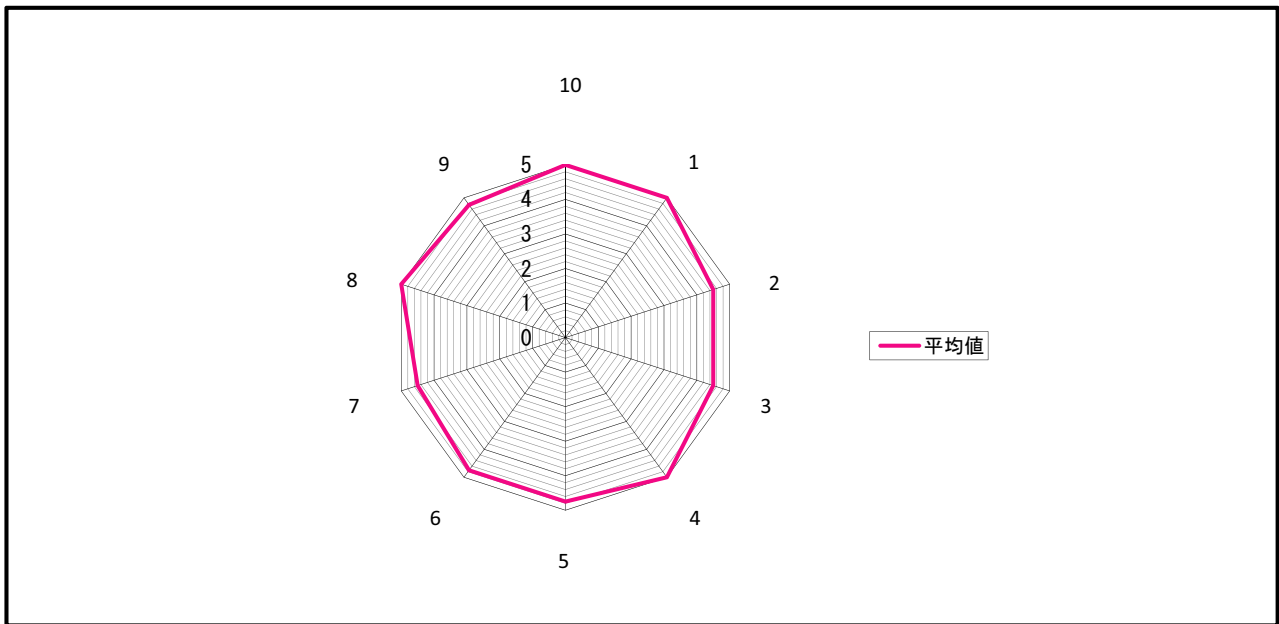
総合的に見ると満足できる結果と思われるが、より専門的な内容を分かりやすく説明する必要はある。今回、試行的に電子黒板を利用したところ受講生からは好評であった。

結果報告書

授業科目名 プログラミング演習
 評価実施日 平成25年2月5日
 担当教員名 林 秀彦

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

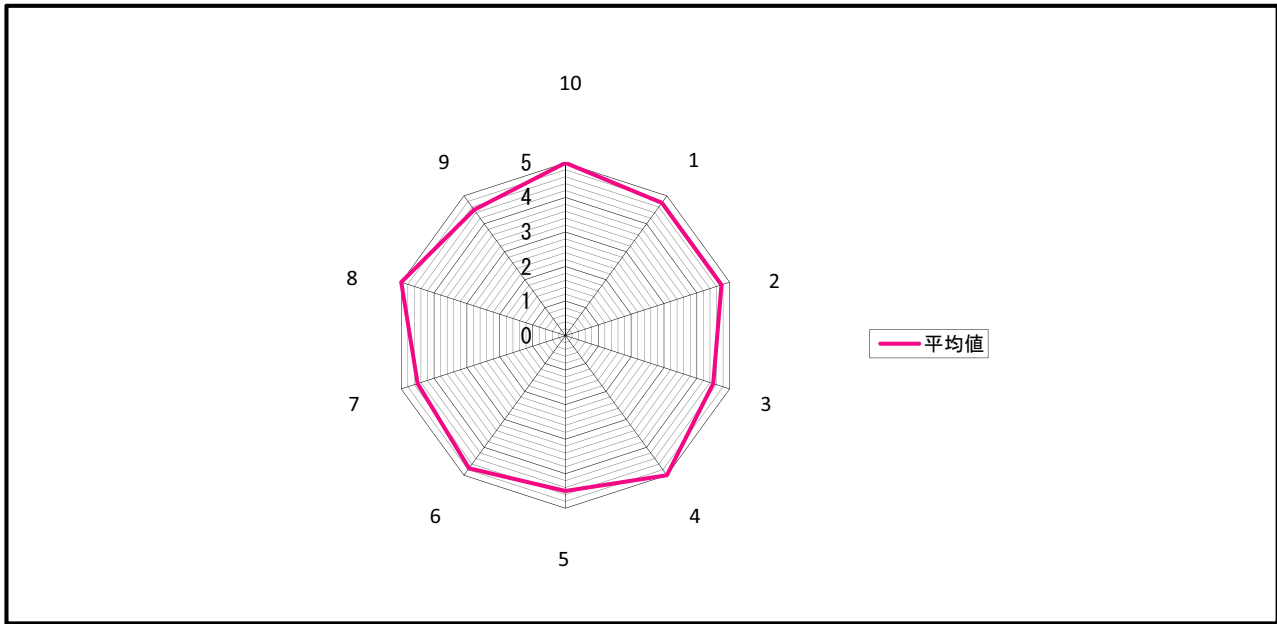
本授業は、大学院生を対象としたプログラミング演習の授業内容であり、受講者の目標に応じて主体的に課題に取り組む姿勢を重視した授業である。この授業では、与えられた課題に取り組むうえで、問題解決能力に加えて問題発見能力の習得も必要となっている。授業方法はプログラミング入門レベルの文法を習うような指導型ではなく、課題に対して多面的な観点から学習をサポートできる学習支援型である。このような授業の特性については、初回の授業で説明しており、授業評価結果では、評価値が4と5が多く、全体的に高い傾向にあったことから、それらの点がおおむね理解されたうえで受講者は授業に取り組んでいたものと考えられる。コメントには、「演習時に自由度があり、学生の創造性を制限されない点良かった」とのコメントがあり、この点も学習支援型の授業方法が学生の創造的問題解決を促進させる効果を発揮した一つの表れである可能性がある。その他、コメントのなかにはプロジェクトを作って取り組むことの提案があった。いわゆるProject-based learningの提案であり、授業の趣旨にも適していると考えられる。受講者の人数や特性によって年度毎の検討が必要になる点と評価の方法に検討が必要となる可能性があるため、今後、実践できるかどうか検討していきたい。

結果報告書

授業科目名 デジタル制御研究
 評価実施日 平成25年3月4日
 担当教員名 菊地 章

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

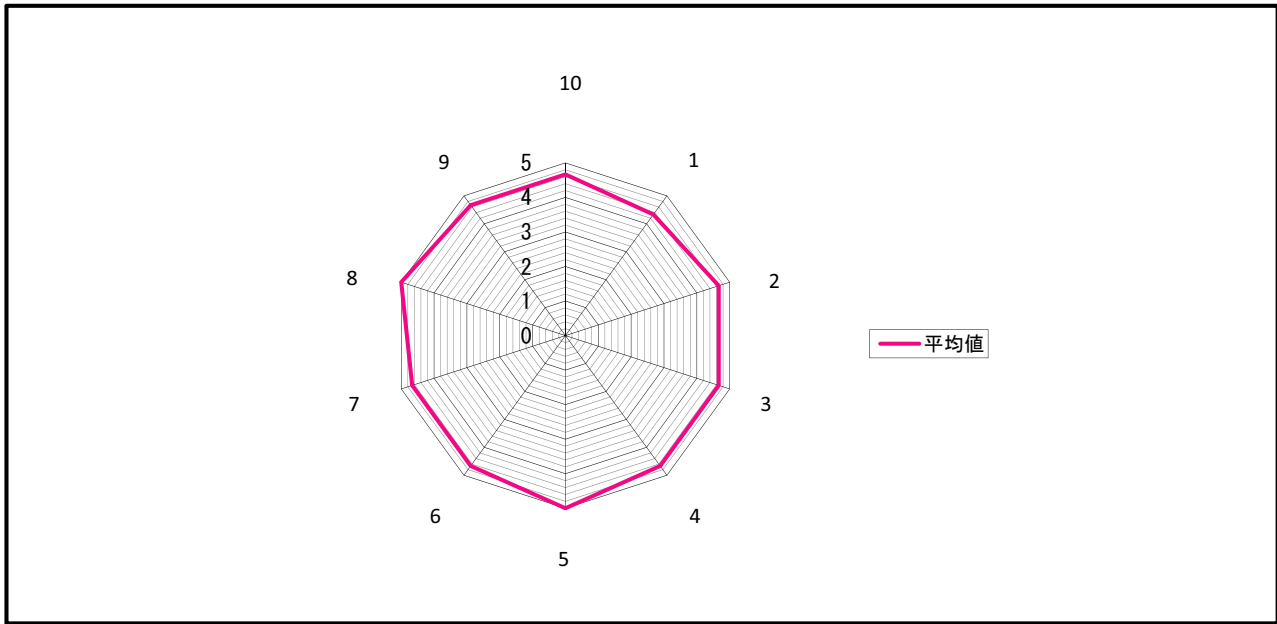
学生の受講者が4名と少人数であり、受講者の質も揃っていたため、順調に授業を進めることができた。また、実習としてMATLABを利用し、制御の数理的理論を簡単にプログラミングできる環境を利用したため、学生から理解しやすかったとのアンケート回答を得た。前半は数理的な内容で学生の反応は今一步であったが、徹底的に学生に質問して理解状況を確認しながら授業を進めたことが、結果的に高い評価を得た理由かもしれない。

結果報告書

授業科目名 情報応用演習
 評価実施日 平成25年2月8日
 担当教員名 曾根 直人

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

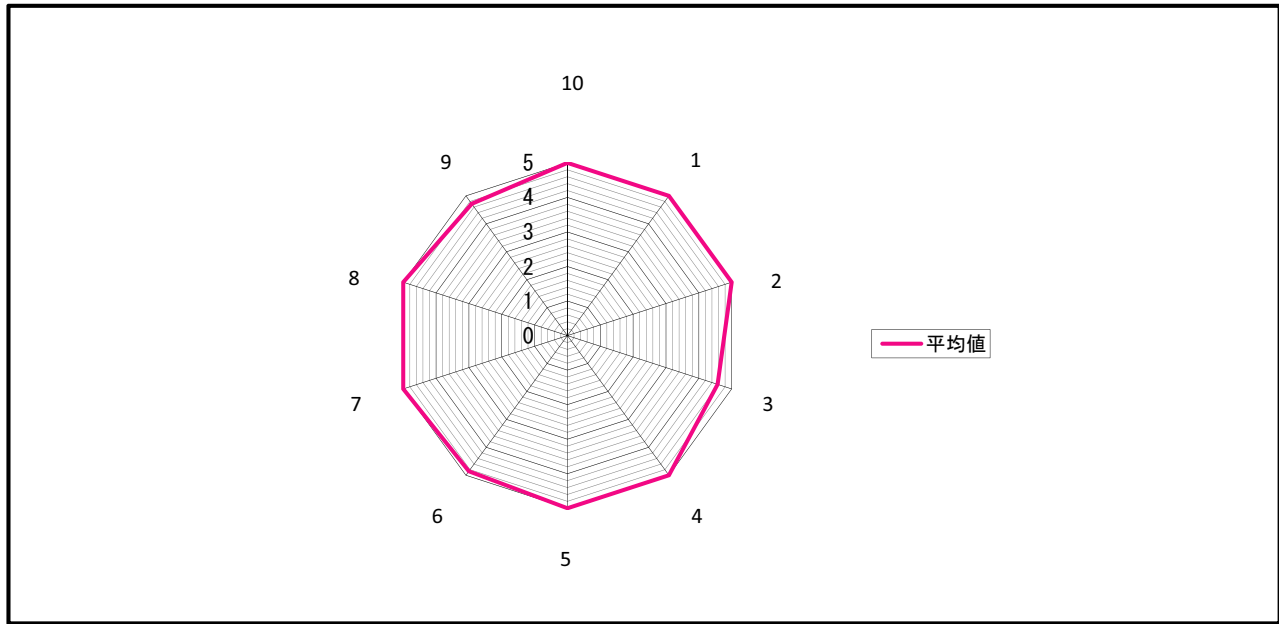
受講者が3名と少人数であったこと、ICT関連の技術開発のスピードが速いこともあり、授業では最新の技術的なトピックにも触れながら授業を行った。学生からも「ICTの知識について実際に現場に必要なことが多く得られる授業だった」という評価があり、授業の主旨をうまく理解してもらえた。改善すべき点として、「実験用の機材が少ない」という指摘があった。これはネットワーク機器を設置、利用できる部屋がなく、実験の際には機材を教室に運ぶ関係もあり、単純に増やすことができなかったためである。ネットワークに関連する技術や知識を学ぶためにも恒久的に実験用のネットワーク機材を設置できる部屋があれば授業で活用したい。

結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学演習
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 宮本 賢治

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6				1	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

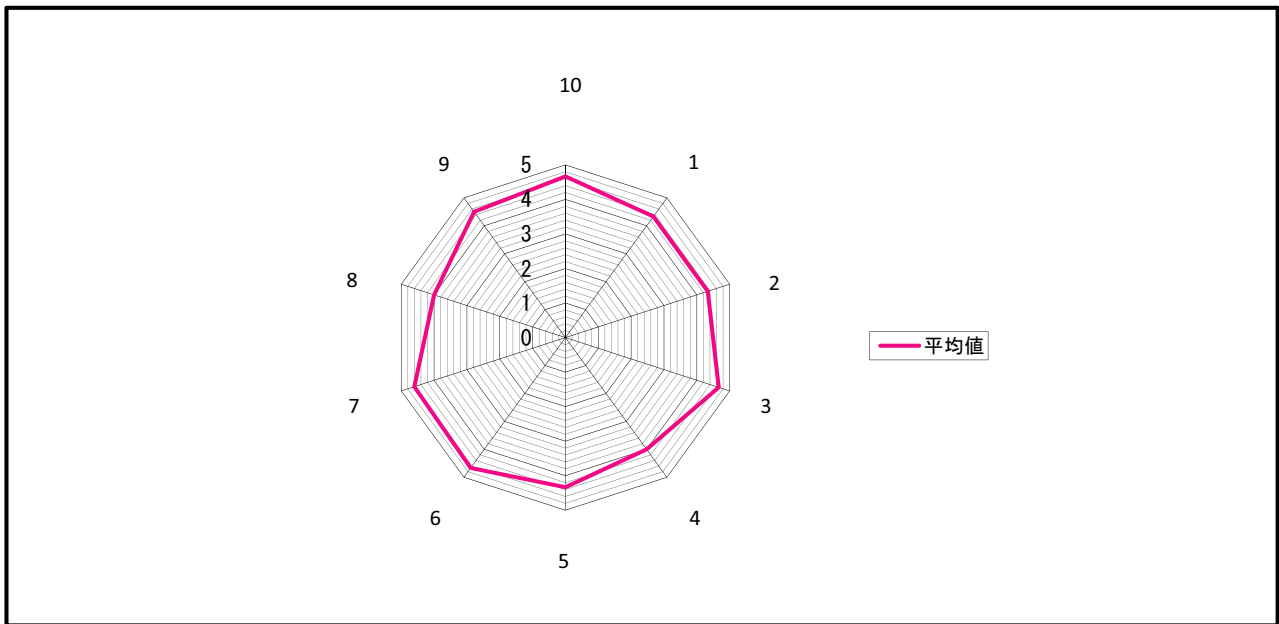
すべての質問項目で4.6以上の高評価が得られて満足できる結果となった。特に、2012年度からプログラムによる計測・制御の学習が中学校技術・家庭科の技術分野で必修化されたことは、質問項目「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」において教員養成に向けた本授業の目的や意義が理解された要因の1つであると考えられる。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

結果報告書

授業科目名 技術科教育演習
 評価実施日 平成25年2月25日
 担当教員名 尾崎 士郎, 宮下 晃一

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	3		1		4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2			1	4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2		1	1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



教員のコメント

この年度の後期には、授業担当の側に予期せぬ出来事があり、実際に授業を開始したのは12月に入ってからであった。15回の授業を確保するために、正規の時間割以外にも授業を実施し、授業計画もかなり変則的に実施することとなった。受講生には、かなりの負担を与え、申し訳なく思っている。

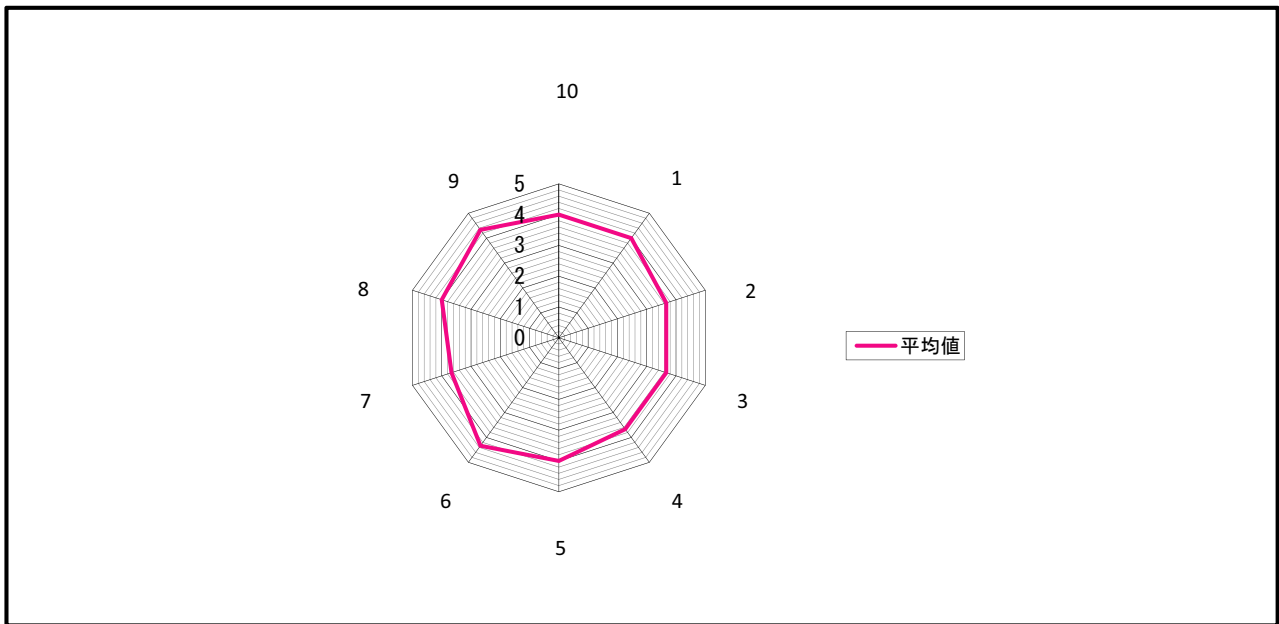
その中であって、授業評価の値がかなり高いように感じる。できるだけ最新の研究成果を取り入れて、受講者とディスカッションを行い、演習の課題を工夫したつもりである。視聴覚機器を利用しなかったこと、また成績評価に出席を加味したが、正規の時間割外での授業実施も併用したので、これらがネガティブな回答に繋がった可能性がある。今後、工夫したい。

結果報告書

授業科目名 衣生活学演習
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 福井 典代

回答者数 3 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1	1			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2	1			3.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	1			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	1			3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		2	1			3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		3				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		3				4.0



教員のコメント

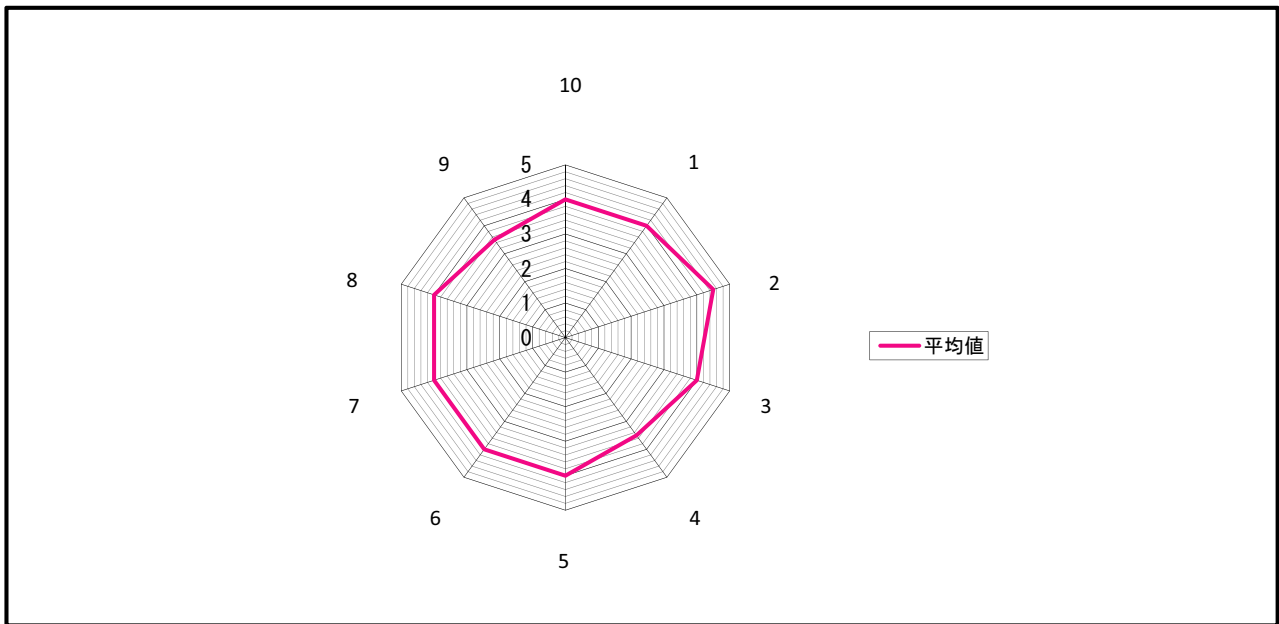
「衣生活学演習」では、当該年度の履修生の適性に応じて、学習内容を変更している。今年度は、修士論文作成時に必要と思われる統計処理の方法について演習を行った。エクセルの使い方から、簡単な計算方法を用いた統計処理の方法を理解させた。最後に、問題を提示して、その計算方法と統計的な手順について記述式の試験を行った。この授業で良かったこととして、「他の授業で統計は扱っていないので、修論等の集計時に役に立つと思った。」ということから、学生にとって有意義な授業内容であった。毎年、受講者人数も少ないので、それぞれの個人にあった進め方ができている。来年度以降も、学生の適性や要望に応じて授業内容を決定したい。

結果報告書

授業科目名 食生活学演習
 評価実施日 平成25年2月18日
 担当教員名 前田 英雄, 西川 和孝

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		1	1			3.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		2				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1			3.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		2				4.0



教員のコメント

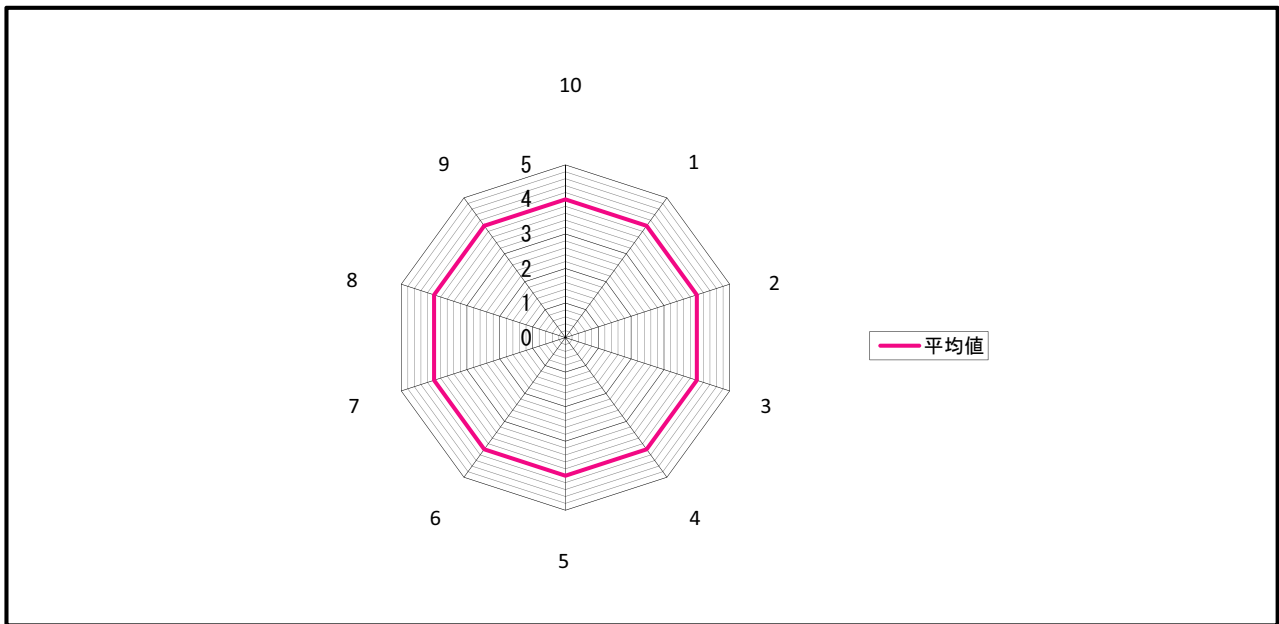
当該授業科目は、前田と西川の二人で担当した。食物の演習科目であるため、受講生が少人数(食物専門1名、被服専門1名)であった。対話形式の演習形態で、この点は受講生から好評であったと考えられる。
 総合評価(10)は4.0で概ねよかったが、成績評価の方法の説明(4)と授業に主体的・積極的に取り組んだ(9)は、今後改善すべき点であったと考えられる。

結果報告書

授業科目名 家庭科教育学演習
 評価実施日 平成25年2月7日
 担当教員名 速水 多佳子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		2				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		2				4.0



教員のコメント

学生の総合評価は4.0であり、すべての質問項目に対する回答が5段階の4であった。受講者数が2名と少なかったが、授業に満足できていない面があったのだろうと予想される。

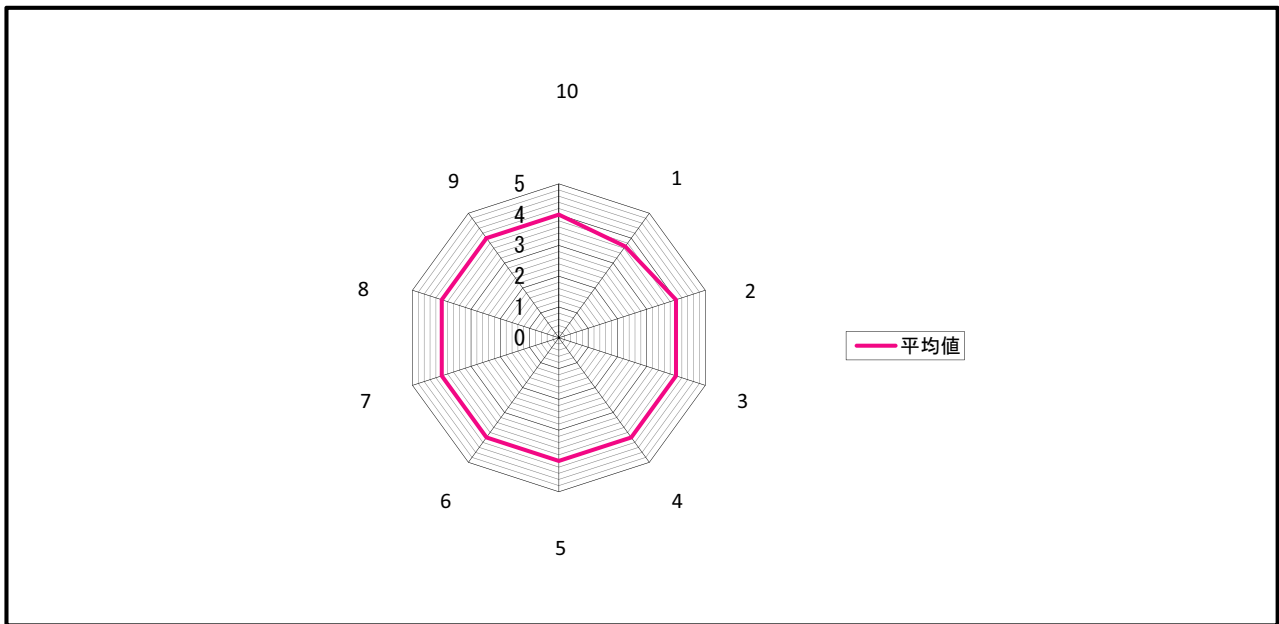
受講者の2名は、大学院修了後の進路として、中学校の家庭科教員を志望していたので、学校で活用できる教材作成を中心とした授業を行った。もう少し、発展的な内容を取り上げると、満足度が高くなったように思われる。しかし、アンケートの自由記述欄には、「自分の苦手だった単元について考えることができた。」、「今まで触れたことのない単元の授業計画が立てられたのでとてもためになった。」、「学校現場の話がたくさん聞けた。」、「プリント教材の作り方や説明の方法がわかり楽しかった。」との記述があり、興味をもって授業に取り組んだ様子がうかがえる。今後、教壇に立った時に生かせるであろう。

今後も少人数での授業となることが予想されるため、その特性を生かして、教員としての実践力の育成を図りたい。

結果報告書

授業科目名 家庭科授業・教材開発研究
 評価実施日 平成25年2月15日
 担当教員名 前田 英雄, 福井 典代, 渡邊 廣二 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1		2			3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1	1			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1	1			4.0



教員のコメント

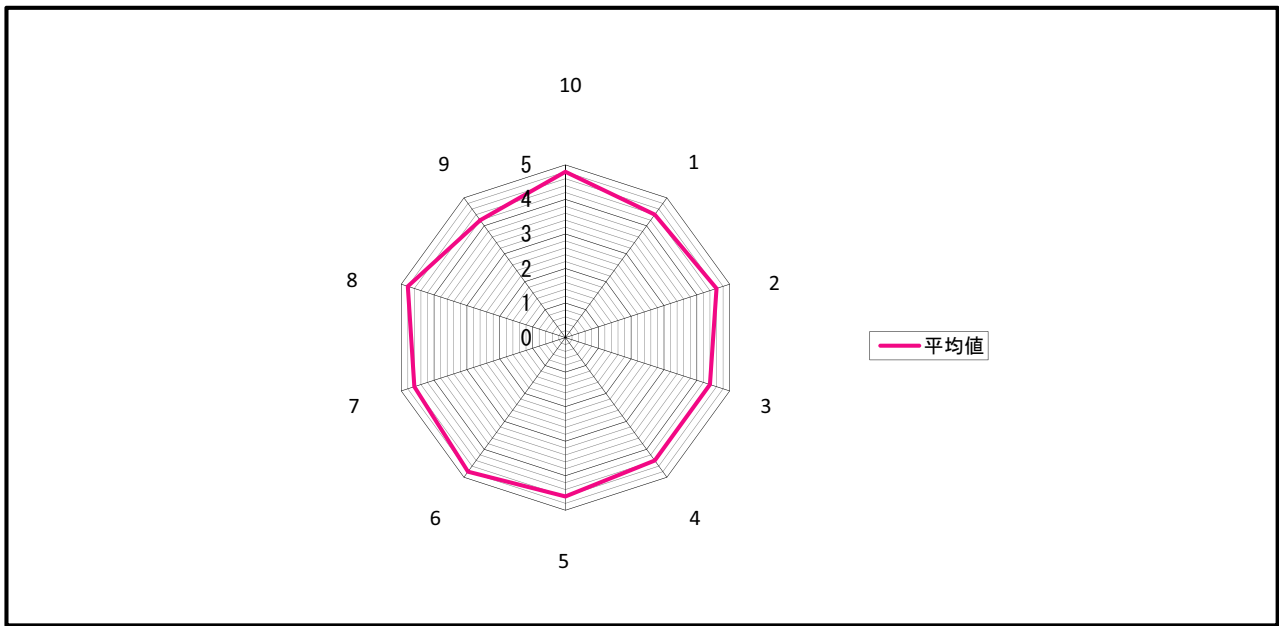
「家庭科授業・教材開発研究」では、食物領域・被服領域・家庭経営領域の3教員が授業を行っている。この授業でよかったこととして、「調理実習ではすぐためになる内容だった。実験の授業でも実際に使える内容だった。」「具体的な題材が学べ、実際の授業で生かせそうです。」というように、学生にとって有益な教材を提示することができた。改善すべき点では、「模擬授業で小学校の授業を行う意義が最後までわからなかった。」という意見があり、授業内容について説明不足な点があったようだ。感想として、「学校現場では家庭科教員が一人であることが多く、授業内容について相談する機会があまりありません。授業で様々な授業の内容について教えていただいたり、聞いたりでき、楽しい時間でした。ありがとうございました。」という意見が寄せられた。現職教員の実感のこもった感想であり、授業中も積極的に取り組んでいた。これからも教員同士の連携を密にして、授業を実施する。

結果報告書

授業科目名 国際教育協力特論Ⅱ
 評価実施日 平成25年2月4日
 担当教員名 小澤 大成, 近森 憲助

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4		1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4			1		4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4			1		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1		1		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

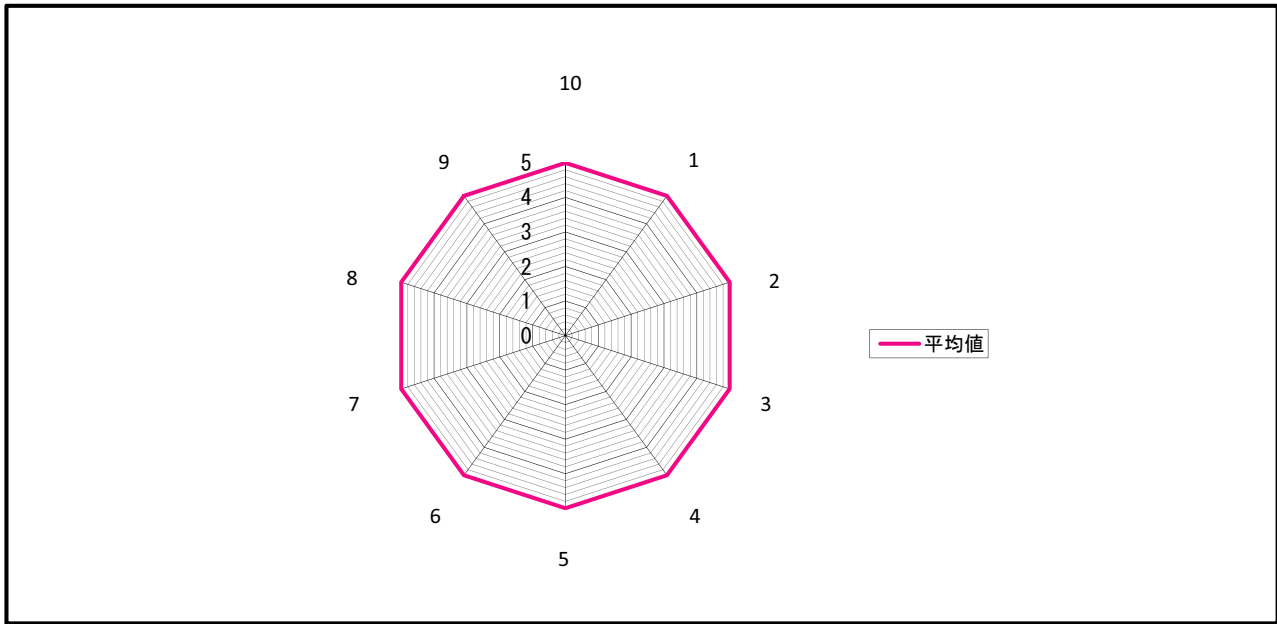
総合評価は4.8であり、おおむね満足していることがわかる。受講者は授業の良かった点として「議論を通じ、それぞれの国の経験を共有できたこと」「授業案作成を学んだこと」「教員が授業を改善する手法を理解した」「教員が授業計画の際に考慮すべき点を学んだ」があげられている。改善すべき点として「小グループでの議論を取り入れる」「改善授業のプレゼンテーションができるよう時間配分をする」が指摘された。次年度の講義に反映させていきたい。

結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論Ⅱ
 評価実施日 平成25年2月27日
 担当教員名 近森 憲助, 小澤 大成

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



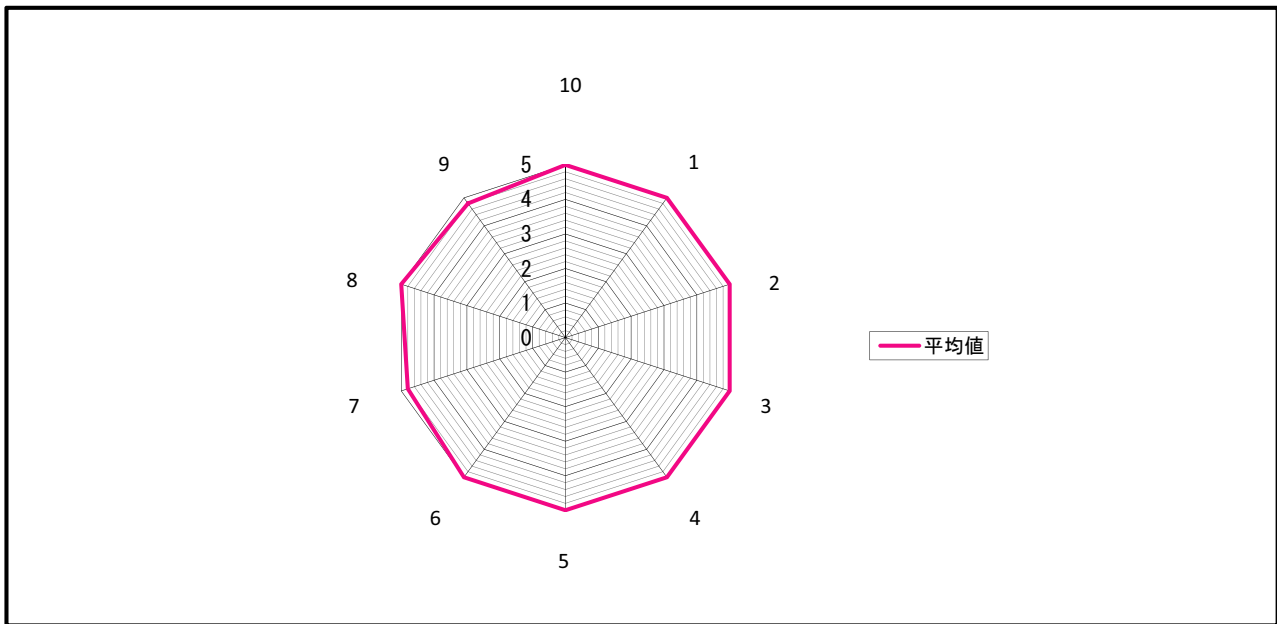
教員のコメント

評価結果を見る限りでは、受講者にとって、比較的満足度の高い授業であったものと思われる。受講者が1名であるためこれ以上のコメントは差し控えたい。

結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナーⅡ
 評価実施日 平成25年2月27日
 担当教員名 近森 憲助, 石村 雅雄, 小澤 大成, 石坂 広樹 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

受講生一人一人が、自らの課題研究について発表し、教員や受講生からコメントや質問を受け、また協議するという形で実施されているため、授業に対する取り組み姿勢は真剣で、強い関心をもって授業に臨んでいる。このようなことから、このような高い評価結果が得られたように思われる。